The National Association of Racing
地方競馬全国協会
畜産振興事業

令和5年度全国優良畜産経営管理技術発表会

《 第63回農林水産祭参加行事 》

令和５年 11 月 29 日

主　催　　公益社団法人中央畜産会
後　援　　農　林　水　産　省
　　地方競馬全国協会

はじめに

畜産会組織は、昭和30年の設立から68年にわたり、畜産経営に対する経営・技術の指導・助言（いわゆる畜産コンサルタント事業）を組織の中核的事業として実施してまいりました。

その間、多くの畜産経営が畜産会からの指導・助言により経営改善を果たしています。その中には、地域の中核的なリーダーとして活躍されている経営、先進的な技術や経営管理により全国のモデル的経営として評価されている経営、多額の負債を抱えながらも技術や財務管理の改善により健全経営として経営再建を果たし経営など多様な経営があり、地域の畜産振興に大きな役割を果たしてきました。

中央畜産会では、畜産会の指導により経営改善を図り、優秀な実績を収めている畜産経営、グループで課題解決に取り組んでいる事例などを広く求め、全国優良畜産経営管理技術発表会を開催してきました。この発表会において、優秀な事例を表彰するとともに、その経営成果とそれを支えた経営管理技術の普及拡大を図ることで、わが国の畜産の振興に資してきました。

本年度の発表会は第63回農林水産祭参加行事として開催しております。発表会で表彰した多くの経営が天皇賞をはじめ三賞受賞の栄誉に浴しており、わが国を代表する畜産経営を表彰する行事といえます。

今回、会員の方々からご推薦をいただいた事例は、いずれも優秀な実績を挙げている経営であり、それぞれ様々な工夫や努力を積み重ねられた特徴のあるすばらしい経営ばかりです。

本資料は本年度の発表経営の取り組みをまとめたものであり、畜産経営、経営支援の現場で広く活用していただけると幸いです。

発表会の開催に当たり、多大なご協力をいただきました審査委員、会員団体・関係者の皆様、そして、後援いただいた農林水産省、地方競馬全国協会に厚くお礼申し上げます

令和５年11月29日

公益社団法人　中央畜産会

令和５年度全国優良畜産経営管理技術発表会

第63回農林水産祭参加行事

主　　催　　公益社団法人中央畜産会

後　　援　　農 林 水 産 省
　　地方競馬全国協会

開催日時　　令和５年11月29日（水）　13：00～17：00

開催場所　　都市センターホテル

＝ 次　第 ＝

13：00～　　開　　会

13：05～　　業績発表

15：40～　　審査講評

16：00～　　表 彰 式

17：00　　閉　　会

目次

はじめに

Ⅰ　令和５年度全国優良畜産経営管理技術発表会審査委員 …… 2

Ⅱ　発表事例（最優秀賞・優秀賞候補）の概要 …… 3

1　牛も人もゆとりの放牧酪農
　　成田　芳樹（酪農経営・北海道広尾町） …… 4

2　経営中止の危機からの逆転
　－土づくりが生む絶品「美蘭牛　福姫」－
　　有限会社福田農場（肉用牛肥育経営・北海道本別町） …… 10

3　繁殖から肥育・加工・販売まで一貫体制による安全・安心な牛肉を提供
　－創業から変わらない原点、それは牛への愛情－
　　株式会社蔵王ファーム（肉用牛一貫経営・山形県山形市） …… 16

4　豚に真珠で付加価値を！
　－伊勢志摩の自然豊かな中で大切に育てました－
　　有限会社河井ファーム肉よし（養豚経営・三重県志摩市） …… 22

5　若き姉妹が仲間たちと挑戦する「６次産業化」と「ふれあい事業」
　－亡き父が遺した白鳳卵を守る－
　　さかもと養鶏株式会社（採卵鶏経営・奈良県五條市） …… 28

6　日本一のジャージー産地を支えたい
　－仲間とともに地に足がついた経営の実践－
　　丸山　昭博・都々子（酪農経営・岡山県真庭市） …… 34

7　大規模化と省力化に向けた三方よし
　－牛よし・地域よし・家族よし－
　　植木　俊輔・美和（肉用牛繁殖経営・大分県竹田市） …… 40

8　夫婦で築いた地域一番の堅実経営
　－夢は後継者へ－
　　株式会社上鶴畜産（肉用牛繁殖経営・鹿児島県錦江町） …… 46

Ⅲ　これまでの受賞事例 …… 53

Ⅳ　令和５年度全国優良畜産経営管理技術発表会開催要領 …… 71

協賛団体・企業一覧

Ⅰ 令和５年度全国優良畜産経営管理技術発表会審査委員

● 審査委員長

眞鍋　　昇	東京大学　名誉教授

● 審査委員（五十音順）

安藤　光義	東京大学大学院農学生命科学研究科　教授
栗原　伸一	千葉大学園芸学部食料資源経済学科　教授
小迫　孝実	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター　研究開発監
齋藤　武至	湘北短期大学　講師
寺野　貴之	農林水産省畜産局企画課　課長補佐
松田　二子	東京大学大学院農学生命科学研究科　准教授
近藤　康二	公益社団法人中央畜産会　専務理事

Ⅱ

発表事例の概要

牛も人もゆとりの放牧酪農

成田　芳樹（酪農経営・北海道広尾町）

地域の概況

北海道十勝管内の最南に位置する広尾町は、東側に太平洋、西側に日高山脈と海山に囲まれた風土豊かな地域である。重要港湾に指定されている十勝港と音調津漁港を拠点として漁業が古くから栄えてきた。親潮と黒潮が混ざり合う恵まれた条件のもと、秋サケ、シシャモ、コンブなど北海道を代表する海の幸が水揚げされている。十勝港は農業王国十勝における海の玄関口として、国内貿易では北海道と首都圏を最短で結び、農産物の積み出しや海外からは肥料、飼料原料、石炭などを受け入れる拠点となっている。

（写真１）家族写真（右から芳樹さん、妻の千果さん）

広尾町農業協同組合の農業生産額86億円／年のうち約83億円が酪農業と肉用牛生産が占めている。また農協、町では新規就農希望者

（表１）経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
平成10年				帯広畜産大学を卒業後、22歳で芽室町農協酪農ヘルパー組合に就職
平成13年				芽室町農協畜産課勤務
平成21年				芽室町農協を退職、新規就農を目指し広尾町の牧場にて実習
平成23年	新規就農 搾乳開始	初妊牛40頭導入	草地45ha	農業公社リース事業を活用し、離農跡地に就農 ４月～環境整備、粗飼料収穫等、就農準備し、９月から初妊牛を３回に分け市場より導入（計40頭）
平成24年				広尾町農協　農業振興共励会「乳質改善の部」最優秀賞受賞。その後同共励会で、最優秀賞５回、優秀賞３回を受賞
平成28年		経産牛48頭		農業公社から農場買取 乾乳舎新築
令和３年				乾乳舎に分娩監視カメラを導入 北海道農業公社主催「新規就農者優良農業経営者」最優秀賞を受賞

（表２）経営実績

経営概要	労働力員数（畜産・2000hr換算）	家族・構成員	1.0人
		雇用・従業員	0.0人
	経産牛平均飼養頭数		45.0頭
	飼料生産	実面積	4,520a
	年間総販売乳量		396,558kg
	年間子牛販売頭数		33頭
	年間育成牛販売頭数		1頭
	年間経産牛販売頭数		3頭
収益性	所得率		23.0％
	経産牛１頭当たり生産費用		907,252円
生産性	牛乳生産	経産牛１頭当たり年間産乳量	8,812kg
		平均分娩間隔	13.2ヵ月
		受胎に要した種付回数	2.8回
		平均産次数（期首）	4.7産
		平均産次数（期末）	5.1産
		牛乳１kg当たり平均価格	102.9円
		牛乳１kg当たり生産費用	103.0円
		乳脂率	3.99％
		乳蛋白質率	3.32％
		無脂乳固形分率	8.73％
		体細胞数	6.1万個/ml
		借入地依存率	0.0％
		飼料TDN自給率	69.9％
		乳飼比（育成・その他含む）	22.6

の受け入れを積極的に行っており、国や道の支援制度も活用してさまざまな就農サポートを行っている。

経営・活動の推移

三重県津市のサラリーマン家庭出身。北海道の自然に憧れ、動物と触れ合う実習があること等から興味を持ち、帯広畜産大学畜産学科に進学した。ラグビー部に所属し、当時はラグビーに夢中で自分が就農することなど全く考えていなかったが、学生時代に搾乳やサブヘルパーのアルバイトを経験し、酪農の面白みを感じていた。

卒業後は芽室町農協酪農ヘルパー組合に３年間勤務し、その後、芽室町農業協同組合へ就職、畜産課で肉用牛部門を担当した。農協在職中、機会を得て足寄町で何件かの放牧酪農家を訪問して衝撃を受けた。日中、牛舎には牛がおらず、また、奥様がチーズ作りを趣味にしていたり、牛も人ものびのびとし、とても楽しそうにしている姿を目の当たりにした。酪農家は１日中働く大変なイメージが強かったが、カルチャーショックを受けると同時に、強く印象が胸に刻まれ、これだ！という理想の酪農像ができた。

【安定した生産成績】

経産牛１頭当たりの年間産乳量は、約9,000kgと安定している。冬期は１番草のサイレージの他、平均でビートパルプ2.1kg、圧片トウモロコシ2.3kg、配合飼料2.3kgを与え、放牧期もビートパルプ3.5kg、圧ぺんトウモロコシ２kg、配合飼料0.6kgを給与している。これら濃厚飼料の給与は朝夕の搾乳の前後、乳量に応じ６段階に分けて行い、放牧主体の飼養としては高い乳量を実現している。また冬でも１日４～５時間はパドックに出して運動させ、草架を３台置き２、３番草のロールグラスを自由に採食できるようにしている。

経営・技術の特色等

【経営の概況】

酪農専業経営として、放牧主体の飼養体系を確立し、現在は経産牛45頭、育成牛４頭を飼養している。生乳生産量は年間約400ｔとなっている。

牛舎は48頭スタンチョン方式、放牧主体の飼養体系を確立し、春から秋にかけては放牧主体、雪の降る冬季間はパドックで運動、かつロールグラスを腹いっぱい食べられるようにしている。快適な環境を整えることで、牛も人も常に衛生的でリラックスできるよう心がけている。

（写真２）冬場のパドック

（写真３）リラックスした牛たち

（写真４）ロールグラス

【放牧地と採草地の管理】

草地42haのうち27haは採草地、残り15haは放牧地として５牧区に分けて管理している。放牧期間は４月下旬～11月中旬（５月中旬～９月下旬は昼夜放牧。暑熱時は夜間のみの放牧）、放牧草は短草利用を心がけ、秋以降も生育状態が良く栄養価、嗜好性とも高いペレニアルライグラスを就農以来追播し放牧地の植生改善を図ってきた。だが近年、降雪が少なかったことで枯れてしまったため、再度植生改善にチャレンジしている。

採草地は面積の２／３に当たる18haにオーチャードグラスを追播し、これを３番草まで収穫している。以前はチモシー主体で２回／年収穫だったが、収穫期の気候条件と牧草の栄養価を考慮して草種構成を変更し、より良質な粗飼料を給与できるようにした。３番草の嗜好性は非常に高く、パドックの草架に置くとしっかり食い込んでくれるので、牛舎内で給与するロールグラスの量も少なくて済み、労力軽減にもなっている。

【長命連産】

牛群の平均産次数5.1産は北海道平均の2.5産を大きく上回る。就農時に初妊牛として購入した牛が未だ６頭健在であり、今年で12産目を果たした牛もいる。高い観察力と栄養管理技術が、健康でストレスの少ない牛群を実現している。その結果、更新頻度が低く抑えられるので、後継牛の頭数も非常に少なくて済んでいる。授精作業は自ら行っているが、ホルスタイン種を授精するのは年間10頭ほどで他は和牛とのF_1を生産しヌレ子で販売している。飼養規模の割に個体販売が多いことが経営面に与える恩恵は大きい。

【牛の行動を意識した牛舎作業】

牛の能力を引き出すために、毎日時間通りに搾乳を行うようにスケジュール管理をし、作業の流れが一定になるようにパターン化を図った。牛の行動を意識しなるべく人の関与を減らすことで効率的な作業が可能になった。例えば、放牧から帰ってきた牛は牛舎につないで待たせることなく飼料の給与タイミングを一定にすることでふん尿の排せつタイミングをコントロールし、その後の牛床の除ふん作業を効率的に行えるようにしている。また、牛舎への牛の出入りや搾乳中など作業しながら１頭ずつ牛を観察することで、早めに牛の変化に気づけるようになる等、牛が常に健康でいられるための工夫を行っている。

【衛生的な牛舎環境】

年間を通じてほぼ毎日牛を牛舎から出すことで、牛が居なくなった牛舎を毎回リセットする意識で、牛舎内の衛生管理を行う。年間を通して湿気の少ない環境を目指し換気と乾燥を徹底し、ゼオライトやドロマイト石灰を牛床に散布、敷料をたっぷり入れ乳頭、乳房

（写真５）長命連産

（写真６）放牧から帰ってきた牛

を綺麗に保つ。牛舎内の壁は定期的に石灰塗布を行い、低い位置に設置したLED蛍光灯で牛舎内はとても明るいため、搾乳作業時も目視しやすく乳頭清拭を丁寧に行うことができる。泌乳生理に沿った搾乳方法で乳頭口を守ることで、就農当初より乳房炎が減少してきている。

【良質乳へのこだわり】

広尾町農協主催の広尾町農業振興共励会において乳質改善の部における３つの審査基準（年間平均乳成分が全固形分率12.6％以上、毎旬の細菌数2,000個以下、毎旬の細胞数が30.0万個以下）を全てクリアし、就農以来、最優秀賞６回・優秀賞３回の受賞を果たしている。

【分娩作業の工夫】

分娩管理の失敗で子牛を死なせたこともあり、作業動線等の改善を図った。分娩見回りが効率的でなく、夜間見回りが負担であったことから、乾乳舎には分娩監視カメラを導入した。これにより、スマートフォンから定期的に牛の様子を確認できるようになった。牛舎見回りの労力が軽減されるとともに、分娩の様子が手元で分かるので事故を未然に防ぐことに役立っている。

地域に対する貢献

【地域への協力】

北海道大学、帯広畜産大学、酪農学園大学

（写真７）衛生的な牛舎環境

（写真８）視察研修の受入れ

の酪農サークルの視察研修を受け入れ、経営的、技術的な相談にものっており、後輩たちの就農支援を行なっている。最近では、農協職員時代に関わりのあった牧場の子息が、同じような経営形態の牧場を実現したいと新規就農に取り組み、それに対してアドバイス等を行い、現在就農５年目を迎えている。

女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取り組み

【家族との時間】

家族との時間は何よりも大事にしたい。そのためにも酪農ヘルパーに任せる機会を定期的に設けている。月に少なくても２回はヘルパーを活用し、家族との時間と心身のケアに充てている。また年に数回はまとめて休みを取り、妻の趣味であるドッグスポーツの大会にも参加している。

【女性活躍】

新規就農から単身での時期が長かったが、2017年に結婚し、妻と二人で牛舎仕事ができるようになった。妻は農業系の大学を卒業し、農林水産省に１年、家畜改良センターに５年務めていたこともあり、酪農経験は浅かったものの牛舎内での作業に慣れるのに時間はかからなかった。搾乳や子牛の哺乳、育成牛の餌やり、育成牛舎の除ふん、収穫作業のトラ

（写真９）妻の趣味の時間も大切に

（写真10）ゆとりの放牧酪農

クターの運転も担当している。現在は育児中につき一人作業が多くなったが、また二人で楽しく酪農をする日が待ち遠しい。

将来の方向性

【今後の経営計画】

就農当初より一家族が食べていけるゆとりある小規模酪農経営を目標としていることから、人も牛もゆとりを持った酪農を基本とし、規模拡大は視野にない。当面は現状の規模を維持しながら借入金の償還を進め、状況を見ながらもう一段規模の縮小を図りコンパクトな酪農を目指したい（経産牛35頭程度）。そのためには日頃より動線を含めた作業効率の向上を心がけ無駄を減らし、また牧場内にある資源を有効活用してコスト低減に努める。

また、輸入穀物や肥料、石油製品の世界的な高騰、為替の変動などに経営が大きく左右されることのないよう、できるだけ海外依存度を減らし、自給粗飼料と自家産堆肥を基本とした無駄の少ない経営を目指していきたい。

今は妻に家事と育児を任せ、牛舎仕事はほぼ一人で行っており時間的な余裕がないが、今後は新規就農希望者などの実習生を受け入れ労力の軽減と時間的余裕を持てるようにしたいと考えている。

経営中止の危機からの逆転

ー土づくりが生む絶品「美蘭牛　福姫」ー

有限会社福田農場（肉用牛肥育経営・北海道本別町）

地域の概況

㈲福田農場の所在地である北海道本別町は、十勝地方の北東部の内陸に位置する緑豊かな美しい町で、人口は6,200人となっている。主要な産業は農業や林業、工業であり、農業においては小麦、豆、甜菜、酪農、肉用牛等の生産が盛んである。特に豆が有名で「日本一の豆のまち」といわれ高く評価されている。

（写真１）左から妻の由美さん、代表の博明さん、従業員の星さん

（表１）経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
平成元年	酪農　肉用牛育成 豆　甜菜　小麦	経産牛40頭 乳雄もと牛300頭	35ha	北海道文理科短期大学卒業後、実家で就農
平成３年				㈲福田農場設立（法人化）
平成６年	肉用牛育成 豆　甜菜　小麦	乳雄・交雑種 もと牛600頭		酪農中止 肉用牛育成を中心とする
平成７年				大家畜経営活性化資金の借入
平成17年	肉用牛育成 豆　小麦			会社の代表に就任 体調不良により入院
平成18年	肉用牛肥育 豆　小麦	乳雄・交雑種 もと牛600頭 乳雄肥育牛90頭		肥育牛舎新築 SRU（Soil Research Union）加入
平成22年		乳雄・交雑種 もと牛600頭 乳雄肥育牛270頭	45ha	肥育牛舎２棟新築
平成25年		乳雄・交雑種 もと牛600頭 肥育牛500頭	65ha	肥育牛舎新築 交雑種の肥育開始 堆肥を肥料登録する
平成27年		乳雄・交雑種 もと牛700頭 肥育牛900頭		「美蘭牛　福姫」を商標登録。レストラン・精肉店で販売 ほんべつ肉祭りを立ち上げ 北海道酪農畜産協会によるモニタリング開始 牛舎が過密だったので、頭数を減らす
令和２年		交雑種 もと牛500頭 肥育牛700頭		HIS（旅行会社）と取引開始 全国のレストラン、ホテルに福姫を提供する

（表２）経営実績

経営の概要	労働力員数（畜産・2000hr換算）		家族・構成員	2.2人
			雇用・従業員	1.1人
	飼料生産	実面積		6700a
	肥育牛平均飼養頭数	肉用種		0頭
		交雑種		1213.0頭
		乳用種		0頭
	年間肥育牛販売頭数	肉用種		0頭
		交雑種		678頭
		乳用種		0頭
収益性	所得率			11.9％
	出荷肥育牛１頭当たり生産費用			590,697円
生産性	肥育（品種・肥育タイプ）	（交雑種雌若齢）	肥育開始時	日齢	41日
				体重	54kg
			出荷時	日齢	765日
				体重	737kg
			平均肥育日数		724日
			販売肥育牛１頭１日当たり増体重(DG)		0.943kg
			対常時頭数事故率		2.6％
			販売肉牛１頭当たり販売価格		736,090円
			販売肉牛生体１kg当たり販売価格		999円
			肉質等級３以上格付率		52.1％
			もと牛１頭当たり導入価格		113,844円
			もと牛生体１kg当たり導入価格		2,108円

気候は十勝特有の大陸性気候で、夏は35度以上になる一方、冬の寒さは厳しく氷点下25度を下回ることもあり、寒暖差が大きい。晴天日数が多く、道内では積雪量の少ない地域である。

経営・活動の推移

・短期大学卒業後、実家に就農～法人化

博明氏は平成元年に北海道文理科短期大学を卒業後、酪農と肉用牛、畑作の複合経営を営む実家に就農した。当時はホルスタイン経産牛40頭、ホルスタイン去勢もと牛300頭を飼養し、小麦、金時豆、小豆、甜菜等の多様な作物を生産していた。労働力は家族のみで、毎日の仕事は大変だったが、農業にやりがいを感じていた。

平成３年には家計と事業を分離して経営状況を明確化するために、㈲福田農場を設立し、父が代表者、博明氏は役員に就任した。

・経営中止の危機から肉用牛部門の拡大を決断

父は本別町農業協同組合の理事と町議会議員を務める立場であり、周辺の離農者９件の負債を肩代わりして農地の引受を行っていた。

平成６年に所有地の評価額見直しが実施されたことにより債務超過となり、農協から経営中止の勧告を受けた。一時は廃業も考えたが、生産状況は良好であり、地元で多大な貢献をしてきたことから、保証人を３人つけることで経営が存続できることになった。

負債の返済のためには売上高の増加が必須であることから、手間のかかる酪農を中止し、肉用牛部門の拡大を決断した。毎日生乳を生産できる酪農とは対照的に、肉用牛経営は売上が安定しないため周囲からは反対されたが、限られた労働力で多くの頭数を扱うことができる肥育もと牛販売に活路を見出した。

平成７年から平成11年には既往負債を大家畜経営活性化資金に借り換えし、償還圧を軽減することで、キャッシュフローが黒字化し、経営が安定した。毎年着実に負債を返済し、令和元年には大家畜資金を完済している。

・突然の父の死、自身の体調不良で考えたこと

平成17年に父が交通事故で亡くなり、博明氏が会社の代表となった。父の突然死による精神的ショックに加え、仕事量が急増して肉体的な疲労も重なり、博明氏は体調を崩して入院することになった。病院のベッドの上で、今後に思いを巡らせていると、長年の夢だった「自分で育てた牛を食べてもらいたい」という気持ちが溢れ、肥育に取り組むことを決意した。

・念願の肥育開始も、成績は低迷

平成18年に肥育牛舎１棟を新築し、ホルスタイン雄の肥育を開始した。今まで肥育もと牛で販売していた一部の個体を保留し、段階的に肥育牛の頭数を増やし続け、最終的に全

（写真２）哺育牛

（写真３）育成牛

（写真４）肥育牛

頭肥育出荷になった。

その後、平成22年と平成25年にも肥育牛舎を建て、交雑種の肥育も開始した。発酵飼料を与えて肥育し、肉の味は高く評価されていたが、従来の格付基準では単価が低く、枝肉重量も小さかった。１頭当たりの利益が低いため、頭数を増やすことにより収益を確保することを目指し、一時総飼養頭数は1,600頭まで増加した。

・関係者一丸となって肥育成績改善を実現

平成27年に日本政策金融公庫、十勝畜産農協および北海道酪農畜産協会による肉用牛ABL協定に基づき飼養牛を担保にして運転資金を融資され、飼養牛のモニタリングと経営助言を受けることとなった。モニタリング開始当初は肥育成績が悪く、酪農畜産協会から牛舎の過密状態が成績低下の一因だと指摘され、1,200頭まで飼養頭数を減らした。

また、十勝畜産農協の紹介により、肥育牛の販売先が１社から３社に拡大し、取引単価も向上した。

平成29年からはロース芯が小さく皮下脂肪が厚い状況を改善するため、酪農畜産協会と飼料会社と協議して、飼料給与内容の見直しを行い、平成29年の平均枝肉重量439kg、ロース芯面積46.1cm^{2}から令和元年には枝肉重量486kg、ロース芯面積52.1cm^{2}と大幅に肥育成績は改善され、収益も劇的に向上した。

経営・技術の特色等

・経営概要

福田農場は、交雑種雌の肥育牛1,200頭に加えて、小麦16haと大豆９haを生産している。また、自給飼料はチモシー主体の牧草43haとデントコーン24haを作付している。畜産に従事する労働力は、代表の博明さんと母、従業員１人の計３人で、妻・由美さんは事務を担当している。

子牛は岩手県雫石町の全農岩手家畜市場から生後１か月で導入している。岩手から導入する理由は、長年付き合いがあり福田農場の環境に合った牛が多いためである。

導入後は、３か月齢まで哺乳ロボットが導入された哺育舎で飼養している。哺育期の体調管理を徹底しており、調子の悪い子牛には抗生物質の静脈注射等の早期治療を行っている。年間事故率は2.64％であり、交雑種雌の全道平均5.92％よりも低い。

３か月齢以降は順次育成舎から肥育舎で飼養し、平均25か月齢で出荷している。年間出荷頭数670頭の平均枝肉重量は485kgと交雑種雌としては大きい。

・土づくりへのこだわり

福田農場では「人間も牛も健康なものを食

（写真５）堆肥

（写真６）肥料

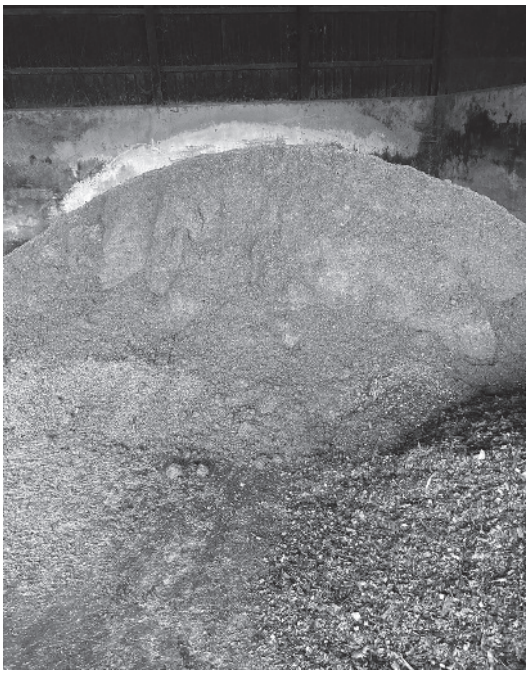
べれば健康に育つ」という考えの下、土のミネラル、微生物バランスを整える取り組みをしている。

土づくりを真剣に考えたきっかけは、経営不振農家の土地を引き受けたことにより、条件の悪い農地が多く、作物が育ちにくいからであった。

平成7年から土壌分析を開始した。当時の土地は化学肥料の過剰投入により、ミネラルバランスが崩れていたが、堆肥を利用し、畑ごとに足りない栄養素を補う管理を地道に継続した結果、３～５年すると少しずつ成果が見えてきた。

平成18年には北海道SRUに加入した。SRUとは、Soil Research Union（土壌研究組合）の略で、オーストラリア在住の農業コンサルタントのエリック川辺氏の提唱する土づくりを実践する農家のグループである。SRUの特徴は、微量元素まで網羅した精密な土壌分析を実施し、必要な成分のみに絞った施肥設計をすることである。畑ごとに土壌サンプルを採取し、アメリカのラボで分析を実施している。施肥設計は畑によって異なり、作業の手間はかかるが､肥料と農薬の使用量は半減し、殺虫剤は一切使わなくなった。

堆肥づくりにも力を入れていて、牛ふんに木くず、枯草菌を混ぜ合わせ、長期間熟成発酵させている。平成25年には農林水産省に肥



（写真７）オカラサイレージ

（写真８）デントコーンサイレージ

料登録し、自社で使うだけでなく、「美蘭別の土にこだわる農家が作った肥料」という商品名で販売している。

・発酵飼料の給与

オカラとデントコーンのサイレージを給与している。オカラサイレージは地元の飼料会社から購入しており、嗜好性が高い。デントコーンは完熟に近い状態で刈り取り、低水分で発酵させることで、デンプン質が高くなり、濃厚飼料を削減できる。

発酵飼料を給与することにより、牛が健康になり、美味しい牛肉に仕上がる。また、ふんの状態が良くなり、敷料の交換頻度を減らすことができる。

・自社ブランド「美蘭牛　福姫（びらんぎゅうふくひめ）」

平成27年に商標登録した。農場が所在する美蘭別地区と、福田農場の「福」、雌牛のみのため「姫」を組み合わせて名付けている。

赤身の旨味が強く脂に甘みがあって美味しいと好評をいただいており、今まで食べた牛肉で１番美味しいと言ってくださるお客様も多い。

福姫は「ほんべつ肉まつり」でも出品され、地元の方にも愛されている。また、令和２年には旅行会社HISのプロジェクトに採択され、環境循環型の飼育方法について情報発信し、ECサイトでの販売も行っている。

現在、道内外の様々な高級レストランやホテルで福姫が提供されており、シェフが農場の視察に訪れることも多い。

・作業の省力化

福田農場では、少ない労働力で適切に管理するため、作業の内容によりメリハリをつけ、労働効率を最大化している。

例えば、牛の管理では事故が発生しやすい哺育牛には手厚く、育成～肥育中期は手をかけ過ぎず、肥育後期では転倒事故防止のため見回りをしっかりしている。また、子牛は哺乳ロボットでミルクを飲ませ、離乳以降の給餌作業はほとんど機械で行う等、省力化のための設備に投資している。

地域に対する貢献

博明氏は本別町農業委員、農業推進会議構成員、美蘭別自治会長等を務め、地域のリー

（写真９）福姫PR写真

（写真10）レストランで提供される様子

ダーとして活躍している。

中小企業同友会の役員でもあり、異業種との交流も推進してきた。さまざまな講師を呼んだ勉強会やイベントを企画し、地域での信頼も厚い。

女性の活躍・働きやすい現場環境づくりの取り組み

・女性の活躍

現在、博明氏の母は軽作業、妻・由美氏は事務を行っており、無理のない範囲で働いている。

・働きやすい職場づくりの取り組み

平成28年から地元出身の20代男性従業員１名を雇用している。牛が大好きで、熱心に仕事をしてくれている。

福田農場では就業規則を制定し、農繁期以外は休暇も取得しやすい体制を作っている。また、給与水準は同業他社より高い。

従業員に対して心がけていることは、仕事しやすい環境を整備することで、特に安全性には十分配慮している。

将来の方向性

・次世代への継承

博明氏は現在53歳とまだ若く、後継者は未定である。娘が２人いるが、札幌で一般企業に勤めており、経営を引継ぐ意思はない。

・今後の経営計画

現在の飼養規模を維持し、より美味しい牛を目指している。

福姫は今後もさまざまなお店で扱っていただき、多くの人に食べてもらうために、土づくり・牛づくりの取り組みを情報発信する。

繁殖から肥育・加工・販売まで一貫体制による安全・安心な牛肉を提供

ー創業から変わらない原点、それは牛への愛情ー

株式会社蔵王ファーム（肉用牛一貫経営･山形県山形市）

地域の概況

㈱蔵王ファームが所在する山形市は、山形県の中部東の仙台市に隣接し、県庁所在地で中核市に指定されている。気候は盆地特有の夏暑く冬は寒い。農業の状況は米、野菜、果実、畜産がバランスよく生産されており、農業産出額は118億円と県内有数の農業産出額を誇っている。畜産は、乳用牛７戸で200頭、肉用牛10戸で1,200頭が飼養されている。

経営・活動の推移

【生産から販売までの一貫体制の取組み】

初代社長の父（現：高橋グループ会長）の実家は酪農家であったが、父は、少年飛行兵として戦争を体験し、戦後の食糧難の状況を見て、元気と笑顔が出るには肉を食べるのが一番良いという思いから昭和23年に創業、24年に「高橋牛肉店」を開店した。これが、現在の肉用牛経営の原点となっている。

新鮮で美味しい肉を安定的に消費者に届けるためには、自ら牧場を所有する必要があると考え、養豚経営から開始し、昭和40年に山形市元木に肥育牛舎を建設し、肉用牛経営に転換し、その後、昭和44年に山形市蔵王上野に現㈱蔵王ファームの基礎となる山形蔵王牧場を建設した。

昭和55年に宮城県白石市に宮城蔵王牧場（現㈱蔵王高原牧場）を開設し、繁殖部門（100頭規模）を導入し、繁殖・肥育一貫経営に転換した。その後、牧場の形態は、現地に密着し、雇用確保を図るため現地法人に移行した。

（写真１）従業員集合写真(前列右から３番目が経営主(社長)の髙橋勝幸さん、左隣が後継者の勝敬さん)

昭和60年、現社長が大学卒業後、大手食品メーカーの勤務を経て、高橋畜産食肉㈱の牧場部門担当として法人就農した。

父から会社の更なる発展のための改善を任せられた現社長は、会社の設立目的である「新鮮で美味しい牛肉を消費者に提供」の実現のため、①牧場部門の拡大、②グループ会社と連携し、生産から加工・販売までの一貫体制の実現、③持続可能な経営の推進に取り組んだ。

経営・技術の特色等

【規模拡大と生産技術の高い経営を実現】

現社長の就農時の経営規模は、肥育は黒毛和種460頭、ホルスタイン種240頭、繁殖の黒

（表１）経営の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和24年				・先代社長の父が創業し、「高橋牛肉店」を開店
昭和40年	肉用牛肥育	黒毛和種30頭		・山形市元木に牛舎を建設し、黒毛和種肥育(総称山形牛)経営を開始
昭和55年	肉用牛肥育	黒毛和種430頭、乳用種240頭	デントコーン　4.0.0ha	・宮城県白石市に「宮城蔵王牧場」を開設し、黒毛和種の繁殖及びホルスタイン種の肥育を開始
	肉用牛繁殖	黒毛和種30頭		
昭和60年	肉用牛肥育	黒毛和種460頭、乳用種240頭	デントコーン　4.0.0ha 放牧地　10.0ha	・現社長が大学卒業後、大手食品製造メーカー勤務を経て、高橋畜産食肉株式会社（牧場部門）に入社（法人就農） ・繁殖牛の放牧を開始
	肉用牛繁殖	黒毛和種30頭		
昭和62年	肉用牛肥育	黒毛和種460頭、交雑種480頭	デントコーン　54.0ha 放牧地　10.0ha	・ホルスタイン種肥育を交雑種に転換
	肉用牛繁殖	黒毛和種100頭		
昭和63年	肉用牛肥育	黒毛和種560頭、交雑種480頭	デントコーン　54.0ha 放牧地　10.0ha	・畜産部門を㈲蔵王ファームとして高橋畜産食肉㈱から独立
	肉用牛繁殖	黒毛和種100頭		
平成13年	肉用牛肥育	黒毛和種470頭、交雑種1,600頭	放牧地　60.0ha	・㈲蔵王ファーム」から宮城蔵王牧場が「㈲蔵王高原牧場」として独立 ・交雑種の自社オリジナルブランド「蔵王牛」を商標登録
	肉用牛繁殖	黒毛和種100頭		
平成17年	肉用牛肥育	黒毛和種937頭、乳用種９頭、交雑種1,578頭、外国種438頭	放牧地　60.0ha	・宮城県川崎町の牧場を取得し、「㈲蔵王高原牧場川崎育成牧場」として開設
	肉用牛繁殖	黒毛和種113頭		
平成18年	肉用牛肥育	黒毛和種777頭、乳用種４頭、交雑種1,926頭、外国種545頭	放牧地　60.0ha	・南陽市金山の牛舎（米澤農場）を購入し、黒毛和種（米沢牛）の肥育を開始
	肉用牛繁殖	黒毛和種137頭		
平成20年	肉用牛肥育	黒毛和種1,121頭、乳用種２頭、交雑種 2,510頭、外国種20頭	放牧地　60.0ha	・山形市下田の農場を購入（㈲蔵王ファーム山形第２農場）し、黒毛和種（山形牛）を規模拡大
	肉用牛繁殖	黒毛和種197頭、交雑種29頭		
平成22年	肉用牛肥育	黒毛和種1,121頭、交雑種2,238頭、乳用種22頭、外国種８頭	放牧地　60.0ha	・黒毛和種の自社ブランド「蔵王和牛」を商標登録
	肉用牛繁殖	黒毛和種303頭、交雑種20頭		
平成23年	肉用牛肥育	黒毛和種1, 095頭、交雑種2,085頭、乳用種32頭、外国種８頭	放牧地　60.0ha	・東日本大震災による東京電力の放射能事故の影響で宮城蔵王牧場及び川崎育成牧場の放牧を一時停止
	肉用牛繁殖	黒毛和種328頭、交雑種５頭		
平成27年	肉用牛肥育	黒毛和種813頭、乳用種２頭、交雑種2,331頭	放牧地　20.0ha 採草地　51.7ha 飼料用米　56.7ha	・畜産クラスター事業等により繁殖牛舎、分娩牛舎、子牛哺乳舎棟（哺乳ロボット）、育成牛舎を整備し、完全な繁殖・肥育一貫経営を実現
	肉用牛繁殖	黒毛和種369頭		
平成30年	肉用牛肥育	黒毛和種974頭、乳用種２頭、交雑種1,586頭	放牧地　20.0ha 採草地　51.7ha 飼料用米　72.6ha	・後継者が大学卒後、銀行勤務を経て、高橋畜産食肉㈱に入社 ・５農場全てで農場HACCP認証取得
	肉用牛繁殖	黒毛和種424頭		
平成31年 令和元年	肉用牛肥育	黒毛和種726頭、乳用種２頭、交雑種1,527頭	放牧地　20.0ha 採草地　51.7ha 飼料用米　48.1ha	・「やさしいエコフィード協議会」を設立し、エコフィードのTMR給与を本格的に開始 ・「山形蔵王牧場」がJGAP認証を取得
	令和元年	黒毛和種459頭		
令和２年	肉用牛肥育	黒毛和種1,225頭、乳用種４頭、交雑種1,461頭	放牧地　20.0ha 採草地　51.7ha 飼料用米　37.7ha	・㈲蔵王ファーム米澤第２農場を開設し、米沢牛生産を拡大 ・㈲蔵王ファーム及び㈲蔵王高原牧場が株式会社に改組
	肉用牛繁殖	黒毛和種497頭		
令和３年	肉用牛肥育	黒毛和種1,127頭、乳用種４頭、交雑種1,567頭	放牧地　20.0ha 採草地　51.7ha 飼料用米　31.9ha	・㈲蔵王ファーム米澤第２農場で農場HACCPを取得し、６農場全てで認証取得
	肉用牛繁殖	黒毛和種502頭		
令和４年	肉用牛肥育	黒毛和種880頭、交雑種1,410頭	放牧地　20..0ha 採草地　51.7ha 飼料用米　50.9ha 稲発酵粗飼料　5.5ha	・放牧の再開を目指し、宮城蔵王牧場の草地更新を実施 ・稲発酵粗飼料の利用を開始
	肉用牛繁殖	黒毛和種512頭		

（注）「肉用牛繁殖」の飼養頭数は、成雌牛飼養頭数。

毛和種成雌牛30頭の計730頭であり、飼料の給与方法は、飼料の種類ごとに手押し飼料台車による給与のため、労力がかかり、規模拡大を図る上で大きな課題であった。このため、平成６年に自走式TMR給餌車を導入し、通路幅が確保できる宮城蔵王牧場にその技術を取り入れた。この技術の導入により、飼料調製・運搬・給与時間が導入前の１／３に短縮され、従来の牛舎数16棟から41棟、頭数が1,800頭と大幅な規模拡大につながった。それ以降に新たに整備した川崎育成牧場では、自走式TMR給餌車が稼動できる構造にするとともに、通路幅が狭い古い牛舎では、自動飼料給餌器を導入して省力化と労力の軽減化を図っている。

TMR給与技術の導入により、平成21年に過去最高の頭数の4,036頭(肥育牛3,767頭、成雌牛269頭)に規模拡大を達成した。

【繁殖・肥育一貫経営の拡大・省力化の取り組み】

平成13年にBSEが発生、また、平成23年東日本大震災に起因する東京電力の原子力発電

（表２）経営実績（令和４年）

経営概要	労働力員数（畜産・2000hr換算）		家族・構成員	2人
			雇用・従業員	26人
	成雌牛平均飼養頭数			512頭
	飼料生産		実面積	7,170a
	年間子牛分娩頭数			486頭
	肥育牛平均飼養頭数		黒毛和種	880頭
			交雑種	1,410頭
	年間肥育牛販売頭数		黒毛和種	405頭
			交雑種	627頭
収益性	所得率			8%
	出荷肥育牛１頭当たり生産費用			1,295,223円
生産性	繁殖	成雌牛１頭当たり年間子牛分娩頭数		1頭
		成雌牛１頭当たり年間子牛販売頭数		0
		平均分娩間隔		12か月
	肥育（品種・肥育タイプ）	（黒毛和種雌若齢）	肥育開始時	日齢 315日
				体重 268kg
			出荷時	日齢 946日
				体重 713kg
			平均肥育日数	631日
			販売肥育牛１頭１日当たり増体重（DG）	0.705kg
			対常時頭数事故率	2%
			販売肉牛１頭当たり販売価格	1,211,571円
			販売肉牛生体１kg当たり販売価格	1,698円
			肉質等級４以上格付率	98%
			もと牛１頭当たり導入価格	546,437円
			もと牛生体１kg当たり導入価格	2,038円
		（黒毛和種去勢若齢）	肥育開始時	日齢 283日
				体重 280kg
			出荷時	日齢 910日
				体重 801kg
			平均肥育日数	627日
			販売肥育牛１頭１日当たり増体重（DG）	0.831kg
			対常時頭数事故率	2%
			販売肉牛１頭当たり販売価格	1,307,716円
			販売肉牛生体１kg当たり販売価格	1,633円
			肉質等級４以上格付率	99%
			もと牛１頭当たり導入価格	561,013円
			もと牛生体１kg当たり導入価格	2,007円
		（交雑種雌若齢）	肥育開始時	日齢 40日
				体重 78kg
			出荷時	日齢 837日
				体重 761kg
			平均肥育日数	797日
			販売肥育牛１頭１日当たり増体重（DG）	0.857kg
			対常時頭数事故率	0%
			販売肉牛１頭当たり販売価格	789,100円
			販売肉牛生体１kg当たり販売価格	1,037円
			肉質等級４以上格付率	29%
			もと牛１頭当たり導入価格	77,785円
			もと牛生体１kg当たり導入価格	997円
		（交雑種去勢若齢）	肥育開始時	日齢 78日
				体重 129kg
			出荷時	日齢 825日
				体重 819kg
			平均肥育日数	747日
			販売肥育牛１頭１日当たり増体重（DG）	0.924kg
			対常時頭数事故率	1%
			販売肉牛１頭当たり販売価格	846,400円
			販売肉牛生体１kg当たり販売価格	1,034円
			肉質等級４以上格付率	34%
			もと牛１頭当たり導入価格	249,187円
			もと牛生体１kg当たり導入価格	1,932円

の放射能事故を経験し、安全性や生産履歴をトレースできることが重要と考え、肥育もと牛を100％自給できる繁殖・肥育一貫経営によるブランド化の強化を図ることにした。

平成26年に宮城蔵王牧場から繁殖部門を川崎育成牧場に移し、黒毛和種専用繁殖・育成牧場に、宮城蔵王牧場を交雑種の育成･肥育、黒毛和種の肥育牧場に再編した。

川崎育成牧場の繁殖および哺育育成の省力化を図り、成雌牛を500頭へ拡大するため、国の畜産クラスター事業等を活用して分娩牛舎等の整備や哺乳ロボットの導入を行った。これにより、令和３年に成雌牛の頭数は、目標を達成し、繁殖牛の更新および肥育もと牛の自給率は100％確保できるようになった。

また、授精時期の成雌牛の集中管理と自社従業員による人工授精、分娩予定１か月前に分娩舎へ移動、飼料給与を夕方１回による昼間の分娩率の向上、IPカメラによるスマホ看視等を行い、高い繁殖成績となっている。

（表３）繁殖成績および子牛の自給率の推移

区　分		R元年	R２年	R３年	R４年
人工授精回数（回）		1.6	1.7	1.8	1.7
分娩間隔（か月）		11.7	11.6	12.3	12.2
分娩率（%）		93.0	101.7	88.8	94.9
分娩事故率（%）		2.2	1.8	3.4	2.9
繁殖雌牛頭数（頭）		459.0	497.5	502.0	512.0
分娩頭数（頭）		427	506	446	486
育成頭数（頭）		412	479	436	467
自給率（%）	繁殖更新牛	591.0	93.4	100.0	111.1
	肥育素牛	105.0	107.9	83.9	100.5

これらの取り組みにより省力化が図られ、休日が月６日から８日に拡大を実現している。

【４つのブランド生産体制の確立】

平成13年に国内でのBSEの発生による大幅な需要の低下を経験し、より一層のブランド化と安全安心な牛肉生産の取り組みが重要であると認識を新たにした。このため、山形県にある㈱蔵王ファーム４農場のうち、山形蔵王牧場と山形第２農場は「総称山形牛」（以下「山形牛」

という）の生産、米澤農場と米澤第２農場は「米沢牛」の生産を行い、国内有数の２つの産地ブランド牛、また、宮城県にある㈱蔵王高原牧場の２牧場のうち宮城蔵王牧場は、自社ブランドである黒毛和種の「蔵王和牛」と交雑種の「蔵王牛」を生産、川崎育成牧場は黒毛和種の肥育もと牛の生産牧場となっている。

蔵王牛は平成13年に、蔵王和牛は平成22年に商標登録するとともに、全農場において農場HACCPを取得し、４つのブランドに当社独自の認証基準として、①生産農場指定、②農場HACCP認証、③飼料の抗生物質およびホルモン剤無添加、④自社カット工場を追加してブランド化を図っている。

【未利用資源を活用した飼料給与体系】

当社では、肥育前期の発育が悪く、枝肉重量が小さいという課題があった。このため、たんぱく質を高め、低コスト化も期待できるエコフィード原料主体の発酵TMRに注目し、平成30年から黒毛和種の肥育前期における給与試験を行った。増体と飼料費の削減成果が確認されたことから実用段階に移行するためには、定期的に必要量の確保やエコフィード製造・給与を指導する体制を構築することが必要と考え、平成31年に「やさしいエコフィード協議会」を設立した。

発酵TMRは、肥育牛の増体が良くなり、出荷月齢の短縮、肉質向上につながり、収益性が向上したことから、繁殖および交雑種肥育にも拡大している。

【飼料の高騰対策】

ロシアのウクライナ侵攻、円安の影響等により、飼料価格が高騰し高止まりしているため、海外由来の粗飼料および配合飼料の割合を減らし、国産飼料の割合を高め、飼料費の削減を図っている。

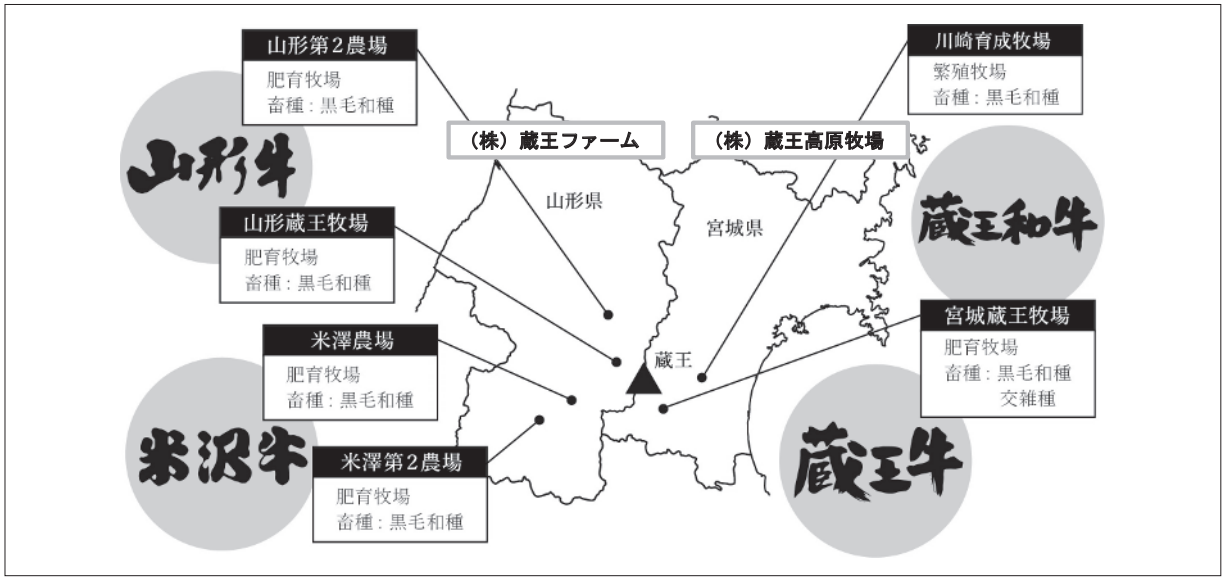
令和４年には、エコフィード12種類に稲わらや規格外大麦の農場残さ、飼料用米等を加えた国産原料17種類のTMR飼料を製造し、国産飼料割合は重量割合で41.0％、TDN28.5％、１kg当たりの飼料費は44.6円となっている。

（表４）国産飼料の使用割合およびTDN自給率の推移（単位：%）

区　分	R元年		R２年		R３年		R４年	
	種類	割合	種類	割合	種類	割合	種類	割合
国産飼料	3	13.4	3	10.2	3	11.7	5	14.2
エコフィード	13	23.2	14	24.8	14	24.2	12	24.1
海外原料飼料	12	63.5	12	65.0	11	64.1	14	61.7
国産割合※	16	37.4	17	36.4	17	39.2	17	41.0
TDN自給率		26.3		26.2		28.8		28.5
kg当たり単価		33.9		33.9		36.6		44.6

※：重量ベースの国産割合

（図１）㈱蔵王ファームおよび㈱蔵王高原牧場のブランド牛



【生産から販売まで独自のＴ１システム】

美味しい肉の決め手は「鮮度」と考えており、このため、日本国内でも数少ない直営牧場での繁殖から肥育に加え、グループ会社によるカット(山形ビーフセンター)・加工(蔵王高原ミートファクトリー)・流通(卸)・販売(スーパー２店舗等)までの一貫体制により消費者に牛肉を届けている。この独自の流通体制を「高橋畜産食肉一貫生産体制：Ｔ１（ティーワン、）システム（Ｔ：高橋、１：一貫)」と名付けている。繁殖・育成から販売までのほぼすべてを自社で行うため、牛に与える輸送や環境ストレスを最小限に抑え高品質で安定した品質の肥育牛に仕上げ、また、牛肉のカット・加工・流通販売はシンプルでスピーディ、ダイレクトに行うことで鮮度の高い肉を提供できるシステムとなっている。

【理想的な肉づくりの取り組み】

理想的な牛肉をつくるためには、エビデンスに基づいた科学的な飼育が必要と考え、牛個体識別番号を活用し、独自の畜産DX「Ｔ１」を開発した。担当者がスマホ上で好きな時間帯に入力できることで、労働時間が従来の84.0%減と、省力的に繁殖から肥育、枝肉、病歴等のデータの集積・自動集計が行え、分析結果の閲覧、情報の共有ができるようになった。

（表５）独自の畜産DX活用による労働時間の削減効果

業　　務	導入前（分/月）	導入後（分/月）	削減率（%）
出荷報告書作成	380	40	89.5
牛の移動報告書作成	310	20	93.5
切迫、死亡報告書作成	60	5	91.7
牛舎管理台帳作成、編集	20	5	75.0
発育データ作成	80	20	75.0
その他の業務（12業務）	740	165	77.7
合　　計	1,590	255	84.0

また、ゲノム分析による６形質の評価や県畜産研究所の協力を得て、①脂肪の口溶け、②うま味、③甘い香り成分分析を行い、畜産DXのデータと合わせて美味しさを含めた牛の改良スピードのアップを図っている。

この肉質改良とTMR飼料の改善の結果、上物率および食味は高い水準となっている。

（表６）黒毛和種・交雑種４等級以上の推移（単位：%）

区　　分			Ｒ２年	Ｒ３年	Ｒ４年
黒毛和種	雌	蔵王ファーム	86.4	96.0	98.0
		全国	67.2	69.1	69.4
	去勢	蔵王ファーム	89.5	97.6	99.2
		全国	87.6	89.5	91.5
交雑種	雌	宮城蔵王牧場	15.0	21.4	28.6
		全国	19.3	22.0	24.5
	去勢	宮城蔵王牧場	19.5	26.6	33.5
		全国	21.2	22.3	24.0

【環境保全の取り組み】

ふん尿処理は、ハウス式ロータリー撹拌方式や堆積方式によるローダーでの切り返しに

（図２）グループ会社と連携した「生産・加工・直接販売」体制

より行い良質堆肥を製造し、飼料用米および稲わらを供給してもらっている耕種農家へ還元するとともに、牧草地への散布、牛房の敷料（戻し堆肥）として利用している。

また、将来の電気の自給を目指し、関連会社と共同で「バイオマス発電」の試験を行っている。

【アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理】

JGAP認証の基準に基づきチェックリストを活用して、家畜福祉や家畜にストレスをかけない美味しい牛肉づくりに取り組んでいる。

【持続的な経営の取り組み】

グループ会社と連携してプロジェクトチームを組織し、取組項目のアンケート調査を行い、従業員の理解を高め、SDGsの17目標のうち10目標について取り組んでいる。

地域に対する貢献

【耕畜連携による地域農業への貢献】

耕種農家と連携し、稲わらは14団体838戸、飼料用米は１団体102戸から供給を受けており、その農家に対し堆肥を無料で提供（運搬する場合有料）して循環型農業を実践している。また、他の野菜農家や家庭菜園用にも同様に無料で堆肥を提供し、地域貢献をしている。

【地域経済への貢献】

地域企業22社から国産飼料およびエコフィードの供給や加工について協力をしてもらっており、共にWin-Winの関係を構築して、地域経済に貢献している。

女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取り組み

【働きやすい職場づくりの取り組み】

会社の基盤は、「人財」である。従業員一人一人がグループ会社と合わせて１次から３次までの６次産業の内容を理解することが必要であるとの考えから、ジョブローテーションで、牧場従業員がグループ会社の総務や店舗の担当、職場体験研修を行い、さまざまな経験をさせている。

また、女性の雇用確保を図るため、牧場内に女性用のトイレや更衣室を設置したり、自動給餌機の導入など機械化を推進することで重労力を軽減することにより、女性が働きやすい環境づくりに努めている。

女性従業員が各種のプロジェクトに参加し、女性のアイディアにより施設や道具の改善、加工品の商品化等につながり、会社の発展に貢献している。

将来の方向性

【次世代への継承および今後の経営計画】

後継者は、大学卒業後に銀行での勤務を経て、グループ会社の高橋畜産食肉㈱に就職し、令和３年に㈱蔵王ファームおよび㈱蔵王高原牧場の専務取締役として牧場運営に参画している。現在は、経営移譲に向けて牧場運営・飼養管理まで幅広い業務で経験を積んでいる。

【今後の経営計画】

㈱蔵王ファームの牛舎は、建築後40年経過し老朽化が進んでおり、更新を行う必要があると考えている。

現在、黒毛和種の繁殖・肥育一貫経営を行う牧場を山形県内の蔵王山麓に建設することを検討している。放牧を取り入れて繁殖から肥育まで１つの牧場で完結させ、これまで以上に牛に与えるストレスが少ない生産方式の確立、国産飼料およびバイオマス発電による電力自給率100％を目指し、持続可能な牧場づくりを実現したいと考えている。

当社は、持続可能な経営を行うために、今後も「新鮮で安全安心な牛肉の安定供給」を通じて、地域貢献ができ、地域に愛される経営を目指して取り組んでいきたい。

豚に真珠で付加価値を！

ー伊勢志摩の自然豊かな中で大切に育てましたー

有限会社河井ファーム肉よし（養豚経営･三重県志摩市）

地域の概況

有限会社河井ファーム肉よしの所在地である三重県志摩市は、熊野灘に突き出た志摩半島に位置し、市全域が伊勢志摩国立公園内に含まれ、伊勢志摩サミットが開催された地であり、風光明媚な観光の名所となっている。海岸線はリアス式海岸で太平洋に面しており漁業が盛んで、アワビなどの海女漁や世界に先駆けて発達した真珠の養殖が知られている。

（写真１）従業員と家族写真（右から金昭さん、３人目が美和さん、左から母のシゲヨさん、父の金夫さん）

（表１）経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	経営・活動の内容
平成12年	養豚	繁殖雌豚120頭	経営主の金昭氏、養豚経営に就農
平成14年	〃	繁殖雌豚150頭	汚水の浄化処理開始（浄化槽建設） 飼料共同購入組織「やまびこ会」加入
平成15年	〃	〃	繁殖舎建設（200頭収容）
平成16年	〃	〃	分娩舎建設（60房）
平成17年	〃	〃	離乳舎建設（子豚1060頭収容） 金昭氏が代表取締役就任（経営継承）
平成18年	〃	繁殖雌豚180頭	肥育豚舎建設（肥育豚360頭収容） 農場独自の衛生マニュアルの策定
平成19年	〃	〃	妻が養豚経営に参画（繁殖部門）
平成23年	〃	〃	肥育豚舎建設（肥育豚360頭収容）
平成27年	〃	〃	肥育豚舎建設（肥育豚480頭収容）
平成28年	〃	〃	アコヤ貝粉末給与開始 オンラインショップ開設
平成30年	〃	〃	県内大手精肉店との取引開始
令和元年	〃	繁殖雌豚200頭	豚熱、PEDの流行による増頭
令和3年	〃	繁殖雌豚170頭	モルト粕サイレージ給与開始
令和4年	〃	繁殖雌豚150頭	自社ブランド豚の名称を「伊勢志摩パールポークほろよい」に改名

（表２）経営実績（令和３年度）

経営の概況	労働力員数（畜産・2000hr換算）		家族構成員	1.2人
			従業員	3.4人
	種雌豚平均飼養頭数			170.3頭
	肥育豚平均飼養頭数			924.4頭
	年間子豚出荷頭数			0頭
	年間肉豚出荷頭数			4,206頭
収益性	所得率			33.9％
	種雌豚１頭当たり生産費用			585,687円
生産性	繁殖	種雌豚１頭当たり年間平均分娩回数		2.32回
		１腹当たり分娩子豚頭数		12.5頭
		種雌豚１頭当たり年間分娩子豚頭数		29.0頭
		１腹当たり哺乳開始子豚頭数		11.2頭
		種雌豚1頭当たり年間哺乳開始子豚頭数		26.0頭
		１腹当たり離乳子豚頭数		10.5頭
		種雌豚１頭当たり年間離乳子豚頭数		24.4頭
	肥育	種雌豚１頭当たり年間出荷頭数（肉豚）		24.7頭
		肥育豚事故率（離乳時からの事故率）		7.2％
		肥育開始時	日齢	70.0日
			体重	35.0kg
		肉豚出荷時	日齢	160日
			体重	112.0kg
		平均肥育日数		90.0日
		出荷肉豚１頭１日当たり増体重		0.856kg
		トータル飼料要求率		2.96
		肥育豚飼料要求率		2.67
		枝肉重量		72.4kg
		販売価格	肉豚１頭当たり平均価格	36,894円
			枝肉１kg当たり平均価格	509.6円
		枝肉規格「上」以上適合率		61.7 ％

経営・活動の推移

【豚の健全性に配慮した経営規模の実現】

令和５年現在の経営規模は、種雌豚150頭を飼養し、年間約4,000頭を出荷する繁殖肥育一貫経営である。

平成12年に就農してから計画的に畜舎の整備を進めていたが、令和元年には豚熱の流行による影響等により種雌豚が一時200頭規模となり、飼養密度が上がったことで事故が多く非効率な状況となってしまった。

そこで、持続的な適正規模による安定生産を考え、この３年間で種雌豚を150頭規模まで減少させ、週80頭程度の出荷とすることで、事故率は７％台から現在の４％台に改善した。

【事業承継と自社ブランドの取り組み】

金昭氏は、大手流通スーパーでの生鮮部門の販売経験を経て、素人状態で父親の養豚経営に就農したが、前職で培ったデータ収集・分析をはじめ安全安心で美味しいものは消費者の支持を得ることを体現していることから、その姿勢をそのまま養豚現場に持ち込んでいる。

主な取り組みは、就農当時から民間の畜産コンサルタントの指導を仰いで進めた畜舎整備、県の家畜保健所の協力を得て作成した農場独自の衛生対策マニュアル、そして、養豚仲間で組織する「やまびこ会」で設計されたオリジナル飼料をベースに平成28年からアコヤ貝の粉末給与、令和３年からエコフィードの活用としたモルト粕サイレージの給与を経て、パールポークのブランド力を高めた「伊勢志摩パールポークほろよい」を新たに立ち上げ、地域の高品質な豚肉として提供している。

経営・技術の特色等

【オリジナル三元豚の自家生産】

近年主流の多産系の種豚を導入せず、肉質を重視した大ヨークシャー（W）種の雌とランドレース（L）種の雄を掛け合わせた雌を種雌豚として、種雄豚のデュロック（D）種を交配してWLDの三元豚を生産している。種付けは90％を人工授精で実施し、適期的確な種付け作業により種雌豚1頭当たりの成績は、県指標を上回る。またメリットとして外部から移入する疾病の予防及び導入経費の削減をはじめ、希少価値の高いWLDの三元豚

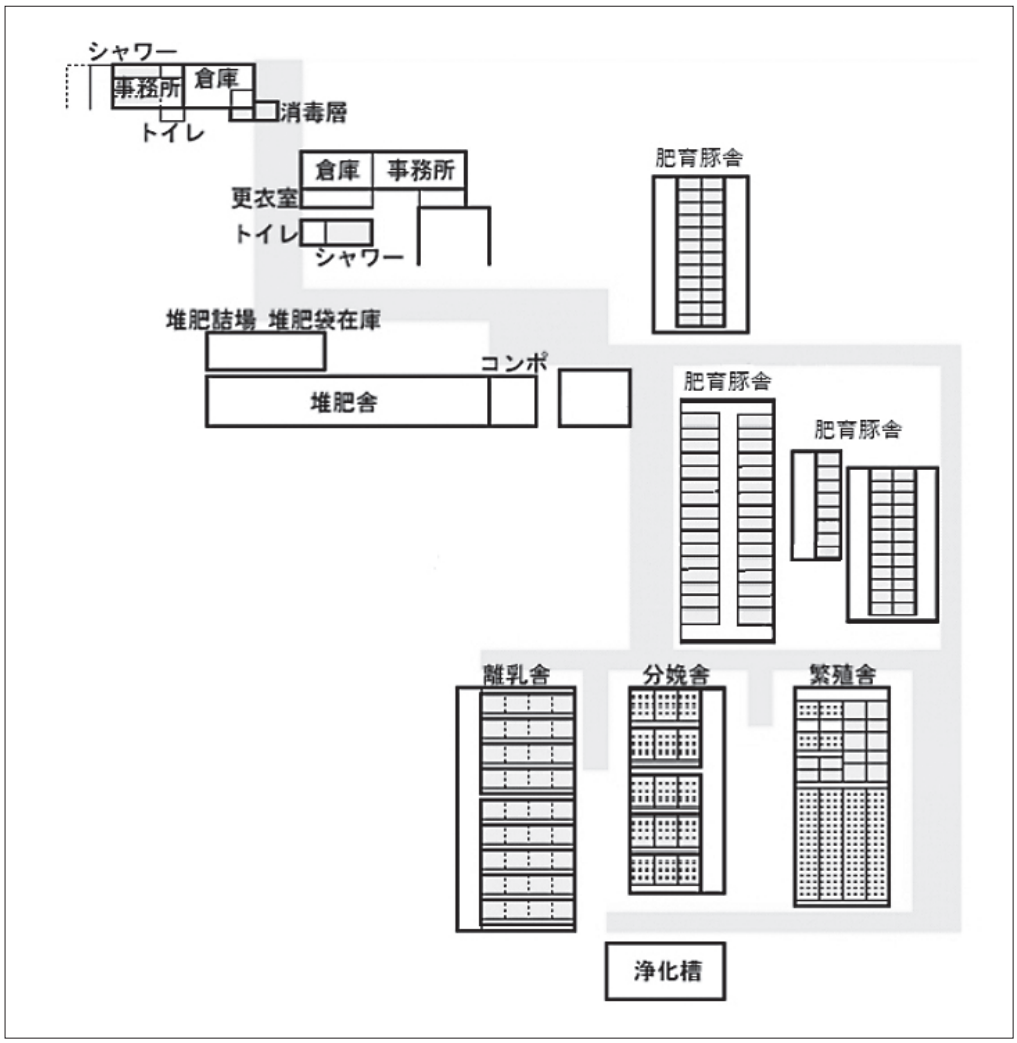
（写真２）モルト粕サイレージ給与

は枝肉取引価格においても有利にはたらき収益性を高めている。

【飼料の給与】

素人状態で就農した金昭氏であったが、持ち前の勤勉性もあり畜産コンサルタント、県家畜保健衛生所の指導と合わせ、就農してから加入した東海・北陸の養豚仲間で作る「やまびこ会」での活動が経営主にとって大きかった。広域な養豚仲間との情報交換や勉強会で技術を積み上げたことはもとより、共同購入の強みを活かした配合飼料は、全粒粉砕トウモロコシを使用したオリジナル飼料となっており、さらに飼料米やエコフィードの活用として一部に食品残さを配合し、質・コスト面においても満足の得られるものとなっている。また「パールポーク」のブランド力を高めるため、子豚の骨格を形成する時期に合わせ真珠養殖に使われたアコヤ貝の粉末を給与してカルシウム等のミネラルを強化し、肥育豚の仕上げ期には、モルト粕サイレージ

（図１）畜舎の配置図



（写真３）店舗横の堆肥販売

（写真４）地元野菜売場

を給与することによって飼料の嗜好性を高め、出荷体重、肥育日数等の生産効率の向上や肉質の改善につなげている。特に厚脂による格落ちが改善され、上物率は60％台をキープしている。

【衛生対策とその効果】

防疫を前提とした衛生対策は、農場独自の衛生対策マニュアルに沿って徹底されており、どこかで問題が発生すれば、すぐに対応できる体制が整い、安全な豚肉を生産できるという自信につながっている。

特に自家産の種雌豚の育成は、外部からの感染症リスクを抑えることにより子豚、種雌豚ともワクチン接種の省力化につながった。また、乳酸菌が含まれるモルト粕サイレージの給与を始めてから豚の体調が良くなり、肥育豚舎での抗菌性物質の使用をやめる等、衛生費の削減にもつながっている。

【飼育環境の整備とAW】

畜舎設計は、繁殖畜舎を農場奥に、肥育畜舎を入口付近に配置することによって豚の移動を一定方向とする無駄のない動線とした作業の効率化とエリアを明確に区分することによる安全性を構築した。その結果、飼育環境が整い、アニマルウェルフェア（AW）に配慮して子豚の歯切りをやめるなど、哺乳期の種雌豚や子豚に対する痛みやストレスがない繁殖環境と作業の省力化につながっている。

地域に対する貢献

【畜産環境対策】

環境対策は、ふん尿分離方式を進め、ふんの堆肥化には密閉縦型コンポスト、尿汚水を処理する浄化槽を整備している。以前は臭気対策としてモミガラを外部から収集し利用していたが、衛生上の観点から現在は、外部搬入のリスクを考慮して使用していない。替わって、尿汚水は畜舎から配管を通し直接浄化槽へ流れるよう整備すると共にモルト粕サイレージ給与の効果として臭いが低減されるようになった。

堆肥は、農場にある畑作自家消費以外はすべて袋詰めを行い、自社店舗の横で販売している。堆肥は地元農家の野菜栽培に利用され、生産された野菜は、自社店舗で地場の野菜として販売している。

【地域との結びつき】

平成29年、伊勢市の三重県立明野高校とビールを製造販売する会社（伊勢角屋麦酒）が、ビールを作る際に排出されるモルト粕の有効利用のため、サイレージ化による給与試験を行ってきた。その結果、モルト粕サイレージを与えた豚は生育が良くなった上、肉質も向上するなどの効果が得られた。

（写真５）共同連携ポスター

三重県エコフィード等利活用研究会に所属する金昭氏は、平成28年にアコヤ貝の粉末を飼料として活用していたこともあり、地域食品企業と農業高校生によるSDGsの活動に賛同し、令和２年12月から肥育豚へのモルト粕サイレージ給与試験を自社農場で行った。明野高校での結果同様、豚の嗜好性もよく、生育が促進され出荷までの日齢が短縮された。また、ロース肉中の粗蛋白質が優位に増加し、かつ粗脂肪が低く、課題となっていた厚脂の改善効果、臭い対策、衛生費の削減にも寄与し、現行飼料との相性も非常に良かったことから、令和３年４月に本格的な給与を開始している。

伊勢志摩地域での資源循環型養豚の実現に向けて、畜産を学ぶ高校生、食品企業、養豚農家の連携により誕生した新たなブランド肉「伊勢志摩パールポークほろよい」の名前は、連携する明野高校生が命名し、この取り組み

（写真６）明野高校生と志摩市訪問

を通じて志摩市のSDGsパートナーとして、地元小学校への出前授業等、持続可能な養豚業の理解を深めた畜産モデルとして全国へ発信していく。

女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取り組み

【女性の参画】

女性は農場に１名、店舗に６名が従事している。妻は、子供が小学校にあがったタイミングで就農し、繁殖部門の分娩舎と離乳舎を中心に女性ならではの気遣いをもって管理している。また、令和元年から会計も担当し、会社を支えている。

店舗の６名はパートタイムでワークライフバランスに配慮したシフトを組んで採用している。

【職場環境の整備】

女性の就農を機に、外来者用とは別に農場内に従業員専用のシャワールームを設け、トイレを簡易式から常設トイレに改修している。

また、働きやすい職場整備として、就業規則の整備に取り組んでいる。

将来の方向性

【次世代への承継】

金昭氏の考えもあり２人の息子は、社会人と学生で経営を離れているが、２人とも養豚

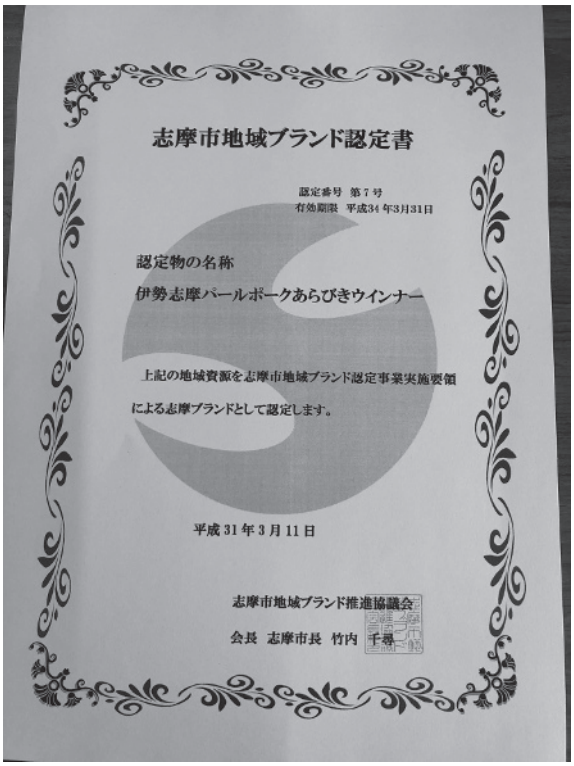
（写真７）女性の活躍（分娩房等を担当する美和さん）

業への参画の意向を示している。息子たちは、三重県農林水産ビジネスプランプレゼンテーション大会2022に参加し「「IT」×「養豚」×「地域力」で持続可能な養豚事業を次世代へ引き継ぐ」をテーマに現状業務の課題を抽出し、属人的業務の共有化の提案等、経営改善を発表することによって、将来を見越して経営の関わりを持ち始めている。

金昭氏はこの提案を機に、経営や連絡事項について従業員とのミーティングを定期的に実施し、共有化を図っている。

【６次化への取り組み】

肉質を重視した三元豚（WLD）の「伊勢志摩パールポークほろよい」は、脂身が美味しいとの評判も高く、店舗で製造する手作りミンチカツ（メンチカツ）は作ったらすぐ完売する地元のソウルフードとなっている。高品質なブランド肉として地域に認知されてきており、地元のレストランや宿泊施設の食材として利用されるとともに、加工品のあらびきウィンナーは、志摩市の優れた地域資源として「志摩ブランド」に認定されている。


志摩市地域ブランド認定書

認定番号 第７号
有効期限 平成34年3月31日

認定物の名称
伊勢志摩パールポークあらびきウインナー

上記の地域資源を志摩市地域ブランド認定事業実施要領
による志摩ブランドとして認定します。

平成31年3月11日

志摩市地域ブランド推進協議会
会長 志摩市長 竹内 千尋

（写真８）志摩市認定ブランド認定書

また、コロナ禍の時であっても、店舗全体の売り上げは減少したが「伊勢志摩パールポークほろよい」は、安定した売り上げをキープしていた。

【今後の経営計画】

河井ファーム肉よしは、生産する豚肉に付加価値を加え「消費者の皆さんに安心、安全で美味しい豚肉をお届けする」という経営理念を実現しているが、その適正規模がどこにあるのか、就農する息子たちへの承継を視野に入れ、規模拡大だけではなく経営の質の向上を目指し、持続可能な経営計画を模索している。

若き姉妹が仲間たちと挑戦する「６次産業化」と「ふれあい事業」

ー亡き父が遺した白鳳卵を守るー

さかもと養鶏株式会社（採卵鶏経営・奈良県五條市）

地域の概況

さかもと養鶏㈱が所在する奈良県五條市は、奈良盆地の南西に位置し、大阪府と和歌山県に隣接している。金剛山と吉野連山に囲まれた市街や農村風景が広がっており、自然と融合した街並みを望むことができる。

産業としては工業が中心となっているが、農業も盛んに営まれている。農業の中でも水稲、園芸作物（野菜･果樹）の生産が盛んで、とりわけ柿は市町村別で全国第１位の生産量を誇る。また、五條市は畜産業が盛んな地域でもあり、高齢化に伴って畜産農家戸数は減少しているものの、全畜種（乳用牛･肉用牛･豚・採卵鶏・肉用鶏）が飼養され、県内最大の畜産地帯となっている。

（写真１）下段左から経営担当の未優さん、販売担当の雅さんの姉妹

（表１）経営・活動の推移

年次	飼養羽数	経営・活動の内容
昭和39年	2,000羽	祖父が30歳で就農 低床鶏舎にて飼養
昭和55年	4,000羽	4,000羽まで拡大、高床鶏舎増設 父が20歳で経営継承
平成２年	60,000羽	ウィンドウレス鶏舎を増設
平成25年	20,000羽	卵価の低下により飼養羽数を減らし、ブランド化にシフト変更
平成27年	5,000羽	父の死と母の病気をきっかけに、規模縮小
平成28年	5,000羽	勤めていた会社を退職し、姉妹で事業を継承
平成28年	5,000羽	法人化へ移行
平成29年	14,000羽	農場での小売販売開始
令和４年	14,000羽	加工製品（プリン）の販売を開始

（表２）経営実績（令和３年度）

経営概要	労働力員数（畜産・2000hr換算）	家族・構成員	3.8人
		雇用・従業員	8.1人
	採卵鶏平均飼養羽数		14,000羽
	年間鶏卵生産量		224,383kg
	年間鶏卵出荷量		235,002kg
収益性	所得率		14.4％
	採卵鶏100羽当たり売上原価		542,217円
生産性	採卵鶏100羽当たり年間鶏卵生産量		1,603kg
	採卵鶏100羽１日当たり産卵量		4.4kg
	鶏卵１kg当たり平均販売価格		
		GP	187.5円
		産直	465.7円
	直販割合		83.0％
	採卵鶏100羽１日当たり飼料消費量		10.6kg
	飼料要求率	農場	2.20
		採卵鶏	2.20
	鶏舎１m^2当たり年間鶏卵生産量		320.5kg
	鶏舎１m^2当たり採卵鶏飼養羽数		20.00羽

経営・活動の推移

1964年に祖父が就農し、採卵鶏2,000羽から養鶏業を始めた。1980年頃には父が経営を引き継いだ。低床鶏舎から始まった経営であったが、高床式鶏舎とウィンドウレス鶏舎を段階的に増築し、1990年頃には飼養羽数60,000羽まで規模拡大を行った。しかし、卵価の低迷を受けて、規模拡大での経営向上に限界を感じ、ブランド化での収益向上にシフトした。その数年後に父が病死したことと母の病気が判明したことで、娘の未優氏（現代表取締役社長）と雅氏（現専務取締役）の姉妹が経営継承し､法人化へ移行した。現在は、鶏舎横にある直売所「みゆうとみやびの卵屋さん」にて卵や加工品の販売を行ったり、ヤギとのふれあいができる広場等を併設したりと、さまざまな事業を展開している。

経営・技術の特色等

さかもと養鶏㈱では毎週の体重測定が飼養管理の基本になっている。肥満個体は産卵率が低下するため生産性低下につながり、逆に小さい個体は他個体のカンニバリズム（つつき）の対象になる可能性が高まり、これも生産性低下につながるためである。標準体重を1,980ｇに設定し、１ロット（2,000羽）ごとに約100羽の体重を測定する。その結果をまとめてロットごとの体重管理を行っている。また、卵殻の汚れ･ひび割れの有無を記録し、採卵鶏の体調に変化がないか確認できるようにしている。体重のばらつきや卵殻の汚れ・ひび割れが非常に多い際は、給水器や給餌機に問題が生じている可能性があるため、点検を行って環境改善に取り組んでいる。この飼養管理を始めてから、採卵鶏の残存率は以前と比較して約20ポイント増加し約95％で推移

（写真２）鶏舎外観

（写真３）鶏舎内の様子

しており、生産性の改善がみられている。

ケージは７羽収容可能のものを使用しているが、実際には６羽を収容し、日々の観察が行いやすいように工夫されている。給餌はホッパー構造の自動給餌機を使用して120ｇ/（羽・日）になるように設定されており、飼料には卵のうま味とコクを引き出すために魚粉の替わりにチキンミールを用いている。飲水は鳥インフルエンザ等の病原菌混入防止の為に水道水を使用している。

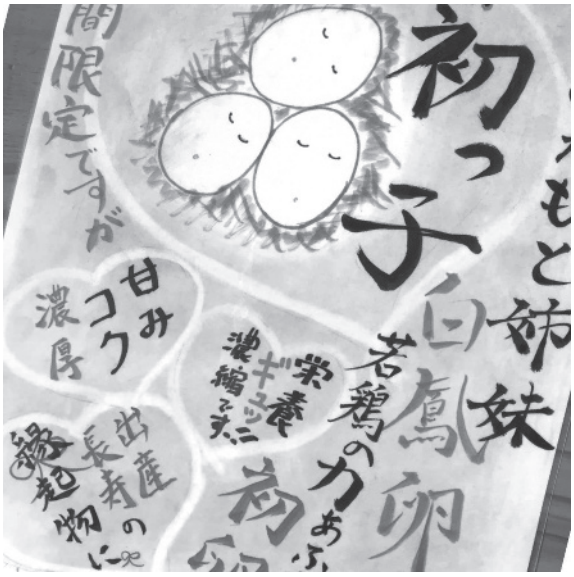
【付加価値による収益性向上】

さかもと養鶏㈱ではこだわり卵を「白鳳卵」というブランドで販売している。また、採卵鶏が初めて産む初卵はサイズが小さめでばらつきがあるため規格外になるが、黄身が濃厚で甘みがあるため、「初っ子」として販売している。さらに、大寒の日に産んだ卵である「大寒卵」は昔から滋養強壮に有効とされており、縁起物として人気が高い。

直販（直売所・EC販売）割合が９割程度であり、GP販売価格の約2.5倍で販売することで収益性を高めている。規格外卵や需要の少ない時期に生産された卵を希少卵として付加価値をつけて販売していることも収益性を高める手段になっている。

【６次産業化】

直売所・ECサイトでは卵だけでなく、白鳳卵を使用したプリンをはじめとする加工品も販売している。特に印象的なのは地元の食材とコラボレーションした商品である。「柿たま醤油」は五條市の特産品である柿のチッ



（写真４）初っ子

（写真５）大寒卵

（写真６）「にっぽんの宝物」コンテスト

（写真７）直売所の様子

プ（柿を乾燥させたもの）を使用していたり、「なかよしディップ」には奈良にゆかりのあるシナモンと奈良漬が使用されていたりと、こだわりがつまった商品が並んでいる。

また、代表が経営継承した直後に県鶏卵品評会で父が作った白鳳卵が最優秀賞を受賞した。これをきっかけに2019年に開催された「にっぽんの宝物」コンテストに白鳳卵を出品し、奈良県大会にて素材・調理部門で審査員特別賞を受賞した。しかし、新型コロナウイルス感染症と鳥インフルエンザの影響で卵が余剰している現状を知ってもらおうと始めたクラウドファンディングの返礼作業に追われ、同年の全国大会出場を辞退した。2022年に再挑戦した同コンテストでは「なかよしディップ」が奈良県大会では初体験・加工部門、全国大会では調味料・ソース部門でグランプリを獲得し、ダブル受賞となった。

地域に対する貢献

【においが少ないペレット堆肥】

毎日排出される鶏ふんは、コンポストにて粉状にした上でペレット加工して販売している。主に奈良・大阪・和歌山の肥料業者に卸しているのに加えて、直売所・ECサイトでも販売しており、地域の耕作農家や家庭菜園をしている方にも人気がある。

【地域での食育等への貢献】

取引先のSETRE NARAMACHIが開催した「SETRE Open Kitchen」に参加し、消費者との交流も行っている。このイベントは、料理を提供するシェフとその料理の素材を提供する生産者と消費者をつなげるイベントとして、食について学び、体験できる食育の場となっている。

【他農家との連携】

県内にある「食の乱反射」、「女性農業者グループ“和母（わはは）”」に参加し、イベント開催やマルシェ出店等の活動を行っている。「食の乱反射」は、五條市を中心として畜産農家、耕種農家および飲食店などが参加し、年１回の食の乱反射イベント「農園をめぐる旅」を開催している。「女性農業者グループ“和母”」は、県内の女性農業者が参加しており、月１回のパン屋でのマルシェ出店等を行っている。

【その他の取り組み】

直売所に足を運ぶお客さんから「ニワトリを見たり、触ったりしたい」という声があったが、飼養衛生上実現が難しいことから、農場と直売所の手前にあった耕作放棄地に芝生を張り、ヤギの飼養を開始した。現在は５頭のヤギが飼養されている。ヤギのエサやりや広場に設置されている大きなブランコで子供た

（写真８）イベント参加の様子

ちが集まる場所となっている。今年８月には広場にて地域の子供たちを対象に「たまご夏祭り」を開催し、夏祭り定番のヨーヨー釣りなどのイベントや卵を使ったベビーカステラなどを販売しており、子供たち約200人が集まった。

また、直売所の隣にテラスが設置されており、直売所で購入した商品を座って食べることができる。さかもと養鶏㈱が掲げている“ママ・パパに癒しを！笑顔が集まる遊び場を作りたい！”という思いが詰まっている憩いの場所である。

近隣の養鶏場で鳥インフルエンザが発生した際に立ち上げたクラウドファンディング「近隣で鳥インフルエンザが発生。毎日１万個生まれる絶品卵を届けたい」では約256万円が集まり、支援額の15％を奈良県畜産農業協同組合を通じて鳥インフルエンザが発生した養鶏場へ寄付した。

今年７月からも「ママ・パパに癒しを！笑顔が集まる遊び場を作りたい！」というクラウドファンディングを立ち上げ、広場やテラスをつくる費用に充てた。返礼品には白鳳卵やプリンのほかにヤギの命名権といったユニークなものも用意した。

女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取り組み

【女性の活躍】

さかもと養鶏㈱は代表取締役社長、専務取締役が女性であることに加えて、従業員のほとんどが近隣に住む女性で構成されている。代表と専務はそれぞれの前職である栄養士、デザイナーとしての知識や経験を生かして、飼料設計、鶏卵パック等のデザインを行っている。また、女性だからこその安全・安心・信頼してもらえるようなSNSを用いた鶏舎の様子、商品の紹介、参加イベント等に関する発信、お店作りを心掛けている。

【働きやすい職場づくり】

家族（代表、専務、母）は週休１日制とし、正社員は週休２日制としている。パートも含めて20代～60代の幅広い年代が働いている。可能な限り一人に仕事を固定せず、誰でもすべての作業ができる環境づくりを進めることで、急な欠員が出ても作業に対応できるように管理をしている。

代表と専務の祖父の時代は「養鶏は休まずに働かなければならない」という考えで、今の時代に合っていないということと、「先代

が病死したのは休まずに働いたからなのでは？」という思いがあり、働きやすい環境づくりには特別意識して取り組んできた。

農業は他業種と比較して若い人が参入しにくい業種であるため、できるだけ若い世代が参入しやすく、なんでも言い合えるようなフレンドリーな職場になるよう心掛けている。また、今後は家族も週休２日制をとり、育児や家族との時間をとりながら仕事と両立できる環境を目指している。

将来の方向性

飼養羽数の規模拡大も考えながら、販売方法・生産技術の向上等で収益性を追求した経営を行っていく予定である。飼養形態については、日本における動物福祉の普及に伴って、現在使用しているウィンドウレス鶏舎や旧鶏舎を改装する際には、ケージフリーや平飼いに形態変更することも視野に入れている。

以前から小学校や中学校から社会見学、職場体験などの申し出があったが、飼養衛生上の問題で積極的に受け入れできなかった。今後は食育や養鶏場の仕事を知ってもらうためにも積極的に受け入れようと考えている。

６次産業化の取り組みについては現在プリン・親鳥加工品に加えて、手作りの季節の果実シロップやシロップを使ったジュース等も販売している。白鳳卵を使ったベビーカステラも新発売し、新しい商品が続々と登場するため、何度も直売所を訪ねたくなるように工夫している。今後も直売所手前に新しく併設されたテラスを使用してもらえるような商品開発を積極的に行っていく計画である。

さらにこのテラスはレンタルテラスとしても利用してもらい、ワークショップ等のイベントを開催する場所として地域の活性化につなげたいと考えている。

（写真９）広場にいるヤギ

（写真10）ヤギ小屋

（写真11）クラウドファンディング

日本一のジャージー産地を支えたい

ー仲間とともに地に足がついた経営の実践ー

丸山　昭博・都々子（酪農経営・岡山県真庭市）

地域の概況

蒜山は、岡山県最北部に位置し、大山連峰に連なる山々に囲まれた高原地帯である。主産業は、観光と農業であり、ジャージー牛の牧歌的風景や、スキーなどが楽しめ、県内有数の観光地として親しまれている。農業では自然環境を活かした酪農、米、大根などが盛んで、それぞれの生産物の色から三白農業と呼ばれている。酪農に関しては、ジャージー種による集約酪農地域として指定を受け、昭和29年度から７年間で800頭以上の乳用牛を海外から導入し、中国山地一の酪農地帯を形成するに至った。また、草地開発事業等により100ha以上の飼料生産基盤の整備も進んでいった。昭和31年には蒜山酪農農業協同組合が設立され、昭和59年以降、ジャージー牛乳の特

（写真１）家族写真（左から都々子さん、昭博さん、心さん）

（表１）経営の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和30年	酪農	ジャージー1頭	0ha	祖父が親戚から子牛を譲り受けたところからジャージー酪農を開始
昭和56年～	酪農	ホルスタイン・ジャージー15頭	0.5ha	両親は兼業農家（会社勤務）ながら、つなぎ牛舎を建設し、その後バーンクリーナーやパイプラインを導入
平成10年	酪農	ホルスタイン・ジャージー20頭	0.8ha	父親の病気を機にUターンし、地元の企業に勤めながら就農
平成12年	酪農	ジャージー50頭	10ha	経営を継承 ジャージーの単独経営に移行するにあたり、29頭を海外導入
平成13年	酪農	ジャージー50頭	12ha	酪農専業となることを決意し、畜産基盤再編事業でフリーバーン牛舎を整備
平成16年～	酪農	ジャージー90頭	20ha	ETによる和牛子牛生産を開始 青年農業者クラブ「蒜楽会」会長、蒜山酪農協青年部会長、おからく青年部役員などを務める
平成19年	酪農	ジャージー90頭	24ha	妻が祖母と交代で経営に参画
令和元年	酪農	ジャージー90頭 和牛10頭	30ha	息子が後継者として就農 酪農家４戸で飼料生産組織を設立

（表２）経営実績

経営概要	労働力員数（畜産・2000hr換算）	家族・構成員	4.4人
		雇用・従業員	0.1人
	経産牛平均飼養頭数		72.1頭
	飼料生産	実面積	3,300ａ
	年間総販売乳量		518,066kg
	年間子牛販売頭数		56頭
	年間育成牛販売頭数		0頭
	年間経産牛販売頭数		4頭
収益性	所得率		14.4%
	経産牛１頭当たり生産費用		1,220,687円
生産性	牛乳生産	経産牛１頭当たり年間産乳量	7,185kg
		平均分娩間隔	12.6か月
		受胎に要した種付回数	1.8回
		平均産次数（期首）	3.0産
		平均産次数（期末）	3.0産
		牛乳１kg当たり平均価格	148.9円
		牛乳１kg当たり生産費用	169.9円
		乳脂率	5.12%
		乳蛋白質率	4.03%
		無脂乳固形分率	9.45%
		体細胞数	14.3万個/ml
		借入地依存率	84.8%
		飼料TDN自給率	72.0%
		乳飼比（育成・その他含む）	44.9

徴を活かした加工品を全国に販売している。

経営・活動の推移

【円滑な家族経営の維持と継承】

昭和30年にジャージー牛１頭から始まり、現在まで親子３代で約70年続く酪農経営である。経営主が25歳でＵターンした平成10年は総頭数20頭の兼業農家であったが、平成13年に本格的に就農し、ジャージー専業経営に移行した。ジャージー牛の海外からの導入や補助事業を活用した牛舎整備を行いながら規模拡大を行い、平成17年には育成牛含め86頭で粗収入約4,254万円の経営に成長した。両親と妻の家族４人での経営となってからは、家族経営協定の締結により、円滑な家族経営を続けてきた。さらに、令和元年に４代目となる息子が就農した。

経営・技術の特色等

【ジャージー専業経営の確立】

経営主の昭博氏が就農した当時は、２品種混合の小規模経営であったが、簿記記帳や作業内容を分析し、経済性や労働負荷の面でデメリットが大きいこと、２品種の飼料を混合していることなどが牛の健康管理面で負担になっていることが判明した。広大な草地や連綿と続いてきた歴史といった蒜山の特性を守っていくため、ジャージー単独経営の道を選び、県内初となるジャージー経営でのフリーバーン牛舎を建設し、蒜山初の多頭飼育を実現した。

和牛ETの活用や自給飼料生産によるコスト削減、カウコンフォートを追求したフリーバーン牛舎やTMR方式の採用、衛生的な生乳生産等によって、高水準の生産性と収益性（経常所得1,298万円）を誇る牧場となった（**表２**）。

【資源循環型の自給飼料生産】

蒜山の冷涼な気候を利用しチモシーを栽培している。昭博氏は大学で専攻していた工業化学の知識を活かし、土壌改良を進め収量を確保してきた。近年は管理しきれなくなった農地の委託により、令和４年時点で計33haの栽培面積も確保できている。

また、蒜山ではトウモロコシ栽培が衰退していたが、飼料価格高騰への対応や規模拡大により増加した堆肥の活用のため、デントコーンの栽培を復活させた。ロールベール体系の確立や安価な電気柵の普及等により栽培農家が増える中、令和元年には酪農家３戸に呼びかけ飼料生産組織を設立し、低コスト化や効率化、情報共有を図っている。

（写真２）共同作業（収穫調整）の様子

【「酪農家＝企業経営者」の意識】

就農当初からパソコンによる簿記記帳を行い、経営管理を徹底してきた。その中でコストに対する意識が大きく変わった契機は、ジャージー乳製品売上の停滞であった。蒜山酪農協の理事として収益改善や地域振興に努める一方で、一酪農家として奨励金依存の経営から脱却を図るため、「何かあれば業者に頼む」という考えを捨て、自ら機械の修理を行ったり、育成牛舎を自作したりと「自分でできることは何でもやる」というスタイルに変えていった。

【カウコンフォート】

おいしい牛乳は健康な牛からをモットーに、牛が快適に過ごせる環境を追求し、ファンによる通風や清潔で乾いたベッドの管理、牛体ブラシの設置などで、ストレス軽減を図っている。

平成17年には、カウコンフォートの実証研究に取り組み、サシバエ対策としてサシバエネットに地域で一早く取り組んだ。結果、牛が安心して餌も食べられることから、夏場の乳量が１割ほど増えるといった効果がみられた。研修会を通して取り組み成果を共有することで、サシバエネットによる対策は地域の５戸に拡大した。その後もより良い方法を追求し、牛床に週１回ウジ駆除剤を散布したり、６mm×６mm目で繊維に防虫成分を含有した通気性・防虫性の高いネットを使ったりと対策を続けている。

【人が働きやすい牛舎】

搾乳時に効率よく除ふんができるようにする等、作業性を考慮したパーラーと牛舎を設計した。フリーバーン牛舎移行当初は、蹄病の発生に悩まされたが、重曹の自由採食と年２回の削蹄、地元の木材加工業者から得たカンナくずを毎日牛床に投入することで克服した。さらに、ベッドにドロマイト石灰を散布しており、蹄病だけでなく乳房炎の抑制、臭気の軽減や牛のストレス軽減にもつながって

（写真３）カウコンフォートに配慮した牛舎

いる。牛床のほか、通路や牛舎周辺も常にきれいに保たれており、人も快適に働ける環境を整えている。

また、給餌作業の省力化のためTMR方式および餌寄せロボットを導入した。餌寄せロボットは飼槽からの距離を調整することで、冬場の飼料給与が１日１回で済んでいる。

【牛の改良】

改良なくして経営の安定は図れないと考え、搾乳効率や長命連産につながる乳器を重視した牛づくりをしている。共進会にも精力的に参加し、日本ジャージー登録協会やおかやま酪農協ジャージー同志会の役員を務める中で、改良や登録などの知識・技術を身につけている。精液は海外産であり、SNS等で広く情報収集を行っている。平成30年からは一早く、乳用牛のゲノム解析による科学的な改良に取り組み、地域の12戸に波及したことで、蒜山のジャージー種の底上げが期待されている。

地域に対する貢献

【畜産環境対策と耕畜連携】

カンナくずによる牛床の乾燥と送風管理を徹底することで牛舎内での発酵が促進され、搬出堆肥を削減している。堆肥は１日に１～２回切り返し､雑草や硝酸態過多を防ぐため、完熟したものを散布するようにしている。草地に還元するほか、特殊堆肥として近隣の耕種農家に譲渡している。

生産された飼料のうち、二・三番草のロールは県全域の農家に販売しており、県北の粗飼料基地としての役割を果たしている｡また、高齢化により管理ができなくなった農地を請負うことで、蒜山の観光資源である牧歌的な風景を守っている。

【地域の食育・担い手育成への貢献】

Ｕターン後から長年、地元小学校の農作業体験指導等、地域と一体となった活動に積極的に携わってきた他、行政と連携した搾乳体験等を実施している。蒜山地域活性化事業にも運営検討委員として参画し、酪農ガイドの立ち上げや牧場見学のメニュー作成に携わり、酪農に対する理解醸成に貢献している。

また、牛飼いという仕事や都府県酪農のあり方を知ってもらうため、小学生の社会科見学や高校生の職業体験、農林水産省・日本政

（写真４）新鮮な生乳で作られたジャージー乳製品

（写真５）搾乳体験

策金融公庫職員等の研修などを長年受け入れている。さらには、蒜山高原にある中国四国酪農大学校の学生や酪農ヘルパー全国協会のヘルパーの研修を受け入れるなど、酪農業界の発展のため、担い手育成にも取り組んでいる。

【地域のブランド化への貢献】

平成13年から蒜山酪農協の低温殺菌牛乳生産の指定農場として、NON-GMO飼料やトレーサビリティに取り組んできた。蒜山酪農協の牧場体験者へのプレゼントや宅配に利用され、安全・高品質な牛乳として好評を得ている。

信望とリーダーシップが評価され、蒜山酪農協の理事や各種酪農関係で役員を務めている。酪農家の意見を発信する場を設け、ジャージー種の良さを活かした乳製品の開発や蒜山ならではの魅力を発信するための提言を行っている。

女性の活躍・働きやすい現場環境づくりの取り組み

【女性の活躍】

妻は経営のパートナーとして牛舎作業に携わっている他、視察や研修の受け入れが多い牧場を明るくきれいに保つため、牛舎周辺の

（写真６）後継者（心さん）

花植えなど環境美化にも取り組んでいる。

また､蒜山酪農協の女性部で活動する中で、蒜山外から嫁いできたばかりの人や、今後就農予定で今は他業種に勤めているような人のためのコミュニティが必要と考え、若手の集まりである「マミークラブ」を新たに立ち上げた。マミークラブや女性部では、地域のイベントへの参加や会員の牧場視察、先進地視察などを行っている。

【働きやすい職場づくりの取り組み】

妻が経営に参画したことを契機に家族経営協定を締結し、役割分担や休日、専従者給与の支払い等も定め、家族経営内での意識統一を図っている。

息子（心氏）の就農後は、昭博氏と2人で経営全般を担っている。息子は、スノーボード全日本技術選手権に岡山県代表で出場するほどの腕前であり、冬期に牧場作業が休めるよう配慮している。

将来の方向性

【今後の経営計画】

ホルスタインに比べ、乳量や副産物価格において不利な面はあるが、70年にわたる産地としての歴史を継承し、その栄養価の高さや濃厚な美味しさを消費者に届けたいとの思いから、仲間とともにジャージー酪農を守っていく考えである。経営継続並びに、酪農という産業を若い人達に継承していくには、地域との共存共栄が必須であり、今後も自給飼料生産を通した農地の保全や他業種との連携、消費者への理解醸成活動に尽力していく。

【次世代への継承】

息子の心氏は、父がトラクターに乗る姿に憧れ「いつかは牧場を継ぎたい」との思いを抱いて、父と同様に工業科の高校に進学した。就農後１年目から飼養管理全般に携わり、学生時代の知識や経験を活かし、農作業機械の修理や粗飼料生産のオペレーターも担っている。

大規模化と省力化に向けた三方よし
－牛よし・地域よし・家族よし－

植木俊輔・美和（肉用牛繁殖経営・大分県竹田市）

地域の概況

竹田市は、大分県の南西部に位置し、くじゅう連山・阿蘇山などの山岳に囲まれ、夏季は日中暑く朝晩は涼しい内陸性気候に属しており、気象条件を活かした農業が基幹産業となっている。

農業では、米を中心に、特産品である、かぼす、椎茸、トマトやスイートコーンといった野菜、サフランをはじめとする花き、肉用牛（豊後牛）などを生産している。令和４年度の肉用牛生産では、農家数252戸で4,634頭が飼養されており県内最大の産地を形成している。

経営・活動の推移

植木牧場は、昭和40年に祖父が肉用牛10頭から開始し、稲作、ピーマン、椎茸の複合経営を行ってきたが、平成３年に父へと引き継がれ『肉用牛繁殖専業』に経営転換し、平成29年に現在の経営主の俊輔氏が継承した。

当牧場は「大規模化と省力化に向けた三方よし（牛よし・地域よし・家族よし）」を経営方針に掲げ、取り組みを行ってきた。

はじめに、広大な地域資源を活用した高い収益の確保と飼養規模の拡大に取り組んだ。平成3年から実施された「久住飯田地域広域農業開発事業」により造成された共同牧野の改良草地70haを活用し、放牧と自給飼料の

（写真１）家族写真　左から俊輔さん、妻の美和さん

確保等により生産コストの低減に努め、50頭規模まで拡大を行った。その後、平成13年のBSEによる子牛市場価格の暴落をチャンスと捉え、100頭規模まで拡大を図った。

次に、施設・機械装置を活用した労働省力化の取り組みである。平成10年以降、先進的な機械装置や技術を導入し、飼養管理の省力化、繁殖成績の向上、子牛の事故率低減・発育向上や人工哺乳技術の確立などに取り組んだ。また、平成25年には、ふん尿処理等牛床管理の省力化と衛生対策に向けて「100頭規模のサンシャイン牛舎」の建設を行った。

さらに、地域と一体となった労働省力化に取り組んでいる。父が仲間とともに提唱した、共同子牛育成施設「キャトルステーション」と定休型ヘルパー組織「久住地域肉用牛ヘルパー組合」の設立により、高齢者・大規模農家の日常の管理労働力を軽減するとともに、

（表１）経営・活動の推移

年次	作目構成	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和49年	・肉用牛繁殖（黒毛和種） ・ピーマン ・稲作、乾椎茸	10頭	・稲作（1.7ha） ・ピーマン（15ａ）	・父は、昭和49年3月に大学卒業後、就農。 ・経営の主力はピーマンで、肉用牛は10頭。
平成２年	・肉用牛繁殖（黒毛和種） ・ピーマン ・稲作、乾椎茸	20頭	・稲作（1.7ha） ・ピーマン（30ａ）	・農林漁業金融公庫資金を活用し、80ａの水田基盤整備。
平成３年 ～平成９年	・肉用牛繁殖（黒毛和種）	50頭	・個別牧野（延べ6.0ha） ※永年混播牧草（イタリアン、オチャード等） ・周年放牧（35.0ha）	・父は40歳で祖父より経営移譲。 ・肉用牛繁殖単一経営へと方針転換。 ・「久住飯田広域農業開発事業」により、改良された草地（中組牧野）70haに放牧、自給飼料の確保。
平成10年 ～平成12年	・肉用牛繁殖（黒毛和種）	70頭	・個別牧野（延べ6.0ha） ※永年混播牧草（イタリアン、オチャード等） ・周年放牧（35.0ha）	・平成10年「連動スタンチョン」導入。 ・平成12年「超早期母子分離技術」導入。
平成13年 ～平成14年	・肉用牛繁殖（黒毛和種）	100頭	・個別牧野（延べ6.0ha） ※永年混播牧草（イタリアン、オチャード等） ・周年放牧（50.0ha）	・平成13年 県内初、「哺乳ロボット」導入。 ・平成13年 BSE発生。 ・平成14年 大分県豊後牛牛飼い塾 塾頭歴任。 ・平成14年「キャトルステーション」設立に尽力。
平成15年 ～平成20年	・肉用牛繁殖（黒毛和種）	150頭	・個別牧野（延べ6.0ha） ※永年混播牧草（イタリアン、オチャード等） ・周年放牧（70.0ha）	・平成18年 経営主夫婦が就農開始。 ・平成19年 大分畜産Net“鼓動”設立し、会長歴任。 ・平成20年 県内初、分娩監視装置「牛恩恵」導入。
平成21年 ～平成24年	・肉用牛繁殖（黒毛和種）	120頭	・個別牧野（延べ6.0ha） ※永年混播牧草（イタリアン、オチャード等） ・周年放牧（70.0ha）	・平成21年 定休型ヘルパー組織「久住地域肉用牛ヘルパー組合」設立し、組合長歴任。
平成25年 ～平成28年	・肉用牛繁殖（黒毛和種）	110頭	・個別牧野（延べ6.0ha） ※永年混播牧草（イタリアン、オチャード等）	・平成25年「サンシャイン牛舎」新築。 ・平成28年 大分県家畜人工授精師協会長就任。
平成29年 ～現在	・肉用牛繁殖（黒毛和種）	100頭	・個別牧野（延べ6.0ha） ※永年混播牧草（イタリアン、オチャード等） ・共同牧野（延べ270.0ha） ※永年混播牧草（イタリアン、オチャード等） ・イタリアン（延べ5.0ha） ・WCS（2.5ha）	・平成29年 経営主は父より、36歳で経営移譲。 ・令和2年「たけたんあぐりネット」設立。 ・令和2年 大分県の指導農業指導士認定。 ・牧場周辺の山を開墾し、3.5haの草地整備。

休日が確保できるゆとりある肉用牛経営の確立が実践できている。

経営・技術の特色等

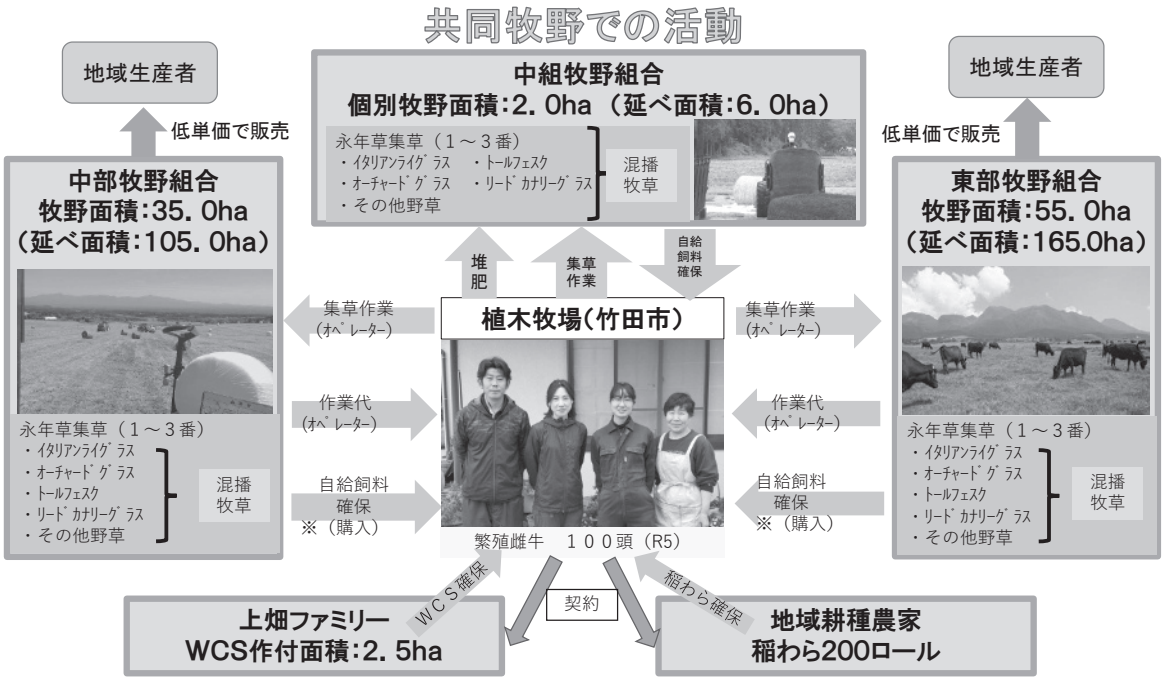
（１）広大な地域資源（改良草地）を活用し高い収益性を確保するための飼養規模拡大

当牧場で一番の取り組みは、「久住飯田地域広域農業開発事業」により草地改良された広大な共同牧野を積極的に活用した自給飼料の確保とコスト低減である。

平成18年に成雌牛を150頭規模まで拡大したことで、労働力不足となり購入飼料依存型経営となったが、平成29年の経営移譲を機に、再度広大な草資源を活用して安定した経営を継続するため、飼養規模を100頭規模とした。

その後自給飼料型経営に転換し、成雌牛１

（図１）共同牧野関連図



（表２）経営実績 (令和４年)

経営の概況	労働力員数（畜産・2000hr換算）		家族・構成員	3.3人
			雇用・従業員	0.3人
	成雌牛平均飼養頭数			91.7頭
	飼料生産	実面積		9,960ａ
	年間子牛分娩頭数			82頭
	年間子牛販売頭数	雌子牛（肥育もと牛生体販売）		32頭
		雄子牛（肥育もと牛生体販売）		48頭
収益性	所得率			15.0％
	成雌牛１頭当たり生産費用			668,136円
生産性	繁殖	成雌牛１頭当たり年間子牛分娩頭数		0.89頭
		成雌牛１頭当たり年間子牛販売頭数		0.87頭
		平均分娩間隔		12.0ヵ月
		雌子牛	販売日齢	297日
			販売体重	282kg
			日齢体重	0.949kg
			１頭当たり販売価格	563,853円
		雄子牛	販売日齢	286日
			販売体重	305kg
			日齢体重	1.066kg
			１頭当たり販売価格	722,723円
	粗飼料	成雌牛１頭当たり飼料生産延べ面積		309.1ａ
		借入地依存率		-％
		飼料TDN自給率		80.3％

頭当たり購入飼料費の平均が177千円となり、購入型経営時より約34％の削減となっており、成雌牛１頭当たり購入飼料費は経営診断全国集計（中央畜産会調べ（畜産クラスター全国実態調査））の平均値と同水準となっている。

共同牧野では、16戸で混播牧草を延べ270ha、個人所有地では、混播牧草を延べ６haとイタリアンライグラスを延べ５ha収穫している。その他耕畜連携により飼料稲を2.5ha作付けしWCSを生産している。これにより、成雌牛の粗飼料については全量自給飼料でまかなえており、直近の粗飼料のTDN自給率は80.3％であり、生産コストが低減し、収益性の確保につながっている。

（２）安定的な生産性を維持した飼養管理による高い収益性の確保

平成29年に現経営主の俊輔氏へと経営承継され、最大で成雌牛150頭規模まで拡大したが、飼養規模は、国内外の情勢を鑑みて、100頭前後を維持する計画を立て、現在の常時頭数は91.7頭となっている。

収益性の柱となる繁殖技術は父の代で確立され、基本的な飼養管理を徹底し、１年１産を継続しており、直近10年間の平均分娩間隔は、12.3ヵ月となっている。子牛生産率をみて

も、令和４年は87.5%、直近10年間の平均は91.2%と高い生産性を維持している。平均分娩間隔および生産率は経営診断全国集計と比較しても、安定的な生産性を継続している。

また、『事故０』を目指すため、植木牧場式アニマルウェルフェアの考え方として、「本来あるべき姿の自然な飼養管理」を実践し、子牛の疾病予防を目的とした超早期離乳技術の導入やサンシャイン牛舎の新設により、牛がストレスなく過ごせる環境作りを実現してきた。分娩事故も減少しており、収益の確保につながっている。

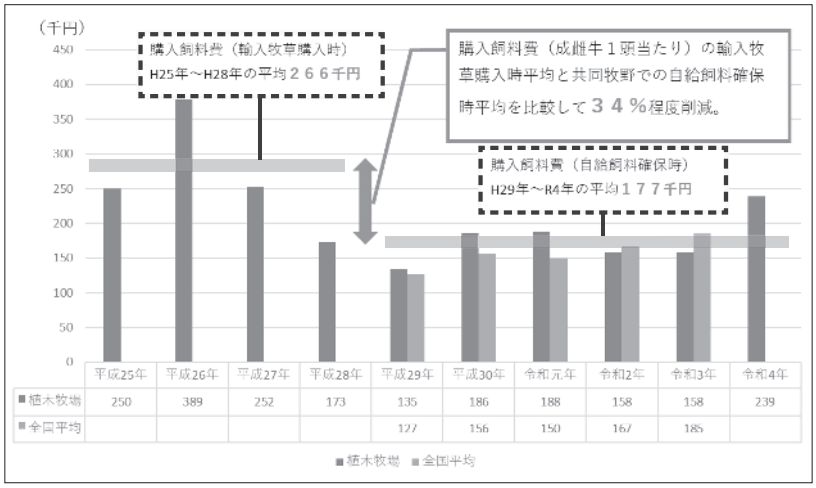
（３）地域と一体となった労働省力化の取り組み

当牧場のもう一つの取り組みに、地域と一体となった労働省力化の取り組みとしてキャトルステーションの利用と定休型ヘルパー組織の活用がある。

キャトルステーションの利用で、子牛への飼養管理時間が軽減され、品質が斉一化し安定的な出荷成績が望めるようになった。また、子牛飼養スペースが空くことで増頭が可能となり、畜舎等の更なる増築・新築をする必要がなく施設投資の抑制にもなっている。子牛の販売価格は、直近10年間で県平均並びに経営診断全国集計と比較しても上回っている。

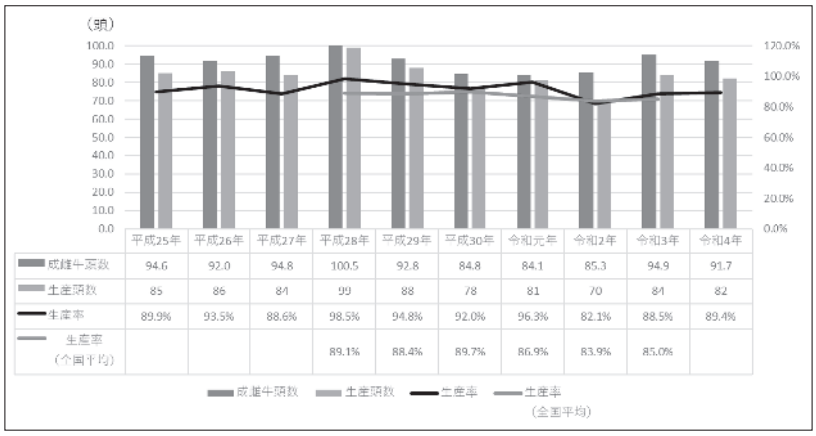
また、久住地域肉用牛ヘルパー組合は、労働力不足、後継者・担い手不足に加えて農家の高齢化が進む中、ゆとりある肉用牛経営を目指して、月に数日の定休日が確保できる体制で運営されており、当牧場では月に１～２回程度利用している。

（図２）購入飼料費の比較（成雌牛１頭当たり）



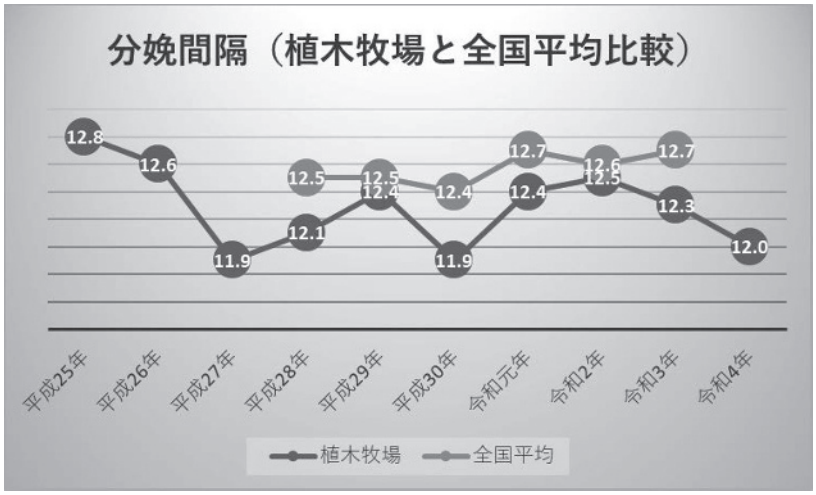
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
■植木牧場	250	389	252	173	135	186	188	158	158	239
■全国平均					127	156	150	167	185	

（図４）子牛生産頭数と生産率



	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
成雌牛頭数	94.6	92.0	94.8	100.5	92.8	84.8	84.1	85.3	94.9	91.7
生産頭数	85	86	84	99	88	78	81	70	84	82
生産率	89.9%	93.5%	88.6%	98.5%	94.8%	92.0%	96.3%	82.1%	88.5%	89.4%
生産率（全国平均）				89.1%	88.4%	89.7%	86.9%	83.9%	85.0%	

（図３）分娩間隔②

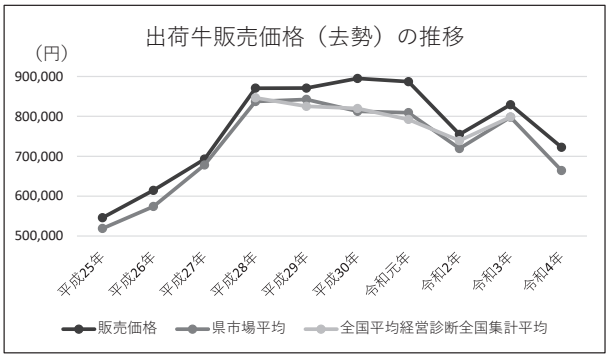


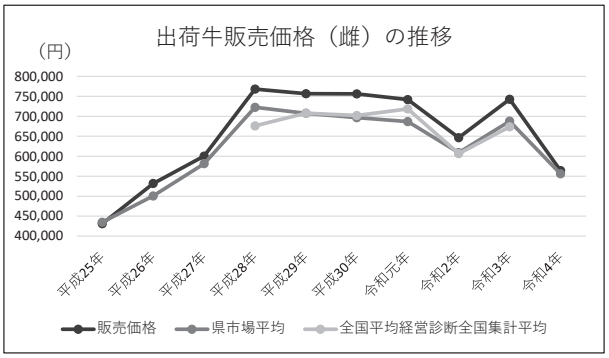
（図５）子牛出荷牛の発育値と販売価格

市場出荷牛の発育値と販売価格（10ヶ年）

（単位：円、日、kg、kg/日）

		平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
去勢	販売価格	518,849	573,968	678,338	837,354	842,431	812,767	809,335	719,529	797,746	664,244
	日齢	274	273	273	276	279	277	276	278	278	279
	体重	290	289	290	293	299	298	297	301	306	307
	日齢体重	1.058	1.059	1.062	1.062	1.072	1.076	1.076	1.083	1.101	1.100
雌	販売価格	434,734	500,686	581,427	722,751	707,649	696,751	686,680	609,057	687,923	555,795
	日齢	286	283	284	286	287	287	286	286	286	287
	体重	271	271	271	274	279	279	277	277	282	283
	日齢体重	0.948	0.958	0.954	0.958	0.972	0.972	0.969	0.969	0.986	0.986





（写真２）共同牧野

（写真３）キャトルステーション・久住地域肉用牛ヘルパー組合

地域に対する貢献

（１）共同牧野活動

「共同牧野」での採草活動は、くじゅう高原の広大な自然景観の維持にも貢献している。また、牧草は、牧野組合を通じて、高齢生産者や､地域の生産者に低価格で販売され、地域の畜産業に大きく貢献している。また、環境保全対策として、当牧場の堆肥を全量牧野、水田等に還元している。

（２）「キャトルステーション」・「久住地域肉用牛ヘルパー組合」

キャトルステーションは、高齢者・大規模農家の労働力の軽減と、子牛の品質の斉一化により、管内市場での安定的な子牛価格の一助となっている。

また、久住地域肉用牛ヘルパー組合は､「ゆとりある肉用牛経営を目指して」休日の確保とともに、市外から応募したヘルパー要員が地域内に定住し、さらに肉用牛経営の新規就農にもつながっており、後継者の確保等に寄与している。

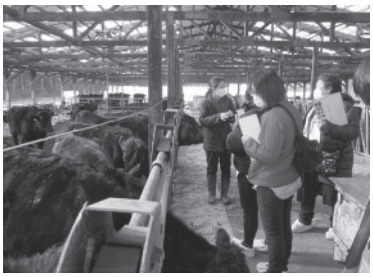
（３）食育活動

１）「いのちの学習」

経営主夫婦は、小・中学校で定期的に食育活動「いのちの学習」として、食育授業をしており、生徒たちに畜産業への理解醸成や命の大切さを伝える活動を行っている。

（写真４）食育活動

（写真５）こども食堂



（写真６）植木美和氏

２）こども食堂でのおおいた和牛の無償提供活動

県内生産者ネットワーク組織である「大分畜産Net“鼓動”」の会員として、地元のこども食堂に「おおいた和牛」の提供を行い、こども食堂ではカレーライスをこどもたちに振る舞い、地域内でも大好評である。

女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取り組み

（１）女性の活躍

当牧場の労働力は４名で、そのうち３名が女性である。

妻と母の役割は、子牛の哺乳を中心に、家事、子育て、経理、事務などをお互い協力して行っている。牧場の発展は、妻・母の支えが計り知れない。

また、妻は大学卒業後、大分県に移住し夫婦で大分県畜産研修センターに入校し、１年間畜産を学び就農した。知り合いがいない中、悩みを相談できないことや、大規模牧場であるがゆえの多岐にわたる作業でさまざまな苦労をした。

この17年間、牛飼い仲間のつながりや、夫婦でさまざまな活動を行った結果、妻は地域や新規就農者から慕われる存在となり、令和２年には、地元女性組織「たけたんあぐりネット」を設立し、積極的に活動している。また、新規就農者への農業指導ができるように、大分県の指導農業士に認定された。

（２）働きやすい職場環境づくり

当牧場では、働きやすい労働環境を実現するため、久住地域肉用牛ヘルパー組合を利用するとともに、キャトルステーションに子牛を育成委託することで、ゆとりある肉用牛経営を実践している。また、家族同然のパート従業員とは、朝食を夫婦と一緒に囲み、コミュニケーションも十分に取っている。

将来の方向性

将来の方向として「大規模化と省力化に向けた三方よし（牛よし･地域よし･家族よし）」の経営理念の下、地域とともに経営発展するために、自給飼料の確保やキャトルステーション・久住地域肉用牛ヘルパー組合の活用により、規模のさらなる拡大等、経営基盤の強化を図り、地域一体型の経営を目指していく。

当牧場の目標として成雌牛130頭規模まで拡大を行う計画を持っており、それに伴い、新育成牛舎を設置する予定としている。また、これまでに確立した技術と基本的な飼養管理の徹底、植木牧場式アニマルウェルフェアを実践することで、目標としている事故『０』と分娩間隔１年１産を継続していく。

さらに、牧野組合と連携を密にし、牧野を最大限に利用するため作付面積を100haまで広げ放牧も拡大していく。

そして、「経営主夫婦の共通の夢である牛飼いを学ぶことができる農泊」を設立し、地域で牛飼い農家を増やす活動も実現していきたいとの思いを持っている。

夫婦で築いた地域一番の堅実経営

ー夢は後継者へー

株式会社上鶴畜産（肉用牛繁殖経営・鹿児島県錦江町）

地域の概況

錦江町は、鹿児島県の大隅半島中南部に位置し、町の西側に広がる錦江湾（鹿児島湾）が町名の由来である。主な産業は農業で、黒毛和牛などの畜産が盛んである。令和２年度の農業産出額119億7千万円で、その74％（88億2千万円）を畜産が占め、そのうち肉用牛が28億9千万円となっている。

（写真１）家族写真　右から広己さん、妻の映子さん、後継者の祐貴さん、後継者の妻の碧泉さん

経営・活動の推移

昭和60年、現経営主である上鶴広己氏が鹿児島県立農業大学校を卒業後、20歳で就農し、経営の柱を露地野菜・林業から肉用牛経営へとシフトし、昭和63年に自宅併設の牛舎から、自己資金により現在の場所に牛舎を建設、移転した。

平成７年に60頭規模になったのを契機に、広己氏が農大で取得していた人工授精師の資

（表１）経営の推移

年次	飼養頭数	飼料作付面積	経営・活動の内容
昭和60年	成雌牛５頭	50ａ	経営主は父親 広己氏：鹿児島県立農業大学校卒業
平成７年	成雌牛60頭	300ａ	広己氏　自身による人工授精開始
平成13年	成雌牛95頭	50ａ	広己氏が経営主に　子牛人工哺育を開始
平成15年	成雌牛100頭	400ａ	哺乳ロボット、細霧装置を導入
平成21年	成雌牛170頭	400ａ	広己氏　指導農業士に
平成28年	成雌牛200頭	600ａ	分娩監視装置を導入
平成29年	成雌牛200頭	600ａ	個別型哺乳ロボット導入、スマート農業実証農家に！
平成30年	成雌牛210頭	600ａ	法人化　雇用型経営体制へ
令和４年	成雌牛227頭	800ａ	後継者夫妻が経営に参画

（表２）経営実績

経営の概況	労働力員数（畜産・2000hr換算）		家族・構成員	2.2人
			雇用・従業員	3.0人
	成雌牛平均飼養頭数			226.9頭
	飼料生産	実面積		950ａ
	年間子牛分娩頭数			173頭
	年間子牛販売頭数	雌子牛（肥育もと牛生体販売）		51頭
		雄子牛（肥育もと牛生体販売）		90頭
収益性	所得率			33.4％
	成雌牛１頭当たり生産費用			441,472円
生産性	繁殖	成雌牛１頭当たり年間子牛分娩頭数		0.76頭
		成雌牛１頭当たり年間子牛販売頭数		0.62頭
		平均分娩間隔		12.7か月
		雌子牛	販売日齢	273日
			販売体重	275kg
			日齢体重	1.007kg
			１頭当たり販売価格	646,865円
		雄子牛	販売日齢	269日
			販売体重	317kg
			日齢体重	1.178kg
			１頭当たり販売価格	816,334円
	粗飼料	成雌牛１頭当たり飼料生産延べ面積		8.4ａ
		肥育牛１頭当たり飼料生産延べ面積		ａ
		借入地依存率		42.1％
		飼料TDN自給率		105.4％

格を活かし、自家人工授精を開始した。その結果、分娩頭数が安定し、子牛の生産頭数も増加した。一方で子牛の呼吸器系・消化器系の疾病が多発するようになったため、子牛の損耗を防止するため「夜間の見回り」や「疾病･事故事例の詳細な記録」を開始した結果、子牛の疾病･事故が低減し、経営が安定した。

平成13年に、広己氏が経営主となり成雌牛95頭規模まで拡大し、翌年には、100頭規模となった。この頃から人工哺育に取り組んできたが、哺乳頭数の増加に伴い人力での作業に限界を感じたことから、管理の効率化・省力化を図るため、平成15年に固定式の哺乳ロボットを導入した。また、暑熱による母牛の損耗防止や消毒による防疫を図るため、細霧装置を導入した。県の普及所（現地域振興局農政普及課）等の指導を受けながら、哺乳ロボットによる人工哺育体系を確立し、平成21年には、鹿児島県内では数少ない肉用牛経営の指導農業士に認定された。

平成28年に分娩通知システムと分娩監視カメラを導入し、また、平成29年には移動式哺乳ロボットを導入し、哺乳子牛の個体管理を行ったことで、繁殖管理や子牛の育成管理技術が大幅に向上した。

平成30年には、大隅半島南部を代表する成雌牛210頭規模の法人を設立し、現在、後継者夫婦が経営に参画している。

経営・技術の特色等

【経営の特色】

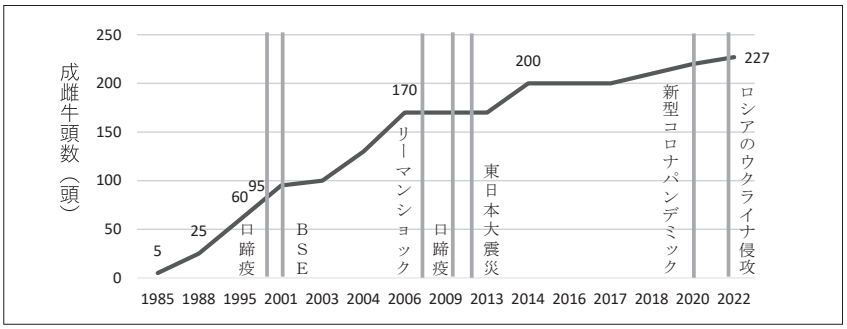
法人経営体として、高い安全性と所得率を達成している。その要因として経理部門が独立していることにある。経理部門の責任者は、経営主の妻（映子氏）で、広己氏との結婚を

（写真２）農場全景１

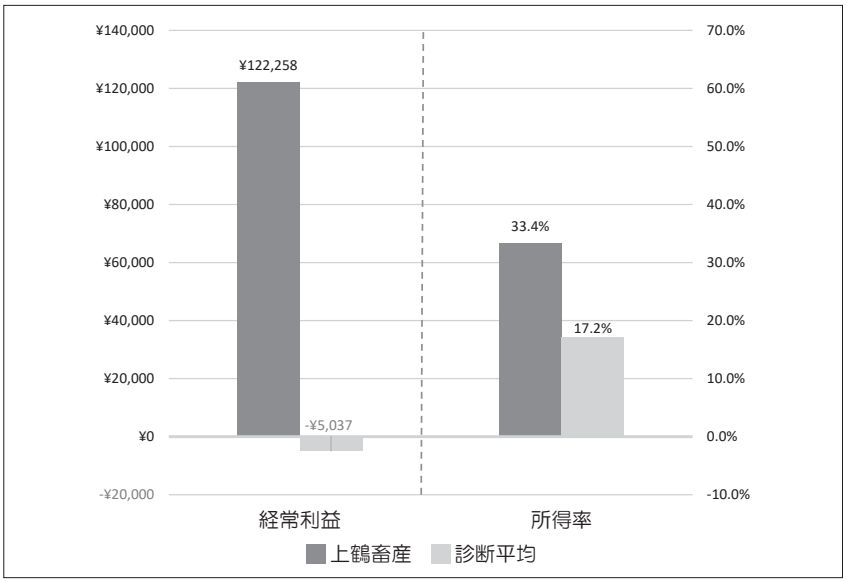
（写真３）農場全景２

機に就農し、就農時から青色申告会や認定農業者研修等に参加するなど、経営管理能力を高め、収入より所得を重視しながら、歳入・歳出を緻密に管理してきた。このことは、当経営が肉用牛情勢などの変化に対応しながら、規模拡大を図ってきたことからも伺える（**図１**）。法人化後の１～４期の収入と費用の比較を見ると、飼料などの生産資材高騰により費用が増加し、子牛価格の下落により収入が減少している状況の中でも、収益を確保できていることがわかる。このような優れた経営感覚を活かした経営を長年継続した結果、現在、借入金はなく、４期では33.4％いう高い所得率をキープしている（**図２**）。

（図１）増頭年表（経営の推移）



（図２）成雌牛１頭当たりの経常利益と所得率の比較（令和３年）



（注）診断平均：鹿児島県畜産協会が実施した畜産経営診断対象農家（肉用牛繁殖経営）の平均値

【技術の特色】

（ICTの活用による高い生産性）

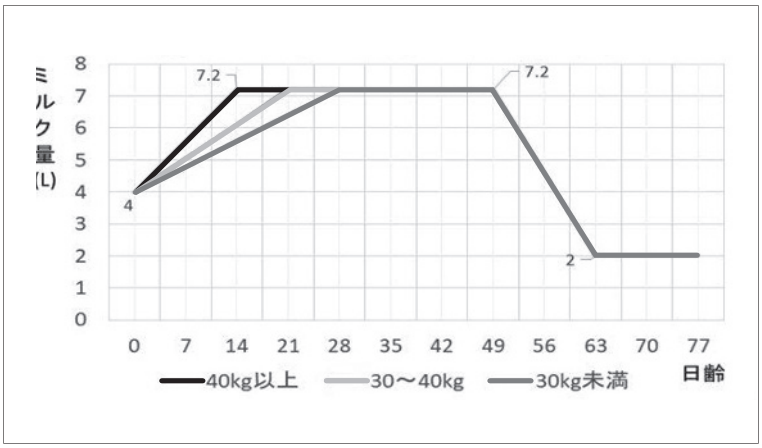
上鶴畜産では、各母牛の飼養牛舎を決めており、分娩前に分娩舎に一旦移動するものの分娩後は必ず元の牛舎へ戻すことでストレスの緩和を図っている。繁殖牛舎では細霧装置による消毒と暑熱対策を講じている。また、

（写真４）平成15年導入の消毒細霧装置

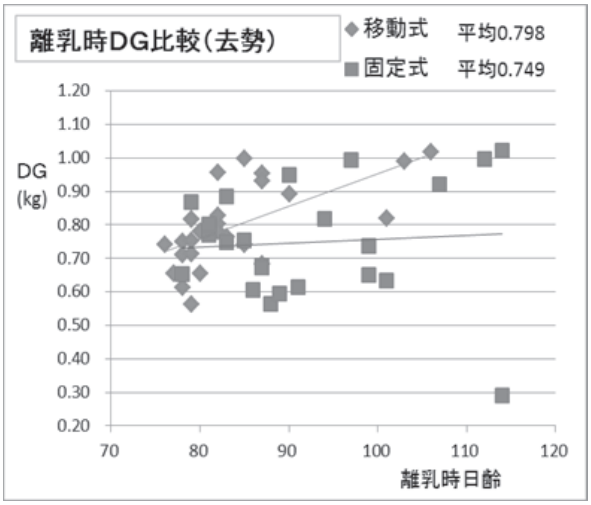
（写真５）平成28年導入の分娩監視装置

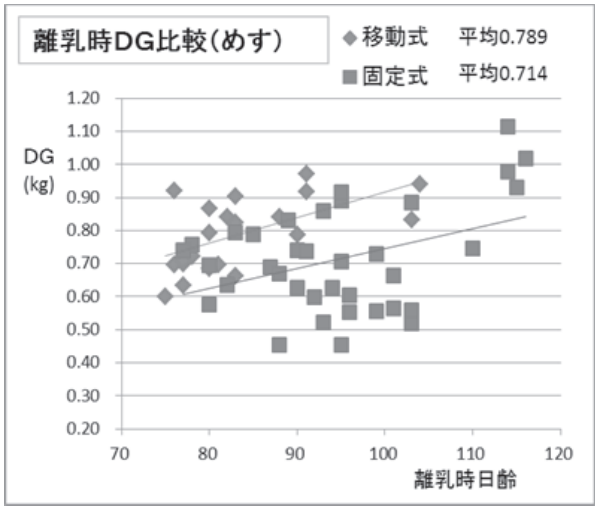
（写真６）平成15年導入の哺乳ロボット

（図３）人工哺乳（生時体重別設定）プログラム例



（図４）人工哺乳による離乳時DG





分娩監視装置や監視カメラにより、分娩兆候の把握や発情発見の省力化を図っており、分娩間隔は12.7か月（鹿児島県平均13.1か月）となっている。

（哺乳ロボットによる、効率化と省力化）

平成15年には、哺乳業務の効率化と省力化を目的に哺乳ロボット（固定式）を導入した。導入当初は、疾病が多く、哺乳ロボットに慣れない子牛の発育が停滞するなど、試行錯誤の毎日であった。そこで、代用乳と哺乳ロボットに子牛を馴致させることが重要と考え、哺乳ロボットを活用するために群飼に入る前に、人力による哺乳の馴致ステージを設定した。現在では、大隅半島南部の大多数の肉用牛繁殖経営でこの方法による人工哺育が行われている。

平成29年には、スマート農業実証プロジェクトに参画し、移動式哺乳ロボットの実証を行った（**図３**）。

このロボットは乳牛用に開発された機器であったことから、哺育担当の映子氏が黒毛和種用に改造した。哺乳時の作動状況や子牛の健康状態を記録するとともに、乳頭部の形状、供給圧力、哺乳頻度等の改良を重ね、１年を費やして黒毛和種の子牛用として完成させた。その結果、固定式と比較して子牛の疾病発生率が41.4％減少し、離乳時の増体量が増加することが実証された。また、離乳時の1日平均増体量（DG）が増加し、発育が安定する結果となった（**図４**）。

（写真７）手飲ませステージ（馴致）の設置

（写真８）平成29年導入の移動式哺乳ロボット

地域に対する貢献

【地域のブランド化への貢献】

当農場は全国有数の肉用牛生産地帯である肝属地域にあり、生産した子牛は「きもつき牛」としてブランド化され、購買者の間でも評価が高く、その生産基盤の維持・拡大に大きく寄与している。

【耕畜連携による粗飼料の確保】

当該経営体は、延べ面積16ha（うち借地８ha）で飼料作物を栽培し、さらに1.5haの水田で稲WCSを調整し自給飼料を確保している。また、地域内水田16haで稲WCSの収穫作業を受託し、地域内における耕畜連携により粗飼料の確保に取り組んでいる。

【地域の雇用への貢献】

当該経営体は、平成30年の法人化後、雇用形態による経営へ移行し、最大で３名の従業員を雇用している。また、毎年、地元の農業高校や農業大学校の実習生を積極的に受け入れ、県内肉用牛の担い手確保・育成に大きく貢献している。さらに、近年では農福連携にも取り組んでいる。

【地域の食育等への貢献】

錦江町内小・中学校等への出前事業の講師として積極的に参加し、肉用牛経営のやりがいや存在意義、さらに食育について講演（牛肉の食味を含め）を実施し、未来を担う子供たちへの食育等にも貢献している。

【地域の他農家との連携】

広己氏は肝属地域の指導農業士の一員として、女性農業経営士とも協力し、新規就農者の巡回指導に参加し、次世代の担い手を育成する活動に取り組んでいる。

女性の活躍・働きやすい職場環境づくりの取り組み

【女性の活躍】

上鶴畜産は、平成６年に家族経営協定を締結し、経営主の妻である映子氏は経理と子牛育成部門を担当している。特に経理部門では、就農前の金融機関での勤務経験を活かし、上鶴畜産の経営の安定化に大きく寄与するとと

もに、哺乳ロボットの実証・改良に携わり、飼養管理技術においても大きな役割を担っている。また、その成果をフィードバックすることで、地域の他経営の技術向上にも貢献している。現在は後継者の妻である碧泉氏と一緒に作業をしながら、技術等の継承にも取り組んでいる。

【協同意識】

働きやすい環境の整備のために、午前10時と午後３時の休憩兼ミーティング時には、個々が飼養管理中に発見した情報を共有することとしている。上鶴畜産においては、協同意識を重視し、全員が役割をまっとうし、全員の話し合い・相談により、対処方法や方向性を決定している。

（写真９）出前授業で講話する広己氏

（写真10）新規就農者巡回指導の様子

将来の方向性

【次世代への継承（経営の継続性）】

経営主夫妻は60歳定年を名言しており、定年後は祐貴氏に経営移譲したいと考えている。自身の経験から何事も自分で取り組まないと本物にならないと考えているとのことである。祐貴氏は世界の情勢を踏まえ、当面は現況を維持することを目標としている。それを達成したと思えるようになってから、更なる規模拡大を目指したいと考えている。

【今後の経営計画】

今後、肉用牛繁殖経営300頭を目指しており、そのためには飼料畑の確保が必要と考えている。一方で、生産資材高騰や子牛価格の下落など、厳しい状況ではあるが、これまでどおり家族で役割分担しながら、生産コストを抑え、堅実な経営を目指していく。生産技術については、近年のDX（デジタルトランスフォーメーション）の進歩により、新たな技術の開発が進むことに期待しており、今後、それらを積極的に取り込みながら、軽労化を図っていきたい。

地域的には人口の減少は否めないが、学校との連携を通じて子供たちへの畜産業への理解促進に取り組むとともに、指導農業士として農業後継者の育成に努め、地域畜産の発展に寄与したい。

Ⅲ

これまでの受賞事例（昭和61年度～令和４年度）

※昭和６１年度～平成５年度までは「全国優良畜産経営技術発表会」として開催。
　平成６年度以降は「全国優良畜産経営管理技術発表会」として開催。

〔昭和６１年度〕
開催期日：昭和６１年７月２８日
開催場所：東京都千代田区一番町　全国町村議員会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	花岡　信重	香川県仲多度郡琴平町	肉用牛	肥育経営の精密経営を目指して
優秀賞	和田八十三	長野県諏訪郡富士見町	酪　農	我が家の経営改善と地域の酪農発展を目指して
	入沢　三郎	岡山県真庭郡八束村	酪　農	ジャージー牛にかけるわが家の酪農経営
	上田　快晴	高知県高岡郡窪川町	肉用牛	野シバ草地による繁殖牛経営
	山下　正人	長崎県南松浦郡三井楽町	肉用牛	肉用牛専業経営を目ざして
	坂上　光芳	新潟県岩船群神林村	養　豚	低豚価時代に対応する私の養豚経営の取り組み
	石田　勝彦	広島県広島市	養　豚	父から引き継いだ私の養豚経営
	多田　菊久	京都府宇治市	養　鶏	都市近郊における私の採卵養鶏経営の歩み

〔昭和６２年度〕
開催期日：昭和６２年７月２１日
開催場所：東京都千代田区九段南　九段会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	矢田　栄蔵	島根県出雲市	肉用牛	未利用資源活用による肉用牛繁殖経営の確立（蚕糞、蚕渣、残桑）
優秀賞	渡辺　　眩	岩手県胆沢郡金ヶ崎町	酪　農	低コスト健全酪農の実践
	木口　源己	大分県大野郡野津町	酪　農	低コスト生産を目指した私の酪農
	上路　光男	青森県下北郡東通村	肉用牛	林間放牧による肉用牛の低コスト生産
	山城　善彦	沖縄県国頭郡伊江村	肉用牛	私の肉用牛繁殖経営
	納田　伸春	徳島県板野郡上板町	養　豚	養豚経営と地域のコミュニケーション
	末吉　広美	鹿児島県鹿屋市	養　豚	養豚一貫経営の安定を目指して
	北川　富蔵	滋賀県神崎郡五個荘町	養　鶏	簿記記帳を生かした養鶏経営について

※　**矢田　栄蔵氏は**第２６回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞。

〔昭和６３年度〕
開催期日：昭和６３年６月３０日
開催場所：東京都千代田区二番町　番町グリーンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	宮良　當成	沖縄県八重山郡竹富町	肉用牛	離島における低コスト生産をめざした私の肉用牛経営
優秀賞	工藤　一幸	青森県東津軽郡平内町	酪　農	苦悩１５年、そして明日へ（良質粗飼料生産に伴うコスト低減）
	大平賢一郎	新潟県南魚沼郡六日町	酪　農	安定した酪農経営をめざして
	伊藤　　幸	宮城県桃生郡桃生町	肉用牛	地域とともに歩む和牛繁殖経営
	若山　　巌	岐阜県高山市	肉用牛	私の和牛繁殖経営
	荒牧　弘幸	熊本県阿蘇郡高森町	肉用牛	試練から立直り肉用牛一貫経営（地域・経営内）への挑戦
	小林　秀雄	群馬県前橋市	養　豚	基本に忠実な我が家の養豚経営
	中西　嘉幸	和歌山県有田郡広川町	養　鶏	グループ活動と私のブロイラー経営

※　宮良　當成氏は第２７回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成元年度〕
開催期日：平成元年７月１２日
開催場所：東京都千代田区九段南　九段会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	鈴木　孝則	宮崎県児湯郡新富町	肉用牛	肉用牛の専業農家を目ざして
優秀賞	南　　雄司	群馬県渋川市	酪　農	経営向上を目指す乳肉複合
	伊東　誠一	大分県宇佐郡安心院町	酪　農	兄弟で築くゆとりある酪農経営をめざして
	冨田　重正	滋賀県東浅井郡浅井町	肉用牛	低コスト生産による収益性の向上
	植田　光隆	兵庫県美方郡温泉町	肉用牛	低コストを目指した肉用牛経営に取り組んで
	野尻　健一	熊本県阿蘇郡高森町	肉用牛	肉用牛の共同放牧と投資抑制による低コスト生産への挑戦
	昆野　雅敏	岩手県北上市	養　豚	種雌豚１頭当たり肉豚出荷２４頭をめざして
	木村　勝芳	奈良県北葛城郡當麻町	養　鶏	一代できずいた採卵養鶏経営

※　鈴木　孝則氏は第２８回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成２年度〕
開催期日：平成２年６月２９日
開催場所：東京都千代田区永田町　全国町村会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	明見孝一郎	香川県綾歌郡飯山町	肉用牛	合理的な肉用牛肥育経営を目指して
優秀賞	佐久間貴弓	千葉県君津市	酪　農	低コストによる経営の安定を目指して
	高野　守康	群馬県佐波郡東村	酪　農	堅実な向上を目指す酪農経営
	星　　正喜	宮城県登米郡迫町	肉用牛	肉用牛一貫経営の確立をめざして
	原田　道明	宮崎県西諸県郡高原町	肉用牛	粗飼料完全自給の肉用牛専業経営実現を目指して
	森本　芳雄	滋賀県蒲生郡安土町	養　豚	精密養豚に取り組んで２５年
	中村　正則	岩手県上閉伊郡宮守村	養　鶏	開放鶏舎による山間寒冷地帯のブロイラー生産
	小林　倉雄	神奈川県津久井郡城山町	養　鶏	私の鉄分強化「もみじ卵」の生産販売について

※　明見　孝一郎氏は第２９回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞。

〔平成３年度〕
開催期日：平成３年７月３日
開催場所：東東京都千代田区麹町　麹町会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	川村　千里	島根県大田市	肉用牛	自由化に打ち勝つための「川村家の戦略」－牛に学びながら－
優秀賞	泰藤　孝次	広島県賀茂郡福富町	酪　農	飼料作物の共同生産による安定経営をめざして
	山下　英雄	熊本県菊池郡七城町	酪　農	魅力ある酪農経営をめざして
	小松　久平	秋田県由利郡鳥海町	肉用牛	肉用牛一貫経営の定着・安定をめざし奮闘
	中西垣富夫	兵庫県豊岡市	肉用牛	ゆとりある農業を目指して
	阿部　茂昭	山形県酒田市	養　豚	ゆとりある養豚経営を目指して
	上原　章男	埼玉県秩父市	養　豚	魅力の農家養豚を継承して
	講殿　城明	滋賀県高島郡安曇川町	養　鶏	消費者ニーズを重視した私の養鶏経営

※　川村　千里氏は第３０回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成４年度〕
開催期日：平成４年７月１日
開催場所：東京都港区赤坂　三会堂ビル

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	平岡　平一	石川県加賀市	養　鶏	アイデアを生かした堅実な養鶏経営
優秀賞	田中　久一	青森県東津軽郡平内町	酪　農	酪農生産技術の向上と経営安定に取り組んで－牛群検定成績を利用して－
	森島　定彦	岐阜県海津郡平田町	酪　農	河川敷草地を有効活用した酪農経営
	藤原　隆博	香川県観音寺市	肉用牛	一貫肥育経営で肉質向上をめざして
	甲斐　知博	大分県大野郡野津町	肉用牛	肉用牛の繁殖専業経営にかける
	平沢　良治	茨城県結城市	養　豚	規模拡大による養豚経営の安定を目指して
	斉藤　春敏	新潟県西蒲原郡巻町	養　豚	経営診断と共に歩む我家の経営
	葉山　義高	奈良県香芝市	養　鶏	産地直送による採卵経営

※　平岡　平一氏は第３１回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞。

〔平成５年度〕
開催期日：平成５年７月６日
開催場所：東京都千代田区九段南　九段会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	万庭　正勝	岡山県真庭郡八束村	酪　農	ジャージーに夫婦の夢とゆとりを求めて－脱サラ、３３歳からの出発－
優秀賞	小関　徳男	宮城県柴田郡川崎町	酪　農	魅力ある「楽農」を目指して！
	内田　清文	三重県三重郡菰野町	酪　農	草作りで酪農経営の安定を目指して
	松田　典房	熊本県菊池郡合志町	酪　農	激動期を勝ち抜く－一貫した堅実酪農経営を通して－
	薮内千恵子	兵庫県洲本市	肉用牛	繁殖和牛にロマンを託した女性の多頭経営
	山岡　正美	広島県高田郡美土里町	肉用牛	繁殖地域の中で取り組む肥育経営
	昆野　先男	岩手県北上市	養　豚	手づくりハム・ソーセージ加工を取り入れた農家養豚経営－家族労働力主体による地場産品化への挑戦－
	桜井富佐子	新潟県北魚沼郡広神村	養　豚	養豚後継者の道を選んで

〔平成６年度〕

開催期日：平成６年７月６日

開催場所：東京都千代田区九段南　九段会館

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	河合　将夫	岐阜県武儀郡上之保村	肉用牛	肉用牛一貫経営の定着、安定を目指して
優秀賞	纐纈　成喜	北海道野付郡別海町	酪　農	放牧新技術の導入による高収益経営の確立
	大上　浩也	広島県佐伯郡湯来町	酪　農	週休２日のゆうゆう酪農
	江藤　　務	大分県宇佐郡安心院町	肉用牛	自由化の中「築きあげた夢の農業経営」を家族で守りぬくために

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	福元　和典	鹿児島県肝属郡高山町	養　豚	家族でささえるわが家の養豚経営
優秀賞	塩月　哲司	大分県南海部郡蒲江町	養　豚	ゆとりある養豚経営をめざして
	原　　秀治	滋賀県彦根市	養　鶏	生産から販売まで地域密着型の経営
	笠原　勢一	徳島県名西郡神山町	養　鶏	山間傾斜地を利用したブロイラー専業経営の確立

※　河合　将夫は第３３回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成７年度〕

開催期日：平成７年７月６日

開催場所：東京都目黒区大橋　こまばエミナース

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	東　　義秋	熊本県阿蘇郡西原村	肉用牛	農業は面白い！－あか牛で豊かな生活－
優秀賞	樋口　一彦	山形県西置賜郡白鷹町	酪　農	創意工夫、発想の転換で築いた酪農専業経営
	興　　勝幸	鹿児島県熊毛郡中種子町	酪　農	寄いらいき（相互扶助の心）で支える酪農経営の展開
	志賀チヨ子	大分県直入郡久住町	肉用牛	豊かな地域資源を生かした低コスト子牛生産

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	影山　和夫	栃木県下都賀郡藤岡町	養　豚	低コスト化と省力化へのチャレンジ
優秀賞	佐々木章一	宮城県登米郡豊里町	養　豚	系統豚「ミヤギノ」利用をした銘柄化に取り組んで
	金城　　栄	沖縄県浦添市	養　豚	飼育基本を忠実に守り高所得を目指す養豚経営
	山田　　衛	滋賀県大津市	養　鶏	地域周辺の宅地化に適合した採卵経営

〔平成８年度〕

開催期日：平成８年７月３日

開催場所：東京都目黒区大橋　こまばエミナース

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	小松　正幸	高知県香美郡野市町	酪　農	住宅化が進行する中での効率的酪農経営を目指して
優秀賞	吉沢　和幸	長野県南佐久郡南牧村	酪　農	開拓地にはばたく、酪農親子鷹（親子三代にわたる酪農経営）
	落合　雄二	広島県比婆郡高野町	肉用牛	地域に根ざした和牛繁殖経営
	和気　　修	愛媛県東宇和郡野村町	肉用牛	国際化に対応できる肉用牛経営の確立をめざして

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	有限会社清水養鶏場 清水　　茂	静岡県静岡市遠藤新田	養　鶏	ブランド卵『美黄卵』で２．５倍の売上げ－直売所を養鶏場の顔として－
優秀賞	立崎　明彦	青森県上北郡上北町	養　豚	夢はふくらむ－自立養豚を目指して２０年－
	松沢　武弘	秋田県平鹿郡平鹿町	養　豚	地域農業と一体となって推める養豚複合経営
	村上　義満	高知県宿毛市橋上町	養　豚	生きのこりをかけての養豚経営

※　有限会社清水養鶏場は第３５回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞

〔平成９年度〕

開催期日：平成９年７月２日

開催場所：東京都目黒区大橋　こまばエミナース

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	中島　　薫	佐賀県武雄市	酪　農	１万kgへの道のり
優秀賞	河又　　潤	栃木県芳賀郡茂木町	酪　農	改良に夢をのせて
	中曽　譲二	広島県三次市	肉用牛	脱サラを決め農畜産業へ
	黒木　　誠	宮崎県児湯郡都農町	肉用牛	生産性を重視した低コスト肉用牛一貫経営

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	芦沢　益彦	山梨県南巨摩郡増穂町	養　鶏	消費者と共に歩む採卵養鶏
優秀賞	高畑　孝市	石川県能美郡根上町	養　豚	地域との調和をめざすわが経営
	佐藤　弘子	長野県飯山市	養　豚	無我夢中で進んだ私の養豚経営－水害を乗り越えて－
	掛川銘柄豚振興協議会	静岡県掛川市	養　豚	ひと味ちがったおいしさ自慢！銘柄豚「かけがわフレッシュポーク」

※　大家畜部門最優秀賞　中島　薫　氏は平成１０年度畜産大賞経営部門特別賞を受賞。

〔平成１０年度〕

開催期日：平成１０年９月２５日

開催場所：東京都目黒区大橋　こまばエミナース

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	島仲　治伸	沖縄県八重山郡竹富町	肉用牛	親から受け継いだ牛飼いの道－放牧による低コスト経営を目指して－
優秀賞	千葉　正勝	岩手県下閉伊郡岩泉町	酪　農	草作り、牛作りで低コスト生産
	村田　信雄	富山県富山市	肉用牛	粗飼料自給率１００％を達成している大型肉用牛肥育経営
	瓜生　貞之	福岡県嘉穂郡筑穂町	肉用牛	自給飼料利用による良質牛肉の生産

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	山口　一広	愛知県宝飯郡御津町	養　豚	地域に融合した持続的養豚経営
優秀賞	山本　郁夫	群馬県吾妻郡中之条町	養　豚	土壌菌を利用し、悪臭防止と良質堆肥の生産を図り、地域密着型養豚経営を目指す
	原　　幸雄	滋賀県彦根市	養　鶏	家族で築いた小規模企業型養鶏
	池端　武一	奈良県北葛城郡広陵町	養　鶏	消費者との対面販売を主体に精密管理を実践した採卵鶏経営

※　大家畜部門最優秀賞　嶋中　治伸　氏は第 38 回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）、平成 11 年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

〔平成１１年度〕

開催期日：平成１１年１０月１５日

開催場所：東京都千代田区九段南　九段会館

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	前田　美雪	宮崎県都城市	肉用牛	女性でもやれる肉用牛繁殖１００頭経営－合理的経営で若者の夢を実現－
優秀賞	柳沢　明義	長野県木曽郡木祖村	酪　農	私の酪農人生－やればできる粗飼料１００％の山間地酪農－
	川合　省吾	岡山県真庭郡八束村	酪　農	自給飼料の高位生産利用による酪農安定経営の確立
	北崎　敏文	大分県豊後高田市	肉用牛	集落営農の中核的農家の肉用牛繁殖経営

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	七尾　久美	北海道北広島市	養　豚	ゆとりある生活をエンジョイする養豚経営
優秀賞	相馬　政春	新潟県新発田市	養　豚	夫婦で築く精密養豚経営
	川満　一郎	沖縄県沖縄市	養　豚	地道に築いてきた養豚経営
	清水　　洋	大阪府茨木市	養　鶏	小規模でも工夫次第－企画と実践で儲かる養鶏経営－

※　大家畜部門最優秀賞　前田　美雪　氏は平成１２年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成１２年度〕

開催期日：平成１２年１０月１３日

開催場所：東京都港区虎ノ門　虎ノ門パストラル

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	川名　正幸	千葉県館山市	酪　農	循環型酪農をめざして －自給飼料生産基盤拡大、環境保全、計数管理のトータルマネージメント－
優秀賞	峯野　　孝	静岡県引佐群引佐町	肉用牛	牛を通じて人と自然の調和した経営を目指して －経営に携わる人々が畜産によって潤い、発展することを理想とする－
	渕上　吉隆	佐賀県杵島郡江北町	肉用牛	Ｆ１肥育で高品質牛肉生産がもたらす高所得・安定経営
	黒木　輝也	宮崎県西都市	肉用牛	“計り”と“パソコン”により、飛躍した肥育経営 －夫婦２人の経営努力の経緯－

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	北栄産業有限会社 市村　栄宗	石川県羽咋郡押水町	養　鶏	衛生管理と生産性向上を追求する環境保全型養鶏
優秀賞	生越　利男	新潟県十日町市	養　豚	夫婦で築く低コスト養豚経営
	有限会社協和養豚 黒藪　光廣	岡山県勝田郡奈義町	養　豚	地域との連携による養豚繁殖・肥育一貫経営の安定化
	有限会社三田鶏園 三田　悌二	栃木県足利市	養　鶏	嘘のないおいしい卵を生産（直売歴１８年、売れる量だけ生産すること）

※　大家畜部門最優秀賞　川名　正幸　氏は第40回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）、平成13年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

※　中小家畜部門最優秀賞　北栄産業有限会社 市村栄宗　氏は第４０回農林水産祭天皇杯(畜産部門)、平成１３年度畜産大賞および経営部門最優秀賞を受賞。

〔平成１３年度〕

開催期日：平成１３年１０月１９日

開催場所：東京都港区虎ノ門　虎ノ門パストラル

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	小　原　春　美 美　鈴	大分県速見郡山香町	酪農	三代続く本物の酪農経営
優秀賞	青　木　雄　治 佐知子	埼玉県大里郡妻沼町	酪農	「牛づくり、草づくり、土づくり」日本一の酪農経営を目指して
	山　下　芳　明 広　子	鳥取県東伯郡大栄町	酪農	地域と共に歩む酪農経営
	池　田　　寛 富美子	岡山県津山市	肉用牛繁殖	水田基盤に立脚した肉用繁殖雌牛１００頭規模経営の確立を目指して

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	有限会社畠中育雛場 畠　中　兼　雄	福岡県嘉穂郡頴田町	育雛 採卵	経営を育雛から採卵・直売と多角化し、高付加価値化商品の開発とインターネットなどを活用した販売の取り組み
優秀賞	農事組合法人三沢農場 山　崎　　伸	青森県三沢市	養豚	地元食肉処理センターを核としたセーフティーポークの安定生産と流通を システム化した大規模経営
	黒　木　章　夫	宮崎県日向市	養豚	生産技術の確立により高所得経営へ！～負債農家からの脱却～
	有限会社杉山養鶏場 杉　山　哲　朗	静岡県御殿場市	採卵鶏	親しまれて、こだわりの「小さなタマゴやさん」 －安全・安心・愛情一杯・もう一度行きたい店を目指した２３年の軌跡－

※　大家畜部門最優秀賞　小原　春美・美鈴　氏は第４１回農林水産祭天皇杯(畜産部門)、平成１４年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

※　中小家畜部門最優秀賞　有限会社畠中育雛場　畠中　兼雄氏は平成１４年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成１４年度〕

開催期日：平成１４年１１月１８日

開催場所：東京都港区虎ノ門　虎ノ門パストラル

（大家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	藤　岡　数　雄 藤　岡　美江子	鹿児島県曽於郡大崎町	肉用牛繁殖	「低コスト化」追求で安定経営を築く子牛生産 －楽しい牛飼い人生を息子たちに－
優秀賞	木　戸　卓　仁 木　戸　和　子	兵庫県宝塚市	酪農・肉用牛肥育	20年後も、酪農家であり続けるために －地域ブランドに支えられ、都市近郊で展開する乳肉複合メガファーム－
	奥　野　吉　雄 奥　野　アキエ	宮崎県小林市	酪農	西南暖地に根付かせた堅実な酪農経営 －自家育成の改良と自給粗飼料の確保－
	白　岩　　修	愛媛県北宇和郡三間町	肉用牛肥育	家族経営を核とした地域一貫経営体制によるＦ1生産への挑戦

（中小家畜部門）

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	有限会社小林ファーム 小　林　勝　彦	三重県亀山市	養豚	消費者との交流と声が育てる養豚経営
優秀賞	長崎県開拓農協南部種豚改良組合「紅葉会」	長崎県西彼杵郡多良見町	養豚グループ活動	″雲仙うまか豚「紅葉」″小さな養豚集団が成し遂げた地場消費の拡大と銘柄定着
	農業生産法人黒富士農場 向山　茂徳	山梨県中巨摩郡敷島町	養鶏	消費者と環境保全を重視する採卵養鶏

※　大家畜部門最優秀賞　藤岡　数雄・藤岡　美江子　氏は第４２回農林水産祭天皇杯(畜産部門)、平成１５年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

〔平成１５年度〕

開催期日：平成１５年１１月７日

開催場所：東京都港区虎ノ門　虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	大矢根　督	北海道網走郡津別町	酪農	放牧等自給飼料の高度利用による高収益家族酪農経営 －土づくり・草づくりを基本としたゆとりある中規模酪農経営－
	長友　　明 長友　真理子	宮崎県宮崎市	肉用牛繁殖	遊休地を活用し経営規模拡大を目指す都市近郊肉用牛経営 －「頭と体を使うと肉用牛経営は儲かる」を夢に－
	有限会社 大窪養豚	鹿児島県肝属郡高山町	養豚	自信と責任もてるブランド「かごしま黒豚」の生産をめざして
	株式会社 地主共和商会	三重県多気郡勢和村	採卵鶏	常に新しい夢にチャレンジ －若者に魅力のある自作農家になりたいと願って－
優秀賞	山之内　浩一	新潟県北魚沼郡広神村	酪農	親子2代で築いた豪雪地域に根ざす安定酪農経営
	高橋　英雄 高橋　ナミ	大分県玖珠郡玖珠町	肉用牛繁殖	夢がかなった肉用牛繁殖経営 －増頭の道しるべとなる－
	菅原　健一 菅原　宏子	新潟県村上市	肉用牛肥育	妻と二人で築いた「村上牛」と「岩船米」作りの複合農業
	桜井　富佐子	新潟県北魚沼郡広神村	養豚	名物かあちゃんと家族で築く低コスト養豚経営
	日野出畜産 有限会社	愛媛県八幡浜市	養豚	“こだわり”の豚肉生産を目指して
	有限会社 北群ファーム	群馬県利根郡新治村	採卵鶏	規模拡大を山間地に求め創意工夫で難局を克服
	森長　克忠 森長　真弓	徳島県名西郡神山町	肉用鶏	地域と調和した山間地域での養鶏経営
	有限会社オコッペフィードサービス	北海道紋別郡興部町	酪農グループ活動	生産現場の知恵と意志が家族経営の限界をやぶった －有限会社オコッペフィードサービスの実践－

※　大矢根　督　氏は第４３回農林水産祭内閣総理大臣賞(畜産部門)を受賞。

※　長友　明・長友　真理子　氏は第４３回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）、平成１６年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成１６年度〕

開催期日：平成１６年１０月２９日

開催場所：東京都港区虎ノ門　虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	遠藤　昭男 遠藤 美智子	北海道標津郡中標津町	酪農	フリーストール方式の効率的な自給飼料活用によるゆとりある高収益経営
	石賀 博和 石賀 恵子	岡山県真庭郡川上村	肉用牛繁殖	地域資源を生かした低コスト肉用牛繁殖経営
	有限会社 大隅ポーク	鹿児島県曽於郡大隅町	養豚	高い生産性・収益性を生む養豚経営の実践
	有限会社 旭養鶏舎	島根県大田市	養鶏	採卵養鶏一途に３５年 －コスト削減より安心安全な鶏卵生産を目指して－
優秀賞	有限会社フジタファーム	新潟県西蒲原郡岩室村	酪農	耕畜連携による地域一体型農業の推進で食の安全と本物の味を消費者へ ～水田探索地域における酪農経営への展開方策～
	原澤　典雄 原澤かよ子	群馬県利根郡新治村	肉用牛繁殖	夏山・冬里方式の導入で「ゆとりある繁殖複合経営」の実現 ～放牧で得られた余剰労力を他部門に活かした和牛繁殖経営～
	手塚　　正 手塚　優子	栃木県塩谷郡氏家町	肉用牛肥育	安心、安全な牛肉を低コストで消費者へ
	酒井　和昭 酒井　陽子	埼玉県大里郡岡部町	肉用牛肥育	兄弟で取り組む地域農業循環型肉用牛肥育経営
	村田　信雄 村田　秋美	富山県富山市	肉用牛肥育	大規模稲作との複合を目指す肉用牛経営
	有限会社ゲズント農場	北海道虻田郡豊浦町	養豚	ゲズント！---おいしさと安全への熱い想い 法人化、SPF化、そして、緻密な飼養管理と徹底した計数分析による、高位生産性と安定経営の実現、さらに、「ゲズンド農場産SPFポーク」の実現
	横田　清廣 横田サチ子	長崎県南高来郡深江町	肉用鶏	家族経営によるゆとりある肉用鶏専業経営 ～家族経営協定でサラリーマンを超える所得の実現～
	はぐくみ農業協同組合 国府酪農部	群馬県群馬郡群馬町	組織 グループ活動	完全協業システムを取り入れた自給飼料生産と合理的分配方式 ～地域に根づいた都市近郊畑作地帯の自給飼料給与型酪農の実践～

※　石賀 博和・石賀 恵子　氏は第４４回農林水産祭天皇杯(畜産部門)、平成１７年度畜産大賞経営部門最優秀賞を受賞。

※　遠藤　昭男・遠藤 美智子　氏は第４４回農林水産祭内閣総理大臣賞(畜産部門)を受賞。

※　有限会社　大隅ポーク　は第４４回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）、平成１７年度畜産大賞経営部門優秀賞を受賞。

〔平成１７年度〕

開催期日：平成１７年１０月２０日

開催場所：東京都港区虎ノ門　虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	柴田　輝男 柴田　誠子	秋田県由利本荘市	酪農	地域社会と調和しながら確立した草地型酪農
	佐藤　貢 佐藤　雪子	北海道沙流郡平取町	肉用牛一貫	自給飼料を最大限に生かし、省力管理によって黒毛和種の大規模一貫経営を確立した家族経営
	三留　武	神奈川県三浦郡葉山町	肉用牛肥育	資源循環型環境にやさしい高級牛肉生産！
	有限会社　横山養豚	神奈川県横浜市	養豚	都市と共存できる養豚経営の確立
優秀賞	農事組合法人　箸荷牧場	兵庫県多可郡加美町	酪農	農村活性の町、「加美町」の中心で“農業振興”をさけぶ！！ ～地域農業の担い手のリーダーとして～
	有限会社　小野田牧場	愛媛県西予市	酪農	地域農業とともに歩む放牧を利用した酪農経営
	農業生産法人 有限会社　大海	沖縄県宮古島市	肉用牛繁殖	宮古地域の肉用牛振興を担う、先進的肉用牛繁殖経営
	漆間　　平 漆間　マリ子	新潟県村上市	肉用牛肥育	和牛を肥育して32年・最愛の人にありがとう
	本宮　　環 本宮　章加	愛媛県今治市	肉用牛肥育	地域と密着した肉用牛一貫経営の取組み ～酪農家・耕種農家との連携～
	有限会社 ブラウンエッグファーム	長野県佐久市	採卵鶏	日本で一番笑顔のあふれるたまご屋をめざして
	山下　　盛通 山下　恵美子	三重県松阪市	採卵鶏	地域と共に歩む養鶏経営
	農事組合法人 尾鈴豚友会	宮崎県児湯郡川南町	養豚 グループ活動	飼料事業の共同化をバネに高生産性・安定経営に成長した尾鈴豚友会グループ

※　柴田　輝男・柴田　誠子　氏は第４５回農林水産祭天皇杯(畜産部門)を受賞。

※　佐藤　貢・佐藤　雪子　氏は第４５回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞。

〔平成１８年度〕
開催期日：平成１８年１１月２日
開催場所：東京都港区虎ノ門　虎ノ門パストラル

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	佐藤　智好 佐藤 さくら	北海道足寄郡足寄町	酪農	多額負債からの脱却と「ゆとり」経営の確立
	田口　正一	新潟県長岡市	肉用牛肥育	借入金ゼロに向かって努力を続けてきた和牛肥育経営
	有限会社 中村牧場	佐賀県唐津市	肉用牛肥育	「佐賀牛」の低コスト生産プロジェクト
	有限会社 冨田養鶏場	愛知県豊橋市	採卵鶏	One & Only のたまごを目指して －ＨＡＣＣＰに基づいた生産・販売一貫システムの確立－
優秀賞	松原　久美 松原 たみえ	岩手県岩手郡雫石町	酪農	持続的酪農と６次産業化プランで高位安定経営を実現
	土屋　貴志	長野県上水内郡信濃町	酪農	私の酪農経営 －楽で自由でおもしろい酪農経営をめざして－
	久保　峰夫 久保 富士子	広島県広島市	酪農	量より質を －プライベート・ブランド「久保峰夫牛乳」の生産－
	藤原　久義	徳島県三好市	肉用牛繁殖	山地の急傾斜地を放牧利用した和牛繁殖経営
	齋藤農園	群馬県前橋市	養豚	混住化地域で環境に配慮した黒豚生産と地域に根ざした養豚経営
	有限会社 臼井農産	神奈川県厚木市	養豚	安心して美味しく食べられる豚肉生産
	中条　　健	新潟県燕市	養豚	地域の若手リーダーとして魅力ある養豚経営と活性化を目指して
	冨永　　治 冨永　悦子	愛知県喜多郡内子町	養豚	家族で行う地域と一体化したＳＰＦ養豚経営

※　有限会社　冨田養鶏場は第４６回農林水産祭日本農林漁業振興会長賞（畜産部門）を受賞。

〔平成１９年度〕
開催期日：平成１９年１１月２日
開催場所：東京都港区虎ノ門　虎ノ門パストラルホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	小林　治雄 小林 富士子	北海道中川郡中川町	酪農	家族で楽しむ酪農生活　－持続可能なシンプル経営－
	増田　純一 増田　哉枝	宮崎県宮崎郡清武町	肉用牛繁殖	33 年をかけ多頭経営を築き上げたモデル的肉用牛繁殖経営 ～極めて堅実な経営方針こそ着実な増頭につながる～
	農事組合法人 松永牧場	島根県益田市種村町	肉用牛一貫	国内食品残渣を活かした大型畜産経営の確立
	有限会社石井養豚センター	徳島県名西郡石井町	養豚経営	生産効率よりも品質にこだわった養豚一貫経営
優秀賞	戸辺　久夫 戸辺 まちよ	茨城県久慈郡大子町	酪農	夢を求めて
	新海 益二郎 新海　尚子	長野県南佐久郡南牧村	酪農	私の酪農経営　～ 家族を愛し、乳牛と共に歩む ～
	弓削牧場	兵庫県神戸市北区山田町	酪農	「論より食！　農場で人を癒す、都会の牧場を現代の桃源郷に!!」 チーズづくりで切り開いた市街地の酪農経営
	有限会社 グリーンストック八幡	大分県玖珠郡玖珠町	肉用牛繁殖	コントラクターで地域を支え飼料の完全自給を目指す肉用牛経営
	山城畜産組合	沖縄県国頭郡伊江村	肉用牛繁殖	親子三代で築いた、肉用牛繁殖経営 ～地域特性に根ざした経営を目指して～
	有限会社　江原養豚	群馬県高崎市上滝町	養豚	The 無投薬豚へのチャレンジ《抗生物質・合成抗菌剤完全不使用》 －「次世代に贈ります」健やかなライフスタイルと信頼を！－
	吉澤 博文	新潟県南蒲原郡田上町	養豚	高い生産技術と営業努力が実を結んだ養豚経営
	村田　重則 村田　里枝	石川県七尾市能登島別所町	養豚	地域ぐるみで耕畜連携を推進する養豚経営

※　農事組合法人 松永牧場は第４７回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成２０年度〕
開催期日：平成２０年１１月７日
開催場所：東京都港区虎ノ門　虎ノ門パストラルホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	鷲頭　栄治 鷲頭　洋子	大分県玖珠郡	肉用牛 繁殖	経営条件を活かした肉用牛から６次産業への展開 〔肉用牛を基盤とした農家レストランなどの取り組み〕
	有限会社　藤原牧場	宮崎県児湯郡	肉用牛 肥育	地域資源活用型／低コスト肉用牛肥育経営 ～飼料価格高騰に対応するモデル的な取り組み～
	株式会社　南勢養鶏	三重県度会郡	採卵鶏	地域に根ざした採卵経営の実践 ～地元で生まれ育った信頼の経営～
	有限会社　熊野養鶏	愛媛県四国中央市	採卵鶏	「元気な鶏から最高のたまごが生まれる」をモットーに直販の実践
優秀賞	菊地　光男 菊地　イチ	北海道厚岸郡	酪農	大好きな牛飼いを次世代へとつなぐ ～パートナーと牛たちにやさしい酪農をめざして～
	細越　真利雄	長野県南佐久郡南牧村	酪農	酪農経営の高位安定へ向けた取り組み
	二若　信彦	岡山県真庭市	酪農	遊休農地を活用したジャージー牛経営　―高品質牛乳生産―
	八木山草地利用組合 渡辺　徹	新潟県東蒲原郡	肉用牛 繁殖	共同作業を基盤とした畜産基地入植者の和牛繁殖経営 ～地域農業活性化に向けた大きな役割を担って～
	大坪　　操 大坪　秀子	佐賀県佐賀市	肉用牛 繁殖	酪農経営からの肉用牛経営への転換　～「か・き・く・け・こ」の実践～
	ＵＫＵカーフクラブ	長崎県佐世保市	肉用牛 繁殖	牛が主人公の島づくり 人口哺乳による多頭化と発育の向上を目指して
	有限会社マルナガファーム	島根県江津市	養豚	生産性（繁殖成績）向上で堅実な養豚一貫経営 ～適材適所でモチベーションアップ～
	株式会社　オクノ	兵庫県加古川市	採卵鶏	「信頼と絆」で広がる地産地消の輪 ～生産者主導の販売展開による 100%有利販売の実現～

※　鷲頭栄治・洋子夫妻は第４８回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞。

〔平成２１年度〕
開催期日：平成２１年１１月２日
開催場所：東京都文京区湯島　東京ガーデンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	生駒　一成 生駒　薫	岐阜県加茂郡富加町	酪農	ゆとりある乳肉複合経営を目指して！！
	松崎　隆 松崎　まり子	岡山県岡山市	酪農	今の私たち、酪農家冥利に尽きます！ ～市街化が進む中、土地循環型酪農で目指した地域のオアシス～
	有限会社 金子ファーム	青森県上北郡七戸町	肉用牛 肥育	地域と共存した資源循環型大規模畜産への挑戦 ～『三方良し』（消費者・生産者・地域社会）の商人道精神に根ざして～
	曽山　文彦 曽山　照代	宮崎県西諸県郡高原町	養豚	人工授精技術を取り入れたモデル的養豚経営 ～家族で育てる「我が子」豚～
優秀賞	久保　隆幸 久保　美恵子	北海道紋別郡湧別町	酪農	地域に根ざした家族酪農 ～自然体で高レベル経営を実現～
	髙田　茂 髙田　静子	埼玉県児玉郡上里町	酪農	乳質改善と乳牛改良を求めて ～都市近郊型酪農経営で行う粗飼料生産～
	須藤　裕紀 須藤　陽子	千葉県館山市	酪農	創り出す喜び・まきばライフ ～未来へ Challenge～
	神田　豊広 神田　麻子	新潟県阿賀野市	酪農	優れた生産技術が生み出す高品質牛乳の直販を取り入れた酪農経営
	吉井　英之	兵庫県朝来市	酪農	生乳の加工直販主体の新たな酪農経営を切り拓く！ ジャージー牛 10 頭の牧場で売上高４千万円の酪農経営
	大松　修二 大松　法子	徳島県阿波市	酪農	飼料生産基盤の脆弱な地域における「安定とゆとり」を追求した酪農経営
	株式会社 多田ファーム	愛媛県大洲市	養豚	苦境に打ち勝つ養豚経営 ～枝肉出荷 2000 kgを目指して～
	有限会社 鈴鹿ポートリー	三重県鈴鹿市	採卵鶏	低炭素社会に向けた養鶏モデル経営の挑戦

※　松崎隆・まり子夫妻は第４９回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

〔平成２２年度〕
開催期日：平成２２年１１月８日
開催場所：東京都港区芝公園　機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	榛澤　保彦 榛澤　恵美子	北海道釧路市	肉用牛 一貫	未利用資源の活用と「土-草-牛」が調和して高い飼料自給率を実現した、環境にやさしい牛肉生産の取り組み
	大井　幸男	岐阜県羽島市桑原町	酪農	データを活用した経営改善　高次元の経営をめざす！！ ～経営改善から生まれた「ゆとり」を地域貢献に活かす～
	株式会社　西垣養鶏場	兵庫県豊岡市但東町	採卵鶏	「本当に美味しい農産物を消費者に届けたい！」 地域農産物の６次産業化で過疎化地域の活性化を図る 山の中の行列店　”たまごかけご飯専門店「但熊（たんくま）」”
	有限会社　黒木養豚	鹿児島県肝属郡肝付町	養豚	高い生産性・収益性の実践と多様なニーズに応えられるかごしま黒豚の生産を目指して
優秀賞	有限会社　リゲルファーム	北海道紋別郡遠軽町	酪農	地域資源を万遍なく利用して、地域に適合して地域に優しい、地域と歩む大型酪農経営の展開
	渡辺　健介 渡辺　恵子	福島県伊達郡川俣町	肉用牛 繁殖	遊休資源を活かした中山間地域における私の「肉用牛繁殖経営」５ヵ年のあゆみ！ ～０頭からの増頭戦略～
	有限会社　三喜鶏園	群馬県高崎市下里見町	採卵鶏	こだわりたまごで挑んだ６次産業化 ～卵価に左右されない安定経営を目指して～
	関　　克史	新潟県長岡市	肉用牛 一貫	新潟県中越大震災からの復興への道のり ～美しい故郷で日本一の牛作りを目指して～
	網野　一雄 網野　喜久美	長野県伊那市	酪農	親から子へ　ゆとりと資源循環型の酪農経営をめざして
	有限会社　河井ファーム肉よし	三重県志摩市阿児町	養豚	美味しさは健康な豚から、安全は基本に忠実な防疫意識から ～地元に愛される豚肉『パールポーク』に夢を託して～
	有限会社　関紀産業	大阪府泉佐野市	養豚	家族・仲間と築くエコブランド豚「川上さん家（ち）の犬鳴豚（いぬなきぶた）」
	永禮　淳一 永禮　明美	岡山県津山市	酪農	改革の序章　粗飼料地産地消への大転換 ～　０　→　１００　（零から百へ）　～

※　株式会社　西垣養鶏場は第５０回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞
※　有限会社　黒木養豚は第５０回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成２４年度〕
開催期日：平成２５年3月７日
開催場所：東京都港区芝公園　機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	有限会社広野牧場	香川県木田郡三木町	酪農	経営管理の徹底による超効率経営でゆとりと地域活性化を実現
	関　克史	新潟県長岡市	肉用牛 一貫	震災を乗り越えた若き牛飼いの道のり ―美しい故郷で日本一の牛作りを目指して―
	有限会社哲多和牛牧場	岡山県新見市	肉用牛 一貫	地域資源フル活用で、地域を支える肉用牛牧場
	横田　清廣 横田　サチ子	長崎県南島原市	肉用鶏	雲仙普賢岳噴火災害で全てを失うが再起を誓い、 家族の経営参画で３億円を売り上げる
優秀賞	株式会社Ｔ・ユニオンデーリィ	福島県本宮市	酪農	Ｔ・から始める酪農 ―原発事故によって浜通りから中通りに経営移転―
	有限会社安瀬平牧場	広島県三次市	酪農	新規就農を支援する酪農経営 ―新たな経営継承にむけての一つの手法―
	高原　和光	長崎県南島原市	酪農	雲仙普賢岳噴火災害から共同で農用地を集積し酪農を再開
	埼玉県武州和牛組合	埼玉県本庄市	肉用牛 グループ	強力なリーダーシップと地域仲間の信頼で作り上げた埼玉ブランド「武州和牛」
	大吉商店株式会社	滋賀県高島市	肉用牛肥育	地域資源を有効活用し、地域から世界に羽ばたく
	有限会社中野目畜産	福島県西白河郡泉崎村	養豚	地域の養豚経営と歩んだ復興 ―自身の農場再建の取り組みや食肉製品販売店舗が直面した課題と被災地域の活性化に向けた活動など―
	新生養豚プロジェクト協議会	宮崎県児湯郡川南町	養豚 グループ	『特定疾病フリー』で新しい産地を目指す『新生養豚プロジェクト協議会』の取り組み
	株式会社会津地鶏ネット	福島県会津若松市	養鶏 グループ	原発事故による風評被害からの脱却を目指す会津地鶏

※　横田清廣・サチ子夫妻は第５２回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成２５年度〕
開催期日：平成２６年３月２６日
開催場所：東京都千代田区　日比谷コンベンションホール

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	村山　昭雄 村山　裕子	北海道足寄郡足寄町	酪農	苦農から酪農（楽農）への道のり ―酪農歴 50 年を目指して―
	佐藤　宏弥 佐藤　博子	茨城県常総市	肉用牛 一貫	水田活用で広がるドリームファームの歩み ―『常陸牛』率 100％の一貫経営―
	向　靖弘	広島県神石郡神石高原町	肉用牛 一貫	自分の肥育素牛は自分で造る。肥育経営から始める、和牛繁殖・肥育一貫経営
	有限会社鈴木養鶏場	大分県速見郡日出町	採卵鶏	人・鶏・環境いやさしい経営による地域農業の活性化を目指して
優秀賞	村田　一浩 村田　美幸	北海道広尾郡足寄町	酪農	「草から搾る」をモットーに経営収支を改善 ―既存経年チモシー牧草地へのペレニアルライグラス追播による草地植生改善―
	佐藤　弘	秋田県雄勝郡羽後町	肉用牛 繁殖	耕畜連携による粗飼料生産が経営改善の糸口になる
	有限会社 三重カドワキ牧場	三重県四日市市	肉用牛 肥育	カドワキ流肉用牛一貫経営 ―４本の矢で父の遺志を受け継ぐ６次化への道―
	有限会 社中村ファーム	長野県千曲市	養豚	環境問題に取り組みながら HACCP を取り入れた、私の養豚経営

※　佐藤宏弥・博子夫妻は第５３回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

〔平成２６年度〕
開催期日：平成２６年１１月１４日
開催場所：東京都千代田区　日比谷コンベンションホール

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	佐藤　匠	秋田県大仙市	肉用牛 繁殖	飼養管理技術の確立と資源循環型畜産への取り組み
	有限会社　星種豚場	栃木県那須郡那賀川町	養豚	消費者ニーズを重視した種豚改良と、そこから派生した六次化への取り組み
	東の匠 SPF 豚研究会	千葉県香取郡東庄町	養豚	安全安心を届ける新ブランド肉豚で町おこし －大利根の大地が育んだ豚「東の匠 SPF 豚」－
	アルム　株式会社	岡山県赤磐市	採卵鶏	養鶏事業の多様性を切り拓く！　（人とたまごの未来づくり）
優秀賞	有限会社　渡辺ファーム	宮城県角田市	酪農	東日本大震災からの復興、そして次の世代へ...
	合同会社　久井高原牧場	広島県三原市	酪農	第三者継承による安定した酪農経営の継続
	長與　和則 長與　輝代	長崎県東彼杵郡波佐見町	肉用牛 肥育	中山間地域における手作り牛舎による低コスト肥育経営の実践
	有限会社　松葉ピッグファーム	三重県いなべ市	養豚	昭和の庭先養豚から平成の６次産業化への道 ～親から受け継ぎ、子に引き継いだ養豚経営～
特別賞	長谷部将一	宮崎県児湯郡高鍋町	肉用牛 一貫	銘柄牛肉への取り組みと口蹄疫からの復興・再生

※　有限会社　星種豚場は第５４回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞

〔平成２７年度〕
開催期日：平成２７年１１月１２日
開催場所：東京都千代田区　日比谷コンベンションホール

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	株式会社竹信牧場	岡山県笠岡市	酪農	干拓地におけるトウモロコシ二期作生産による大規模酪農への挑戦
	黒木　松吾 黒木　小夜子	宮崎県串間市	肉用牛 繁殖	アンテナ高く、垣根は低く、一歩先を行く攻めの経営
	有限会社コマクサファーム	岩手県八幡平市	養豚	マルチサイトシステム
	農事組合法人 会田共同養鶏組合	長野県松本市	採卵鶏	環境のふるさと作りを目指した養鶏 ―目標：農業を営んで人生の意義と幸福を体得する！―
優秀賞	安達　政弘 安達　敏子	茨城県笠間市	肉用牛 肥育	高度な管理で臨む常陸牛生産 （経営管理で未来を見つめる）
	有限会社細川農興	秋田県横手市	養豚	繁殖技術改善による繁殖成績の向上
	有限会社　一志ピックファーム	三重県津市	養豚	「日本一美味しい豚肉の創造で共に幸せになる」をモットーに
	有限会社大成畜産	鹿児島県曽於市	養豚	地域ブランド認証品目の産地形成確立と信頼される「美味豚の探求」

※　農事組合法人　会田共同養鶏組合は第５５回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞
※　有限会社　コマクサファームは第５５回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

〔平成２８年度〕
開催期日：平成２８年１１月２２日
開催場所：東京都港区芝公園　機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	守谷　　学 守谷　恵里	北海道宗谷郡猿払村	酪　農	後輩農業者を育てながら、自給飼料を生かした先進的酪農経営に挑む －放牧を取り入れたフリーストール酪農の実践－
	有限会社　高秀牧場	千葉県いすみ市	酪　農	中山間地域における国産飼料資源での自給率向上への挑戦（地域農業とともに歩む循環型酪農と６次産業化の中で）
	株式会社　玉牧場	鹿児島県霧島市	肉用牛 繁殖	肉用牛の発育・生理を考慮した施設整備・飼養管理技術が高収益性を実現－幅広い情報収集・共有化と細やかな心配りで家族の夢を叶える－
	有限会社　香川畜産	宮崎県児湯郡川南町	養　豚	口蹄疫からの復興と地域貢献
優秀賞	生駒　一成 生駒　　薫	岐阜県加茂郡富加町	酪　農	ゆとりある乳肉複合経営を目指して　PART2 ～全国優良畜産経営管理技術発表会を経験して～
	株式会社　桑原畜産	佐賀県嬉野市	肉用牛 肥育	中核企業としてブランド牛『佐賀牛』の生産と食肉販売等による地域振興への取組み
	種村　繁徳 種村　フサ子	長崎県島原市	肉用牛 一貫	酪農経営から議員活動と黒毛和種の経営内一貫経営による地域振興を目指して
	有限会社　日笠農産	岡山県津山市	養　豚	こだわり黒豚の生産・加工・流通一貫経営、消費者の声で品質向上！

※　有限会社　香川畜産は第５６回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞
※　株式会社　玉牧場は第５６回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞

〔平成２９年度〕
開催期日：平成２９年１１月３０日
開催場所：東京都港区　機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	牧舎みねむら 峯村　誠太郎 峯村　伊世	長野県東御市	肉用牛 一貫	家族と牛の「しあわせ」を目指して 家族経営の利点である、チームワークと各々のスキルを活かした卓越した繁殖肥育一貫経営
	農事組合法人 伍協牧場	岡山県勝田郡奈義町	肉用牛 一貫	三世代にわたって歴史を刻む協業経営 ～地域と連携して協業と個別経営を両立させる多様な取組～
	株式会社 五十嵐ファーム	山形県鶴岡市	養豚	飼料米利用による養豚経営の改善と、堆肥を利用したアスパラガスを主体とした野菜の栽培と六次化による経営改善
	近藤畜産 近藤　武雄	新潟県新潟市	養豚	家族で展開する地域に根ざした養豚６次産業化の取り組み
優秀賞	岩見　智成	大分県日田市	酪農	”牛と人と地域”の能力を最大限に引き出す基本に忠実な酪農経営
	佐藤　綾	山形県飽海郡遊佐町	肉用牛 繁殖	綿密な飼養管理と減反田を活用した十分な粗飼料確保による繁殖成績の向上および堅実な規模拡大を目指して
	有限会社 秋吉台肉牛ファーム	山口県美祢市	肉用牛 一貫	中山間地域におけるエコフィードとＷＣＳを活用した地域密着型国産牛肉一貫経営 ～地域に愛される秋吉台高原牛ブランドづくりを目指して～
	有限会社横山養豚	神奈川県横浜市	養豚	都市型養豚として環境や地域貢献に注力 ３人の後継者と共に更なる規模拡大を目指す

※　牧舎みねむら　峯村誠太郎・伊世夫妻は第５７回農林水産祭内閣総理大臣賞（畜産部門）を受賞
※　株式会社　五十嵐ファームは第５７回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

〔平成３０年度〕
開催期日：平成３０年１１月２７日
開催場所：東京都港区　機械振興会館

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	きもつき大地 ファーム株式会社	鹿児島県鹿屋市	肉用牛 繁殖	肉用牛1,000頭の大規模繁殖経営における分業体制の構築 ～肉用牛繁殖と子牛育成の分業体制による繁殖牛生産基盤の維持・拡大に資する～
	株式会社百姓屋	佐賀県伊万里市	肉用鶏	逆境をバネに“挑戦と工夫”でブロイラー経営 ～百姓屋に夢をのせて～
	有限会社安富牧場	岡山県岡山市	酪農	地域・信頼・思いやり ～消費者に届ける、信頼と安全の酪農を目指して～
	株式会社オーケーコーポレーション	群馬県北群馬郡榛東村	養豚	「むりをしない」「むだをしない」「むらをつくらない」養豚経営の挑戦 ～群馬の中山間地域が育んだ豚「榛名ポーク」～
優秀賞	有限会社中川スワインファーム	大分県豊後高田市	養豚	家畜・地域・消費者・経営に、バランス感覚に富んだ持続可能な養豚経営
	株式会社あずみ野エコファーム	長野県大町市	養豚	エコフィード飼料も活用したブランド肉の 確立と作業効率の向上
	株式会社能登牧場	石川県鳳珠郡能登町	肉用牛 肥育	「能登牛　かわいいよ　能登牛」 ～ニートの僕が牛飼いになって能登牛を全国へ届けたい～
	高橋　正	秋田県横手市	酪農	経営改善に向けて ～飼養規模と個体に合わせた飼養管理の実践～

〔令和元年度（平成３１年度)〕
開催期日：令和元年１１月２５日
開催場所：東京都文京区　東京ガーデンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	ヨシダファーム有限会社	北海道枝幸郡枝幸町	酪農	計画的な規模拡大と従業員雇用でゆとりある高収益経営 ～家族経営から地域NO.１の酪農法人～
	有限会社花田養豚場	新潟県十日町市	養豚	第三者継承により養豚経営に参画したイケメンTwinsの挑戦 ～仲間とともに広げる地域農業活性化の輪～
	宮崎　陽輔 宮崎　　舞	佐賀県唐津市	肉用牛 肥育	経営診断が「きっかけ」で儲かる肉用牛肥育経営の実践 ～素牛選定から枝肉出荷まで、全ては肥育成績の詳細分析から始まる～
	株式会社中野ファーム	鹿児島県鹿屋市	肉用牛 繁殖	ICT等を活用した家族で築くゆとりある肉用牛繁殖経営
優秀賞	野脇　広夢	北海道勇払郡むかわ町	肉用牛 繁殖	手間を掛けない飼養管理で高所得を実現 ～繁殖牛１年１産！子牛の早期出荷と高単価販売を実践する経営～
	有限会社小田切畜産	長野県東御市	肉用牛 一貫	地域社会に貢献する愛される牧場をめざして
	荒牧　光博 荒牧　慶子	熊本県阿蘇郡高森町	肉用牛 一貫	阿蘇の草資源を利用した褐毛和種の繁殖・肥育一貫で低コスト経営を実現
	末吉　久美 末吉　富美子	長崎県松浦市	肉用牛 繁殖	建設業からの参入による定休型ヘルパーを活用した 「ゆとりある肉用牛繁殖経営」を目指して

〔令和２年度〕
開催期日：令和２年１１月２５日
開催場所：東京都文京区　東京ガーデンパレス

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	久保　拓也 久保　　環	北海道紋別郡湧別町	酪農	Working hours 1920 ～子供たちにカッコイイと思ってもらえる農業がやりたい～
	有限会社飯田養豚場	青森県横浜町	養豚	家族パワーで築く堅実な養豚経営 ―ブランド肉豚「ほろよい豚」の生産拡大をめざして―
	株式会社壱岐ファーム	宮崎県児湯郡新富町	肉用牛 一貫	仲間と共に取り組む黒毛和牛一貫経営の発展 ～肉用牛の新たなビジネスモデルとして～
	森岡　良輔 森岡　恵理香	鹿児島県曽於市	肉用牛 繁殖	両親からのバトン　異業種夫婦の肉用牛繁殖経営への挑戦（取組） ―細やかな飼養管理技術による高収益性を実現―
優秀賞	武熊　俊明 武熊　浩美	茨城県石岡市	養豚	地道なデータ蓄積と、常に前向きにチャレンジし続ける養豚経営
	株式会社渡辺農場	新潟県上越市	肉用牛 一貫	次世代に繋ぐ畜産経営を模索する ～笑顔で働ける、儲かる牛飼いを目指して～
	農事組合法人中国牧場	島根県仁多郡奥出雲町	肉用牛 一貫	地域と共に歩む畜産経営を目指して －行政と連携した地域への堆肥供給と自然交配を生かした一貫経営を実践－
	有限会社大西海ファーム	長崎県西海市	養豚 肉用牛繁殖	ＪＡ出資法人による「所得増大」、「生産拡大」、そして「地域活性化」への取り組み ～大西海ファームの取り組みは第４ステップへ～

※　森岡　良輔・恵理香夫妻は第６０回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞
※　有限会社飯田養豚場は第６０回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

〔令和３年度〕
開催期日：令和３年１１月２６日
開催場所：東京都千代田区　都市センターホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	株式会社なごみ農産	山形県天童市	肉用牛 肥育	安全で美味しい国産原料 100%飼料の牛肉で地域を活性化 ー地域農家・企業と共に育つ「和の奏（なごみのかなで）」ブランドー
	株式会社小野ファーム	神奈川県横浜市	肉用牛 一貫	都市の中での乳肉複合による多角経営 ーゲノミック評価の活用による肉用牛生産の取り組みー
	農事組合法人萩原養豚生産組合	宮崎県都城市	養豚	生き残りをかけた経営基盤の再編 ー進化を続ける「観音池ポーク」ー
	山中 健治 山中 菜美	鹿児島県鹿屋市	肉用牛 繁殖	夫婦２人で実現した効率的肉用牛繁殖経営
優秀賞	石田 敦 石田 紀子	北海道別海町	酪農	酪農は天職 ー牛さんにうまい草を腹一杯たべさせたいー
	株式会社鬼や福ふく	新潟県津南町	養豚	フリーストール豚房と ICT 技術による母豚の健康維持と繁殖成績の向上 ー豚の幸せが私たちの幸せですー
	妹尾 始 妹尾 睦美	岡山県岡山市	酪農	これが 家族経営の生きる道
	平川 修 平川 美穂	大分県日田市	肉用牛 繁殖	指導員から実践へ、そして、今、家族型肉用牛経営のインフルエンサーへ

〔令和４年度〕
開催期日：令和４年１１月２５日
開催場所：東京都千代田区　都市センターホテル

受賞種類	受賞者	所在地	畜　種	タイトル
最優秀賞	農業生産法人株式会社アイオイ	山形県鮭川村	肉用鶏	ゼロから創めて 40 年、10 億円肉用鶏への挑戦 ～地域の飼料用米を活用したブランド「やまがた最上どり」の確立に向けて～
	倉持ピッグファウム株式会社	茨城県下妻市	養豚	おいしい笑顔が見たいから ～伝説の下妻金豚～
	株式会社有田牧場	熊本県球磨郡錦町	肉用牛一貫 酪農	地域粗飼料資源をフル活用して資材価格高騰と温室効果ガス削減に挑む
	有限会社髙田牧場	大分県豊後高田市	肉用牛肥育	地域に根ざし、100 年続く経営作り ～伝統的技術の継承と先進的技術の融合～
優秀賞	中野 浩一	新潟県新発田市	酪農	酪農を未来につなげる ～循環型農業で地域をひとつに～
	株式会社いちがお畜産	京都府京丹後市	肉用牛繁殖	集落と連携し、景観保全と「丹後牛の里」を実践する法人経営 ～畜産を活かした地域づくり、人づくり、絆づくり～
	守川 仁	熊本県山鹿市	肉用牛繁殖	牛にも人にも優しい！ ～積極的に ICT を活用した肉用牛繁殖経営～
	渕上 浩一 渕上 加奈子	佐賀県杵島郡江北町	肉用牛肥育	がんばる後継者、親父（おやじ）に負けるな！ ～地元での粗飼料調達による低コスト和牛スモール肥育経営の挑戦～

※　株式会社有田牧場は第62回農林水産祭天皇杯（畜産部門）を受賞
※　倉持ピッグファウム株式会社は第62回農林水産祭日本農林漁業振興会会長賞（畜産部門）を受賞

Ⅳ

令和５年度全国優良畜産経営管理技術発表会開催要領

令和５年度全国優良畜産経営管理技術発表会開催要領

４年度発中畜第6026号
令和５年１月23日

１　趣　旨

公益社団法人中央畜産会（以下「中央畜産会」という。）は、中央畜産会の会員団体等（以下「畜産会等」という。）が行う支援活動を通じて明らかにされた優秀な実績を収めている畜産経営またはグループ（以下「畜産経営」という。）ならびに経営の課題解決に取り組んでいる畜産経営を広く求め表彰するとともに、全国優良畜産経営管理技術発表会（以下「発表会」という。）を開催し、もってこれら畜産経営の成果とそれを支えた経営管理技術の普及拡大に資する。

２　主催者（実施主体）

この発表会は、中央畜産会が主催する。

３　参加資格

１）畜産会等が行う支援活動の対象となった畜産経営であって、以下の条件のいずれか１つ以上を満たすもの。

⑴　優良な実績を収めており、その実績の内容ならびにそれを支える経営管理技術の内容が明確であるもの

⑵　経営の課題解決のための取り組みを行っており、その取り組みや活動の内容ならびにその過程が明確であるもの。

⑶　個人又は組織の活動における女性の活躍を推進し、又は女性が顕著な貢献をしている取組又は経営管理を行っているもの。

２）当該年度において、他の団体・機関の開催する「農林水産祭」参加行事に出品していないこと。

３）当該年度前２カ年間に農林水産祭参加行事において、出品財「経営」での農林水産大臣賞を受賞していないこと。

４）個別経営における家畜の飼養規模は、以下のとおりとする。

⑴　酪農経営にあっては、経産牛10頭以上。

⑵　肉用牛経営にあっては、繁殖牛・肥育牛５頭以上。

⑶　養豚経営にあっては、80頭以上の経営。ただし繁殖専門経営の場合は、子取りめす豚10頭以上の経営。

⑷　採卵鶏経営にあっては、成鶏700羽以上。
⑸　肉用鶏経営にあっては、年間出荷30,000羽以上。

4　参加畜産経営等の推薦

畜産会等は、参加畜産経営を５の２）の審査の視点に基づき事例を選定し、中央畜産会が別に定める様式により、中央畜産会へ正副２部提出するものとする。

5　審査の方法と視点

１）審査の方法

中央畜産会は、学識経験者等を中心として構成する審査委員会により、畜産会等からの推薦のあった書類に基づき、最優秀事例、優秀事例を選考する。なお、審査委員会が必要と認めた場合は現地確認を行うことができるものとする。

２）審査の視点

審査の視点は、畜産経営の生産性・収益性等の経営実績、それを支える経営管理技術および課題解決のための取り組みや活動の内容、その成果に関する以下の諸点とする。

⑴　経営展開上の合理性、堅実性、普及性、持続・安定性
⑵　地域との融和等に関する合理性、普及性、持続・安定性

6　表　彰

１）表彰の種類

⑴　最優秀事例：農林水産大臣賞　　４点（予定）
　　地方競馬全国協会理事長賞　　４点（予定）
　　中央畜産会長賞（最優秀賞）　　４点
⑵　優秀事例：農林水産省畜産局長賞　　４点（予定）
　　中央畜産会長賞（優秀賞）　　４点
⑶　その他：審査委員会が特に必要と認める場合
　　中央畜産会長賞（特別賞）　　必要と認める場合

２）表彰の対象

次に掲げる事項のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる個人経営の場合にあっては、夫婦連名で表彰することができるものとする。

ただし、表彰の対象は、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞、農林水産省畜産局長賞、地方競馬全国協会理事長賞、中央畜産会長賞（最優秀賞・優秀賞）および審査委員会が特に必要と認める場合（中央畜産会長賞（特別賞））に限る。

⑴　家族経営協定を締結していること。
⑵　経営主の配偶者の作業分担、経営主の従事日数に対して配偶者の従事日数が概ね５割に達していることが確認できること。
⑶　農業改良普及センターまたは類似の普及指導組織等による意見書が添付されていること。

7　行　事

１）発表会

参加畜産経営者等ならびに畜産会等関係者の参集のもと、令和５年11月に東京都内において発表会を開催し、優秀な実績および特色ある取り組みや活動内容について普及拡大に資する。

２）農林水産祭への参加

この行事は「農林水産祭」に参加する予定である。

8　費用の負担

この事業に要する費用は、中央畜産会が負担する。

9　告知日

令和５年４月３日

10　その他

本要領に定めのない事項については、中央畜産会会長が別に定める。

協賛団体・企業一覧

一般社団法人家畜改良事業団
一般社団法人全国酪農協会
一般社団法人中央酪農会議
一般社団法人酪農ヘルパー全国協会
一般社団法人日本ホルスタイン登録協会
全国肉牛事業協同組合
日本養豚事業協同組合
協同組合日本飼料工業会
一般社団法人日本養豚協会
一般財団法人生物科学安全研究所
公益社団法人日本獣医師会
一般社団法人日本草地畜産種子協会
公益社団法人日本食肉格付協会
公益財団法人日本食肉生産技術開発センター
公益社団法人全国農業共済協会
公益社団法人畜産技術協会
一般財団法人畜産環境整備機構
日本酪農政治連盟
株式会社農林放送事業団
オリオン機械株式会社
全農畜産サービス株式会社
株式会社ダイヤ
株式会社チュウチク
デザミス株式会社
デラバル株式会社
株式会社中嶋製作所
パナソニック環境エンジニアリング株式会社
株式会社ピュアライン
ヨシダエルシス株式会社
よつ葉乳業株式会社
株式会社日本農業新聞
株式会社コトブキソリューション
株式会社大建情報システム
株式会社南日本情報処理センター
京和工業印刷株式会社
株式会社博秀工芸
株式会社丸井工文社

トップレベルの遺伝子が日本の畜産をサポート

▶優良遺伝子の生産・供給

▶能力検定と最新情報の提供

▶改良・繁殖技術の研究開発

P黒1125 ふくのつる
福之鶴

一般社団法人 家畜改良事業団

〒135-0041 東京都江東区冬木 11-17 イシマビル
TEL：03(5621)8911(代) FAX：03(5621)8917

JP5H60991
セカンド ループ

一般社団法人 **全 国 酪 農 協 会**

会 長 砂 金 甚太郎
副 会 長 佐 藤 哲
副 会 長 隈 部 洋
常務理事 三 国 貢

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館５階
TEL03-3370-5341 FAX03-3370-3892

一般社団法人 **中央酪農会議**

会 長 山野 徹

〒１０１－００４４
東京都千代田区鍛冶町２－６－１
堀内ビルディング４F
TEL ０３－６６８８－９８４１
FAX ０３－６６８１－５２９５
URL https://www.dairy.co.jp

全国の酪農家が
あなたを待っています!!

協会ホームページ

一般社団法人酪農ヘルパー全国協会

TEL 03（5577）5135 FAX 03（5577）5136
E-mail: info@d-helper.lin.gr.jp

第16回全日本ホルスタイン共進会
令和7年10月25・26日 北海道にて開催！！！

乳牛改良の原点は血統登録です。
登録申込書が不要、登録料金が割安等の利点が多い「**自動登録**」について、
本年も普及推進に努力いたします。

一般社団法人 日本ホルスタイン登録協会 C・A・J
〒164-0012 東京都中野区本町四丁目38番13号 電話03(3383)2501
北海道支局 〒001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1−5 電話011(726)3111

組合への加入を歓迎します！

全国肉牛事業協同組合
理事長　中林　正悦

肉用牛及び酪農経営コストを低減し儲かる経営のため、預託、共同購買、福利厚生事業等を実施しています。詳しくはホームページをご覧下さい。

〒105−0003　東京都港区西新橋1−22−12　JCビル
TEL 03−3503−8380　FAX 03−3503−8382
URL　http//www.jcic-f1.jp

日本の養豚家を元気にする！日本養豚事業協同組合は生産者による生産者のための組織です。

日本養豚事業協同組合
Japan Swine Farm Business Cooperation
TONJIKYO

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10 八重洲早川第2ビル6階
TEL:03-6262-8990　FAX:03-6262-8991
URL:https://tonjikyo.or.jp　e-mail:info@tonjikyo.or.jp

日本の畜産を力強く支えていきます
協同組合　日本飼料工業会

〒106-0041　東京都港区麻布台2丁目2番1号
TEL　03-3583-8031　　FAX　03-3583-8020
http://www.jafma.or.jp/

❖北海道支部　❖関東支部　❖中部支部　❖関西支部　❖九州支部
各支部連絡先 ： 支部支援室【住所・TEL・FAXは上記と同じ】

食べないなんて もったいない！

国産豚肉を生産している農場情報が分かる
JPPA 国産豚肉 農場トレーサビリティシステム
豚トレ

高品質で安全な
国産豚肉

日本の豚肉生産の応援団になって下さい！

（一社）日本養豚協会（JPPA）
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-27-15-2F
TEL：03-3370-5473 FAX：03-3370-7937
ホームページ：http://pig.lin.gr.jp/

RIAS 一般財団法人 生物科学安全研究所

動物の感染症検査、畜産物の残留検査等を受託しています

★ 牛伝染性リンパ腫、豚繁殖・呼吸障害症候群等の各種感染症検査
（抗体検査、遺伝子検査、細菌検査等）
飼料・畜産物への動物用医薬品等の残留検査、黒豚 DNA 検査、環境毒性試験等
検査の詳細、「料金表」のご要望は、HP の「お問い合わせフォーム」からお願いします

神奈川県相模原市緑区橋本台 3 丁目 7 番 11 号
TEL：042-762-2775(代) URL：https://www.riasbt.jp

RIAS 検索

いのちみつめる。いのち育む。
公益社団法人 日本獣医師会

会長	藏内勇夫
副会長	砂原和文
副会長	鳥海弘
副会長	栗本まさ子
専務理事	境政人

〒107-0062 東京都港区南青山 1－1－1 新青山ビル西館 23 階
電話 03－3475－1601 FAX 03－3475－1604

今こそ、飼料増産を！

《話題の新品種》

道東１号	きららワセ	はやまき18	Kyushu1
ペレニアルライグラス	イタリアンライグラス	イタリアンライグラス	イタリアンライグラス

夏ごしペレ	つきはやか	つきあやか	つきすずか
ペレニアルライグラス	極短穂WCS用イネ	極短穂WCS用イネ	極短穂WCS用イネ

GAFSA

一般社団法人 **日本草地畜産種子協会**

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町８　NCO神田紺屋町ビル

TEL（03）3251-6501　　FAX（03）3251-6507

JMGA JAPAN MEAT GRADING ASSOCIATION

公益社団法人

日本食肉格付協会

会長　大　野　高　志

〒101－0063

東京都千代田区神田淡路町2－1－2　(NCO神田淡路町 2F)

電 話 03(3257)0220 (代)　　FAX 03(3257)0224

URL:http://www.jmga.or.jp

JAMTI

公益財団法人日本食肉生産技術開発センター

東京都港区赤坂6-13-16（アジミックビル４F）

TEL. 03-5561-0786　FAX. 03-5561-0785

理事長　宮坂　亘

一緒に見つけませんか

安心のネットワーク NOSAI
備えの種をまこう。

農業の明日

営農、暮らし、地域の活性化へ

どんな地方でも…
各戸に郵送される農業専門紙
中央と全国の農家とを
固く結ぶ定期便です

ノーサイくん

農業共済新聞

毎週水曜日発行
月ぎめ 四九五円
年ぎめ 五五二〇円（送料共）

家畜診療

農業共済獣医陣唯一の
技術指導専門誌
月刊・定価九二〇円（送料共）

発行所 公益社団法人 全国農業共済協会 東京都千代田区一番町19 TEL 03（3263）6413 FAX 03（3221）7978

JLTA

公益社団法人 畜産技術協会

会長 石原哲雄

月刊「畜産技術」
「牧草・毒草・雑草図鑑」
「和英・英和畜産用語集」
「全国畜産関係者名簿」
「世界家畜品種辞典」

〒113-0034 東京都文京区湯島3-20-9 TEL 03(3836)2301 FAX 03(3836)2302
http://jlta.lin.gr.jp/

ちくかんリースで、日本の畜産を元気に

畜産環境整備機構は、畜産農家の皆さまを機械や施設等のリースで応援しています。また、畜産環境の技術開発や堆肥の分析なども行っています。

https://www.leio.or.jp

一般財団法人 畜産環境整備機構
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-12-1
☎ 03-3459-6300 FAX 03-3459-6315

牛乳の力・
日本の力！

日本酪農政治連盟

委員長　佐藤　哲

〒151-0053　東京都渋谷区代々木1-37-2　酪農会館５F
TEL03（3370）1741（直通）FAX03（3370）1779

受賞者の皆様　おめでとうございます。

がんばる！畜産！7

（公社）中央畜産会の畜産映像情報は２つのメディアでご覧になれます。
（公社）中央畜産会ホームページ　http://jlia.lin.gr.jp/ganbaruchikusan/
BS234ch グリーンチャンネル　毎週月曜～金曜午前７時～７時30分

農林放送事業団
東京都千代田区神田淡路町2-23-2
TEL　03-6260-7617

GEA　ORION

ORION for DAIRY

哺乳

子牛を個別飼育して
しっかり管理したいが…

その管理にかかる労働力と時間、
負担になっていませんか？

個体別 自動哺乳ロボット

※カーフレールは、カーフフィーダーとの併用が必要です。

カーフレール

HPでは
導入事例を動画で
ご紹介しています。▶▶

カーフレールは子牛の成長サポートと哺育作業の省力化を同時に実現します。

哺乳頻度や給与時間、ミルクの濃度を自由に設定でき、増体の促進と健康をサポート。
哺乳プランを複数設定することで和牛向けの哺乳等にも対応。*1
最大8回/日給与、最大32頭哺乳可能で、自動で多回数哺乳を実施。*2
PCや端末でアプリ（カーフアップGO!）にアクセスし、いつでも哺乳状況やアラームの確認が可能。

*1：群飼と個別飼の併用の場合、哺乳プランは制限されます。　*2：機械の最大能力値です。ご使用条件により最大哺乳頭数は変わります。

精密管理　個別のハッチに入った子牛に多回数哺乳でき、哺乳量等も記録できます。

省力化　ミルクを作る時間や哺乳の時間、哺乳瓶の洗浄時間を自動化できます。

IT化　アラームが出ている子牛をリストアップし、疾病の早期発見に役立ちます。

オリオン機械株式会社
www.orionkikai.co.jp

北海道オリオン株式会社　tel.011-865-3111
中央オリオン株式会社　tel.048-522-5395
西日本オリオン株式会社　tel.092-477-8480

私たちは、いのちを育み、豊かな食を創造し、
みんなの笑顔をサポートします。

全農畜産サービス株式会社
ZEN-NOH LIVESTOCK CO., LTD.

家畜（種豚・乳牛）と畜産一般資材やICT・IoT機器などを販売する畜産専門会社です。

〒135-0041　東京都江東区冬木11-17
TEL:03-5245-4871 FAX:03-5245-2424

ジェイロアミキサー

ChuChiku

MODEL 5650/5100 JAY•LOR

大規模牧場に最適

MODEL 5650 TWIN AUGER MIXERS

■容量 19 ㎥■全高 2590 ㎜■全長 7370 ㎜■全幅 2310 ㎜

標準装備

◆スクエアーカットオーガ（世界特許）

この四角形のスクリューが撹拌スピード、均一撹拌を生み出す心臓部です。1分間に41回転という信じられないスピードで混合、粗飼料をカットしていきます。

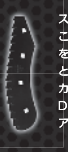
◆オリジナル計量器

表示部が大きく、見やすく、操作も簡単なシンプル設計です。

◆ミックスビューウインドウ（世界特許）

ミキサーに登らなくても撹拌状態が確認できるよう、タンク側面に「のぞき窓」を全機種に採用。安心・安全に作業する事が出来ます。

◆タングステンカーバイトナイフ



スクリューの形状とこのナイフで粗飼料を鋭利に切断することにより、他のバーチカルミキサーに比べ、DMI(乾物摂取量)がアップします。

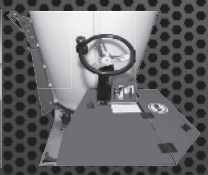
●スクエアーカットオーガだから1分間に41回転という高速を実現！撹拌時間が短く、均一に混合します。
●タングステンカーバイトナイフで鋭利に粗飼料をカットするので、切断面が良く、DMI(乾物摂取量)のアップ、乳量アップ、良好な食い込み効果が期待出来ます。
●大きな排出口と、高速回転で、排出時間を大幅に短縮！羽根の上、タンクの中の残餌もほとんどありません。
●調理時間を大幅に短縮出来るので、牽引用トラクターの燃料代等経費を削減出来ます。

小規模牧場に最適

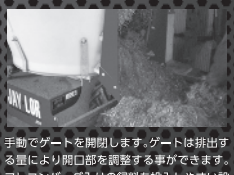
MODEL 5100 TWIN AUGER MIXERS

■容量 2.58 ㎥■全高 1850 ㎜■全長 3280 ㎜■全幅 1230 ㎜

操作方法



コントロールペダルを踏み込むと前後進し、放すとブレーキがかかります。ハンドルはレバーを回し、左右旋回します。



手動でゲートを開閉します。ゲートは排出する量により開口部を調整する事ができます。フレコンバッグ入りの飼料を投入しやすい設計になっています。オリジナルオーガを使用しているので残餌もほとんどありません。

標準装備

◆オーガ・ナイフ

エンジン駆動で撹拌します。

◆計量器

正確な配合撹拌、給餌ができます。

●エンジン駆動の乗用型で楽に給餌することができます。　●フリーストール・フリーバーンのセカンドミキサーに最適。(乾乳用・病畜群用など)
●フレコンバッグ1梱包の飼料が楽に入る大きさです。　●タングは腐食・摩耗に強いポリエステルを採用。

※機構・仕様等は予告なく変更することがあります。ご了承ください。

未来の畜産を創造する
株式会社 チュウチク

コンプリート部
〒441-8062 愛知県豊橋市東小浜町8番地
[TEL]0532-46-1211 [FAX]0532-48-5141

チュウチク ホームページ
http://www.chuchiku.co.jp
チュウチク　検索

Panasonic

パナソニックがご提案する
畜産飼養環境ソリューション

畜舎設計　シミュレーション解析

高効率生産の追求
～面積当たりの生産を最大に～

パナソニック環境エンジニアリング株式会社

閉鎖型牛舎

2 in 1　システム鶏舎

愛知県春日井市鷹来町字下仲田４０１７番
パナソニックエコシステムズ（株）内 Ｇ１棟２階
TEL：0568-81-1162　　FAX：0568-84-5577

SKOV ProGrow（プログロー）

～ 群単位での増体管理システム ～

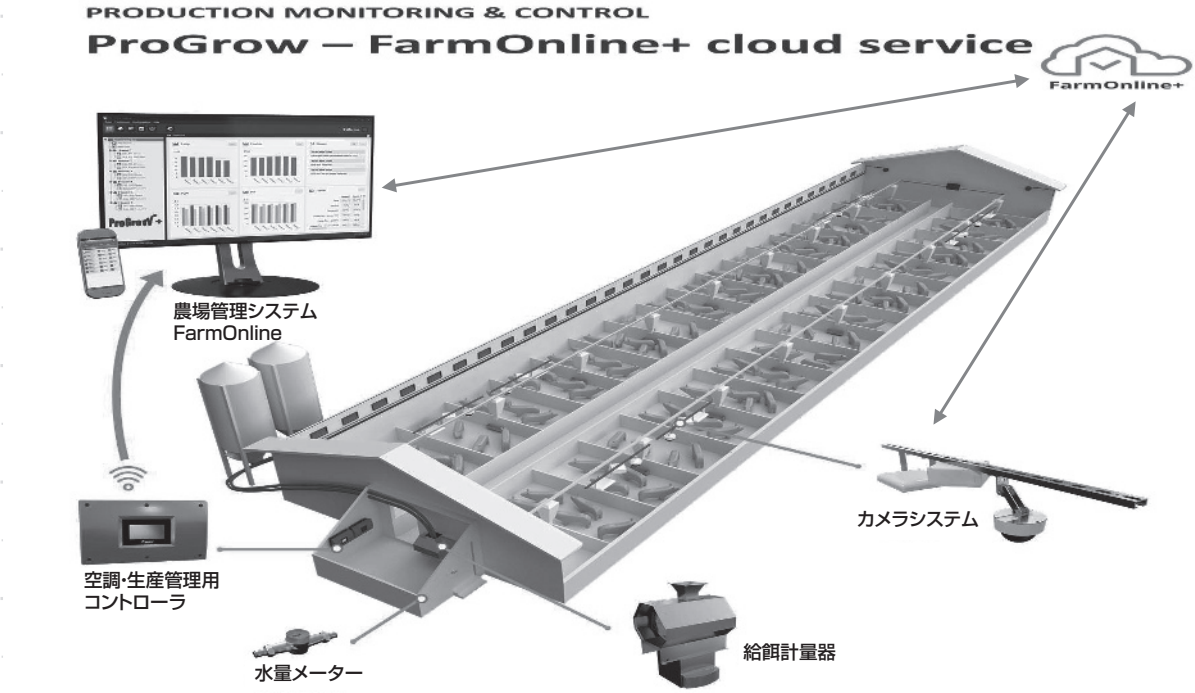
生産状況の把握から迅速な生産戦略の対応

離乳子豚舎や肥育豚舎における最高の結果を達成するには給餌量・飲水量を把握し、効率的な制御を行うことが重要です。

ProGrowはカメラからの画像をアルゴリズムにより分析し、体重の測定データを基に配合飼料を混合させ制御を行うことで生産性向上に寄与します。

システム構成

- **生産管理コントローラー**
  最大5基の飼料タンクから餌を混合することができ、同時に飲水量を把握します。
- **体重計測カメラ**
  カメラからの最新体重情報を把握し、適切な給餌量を調整します。
- **ファームオンライン**
  舎内空調情報と豚の増体の相関関係を把握する事ができます。



ROTECNA DOSITRONIC（ドシトロニック）

～ 母豚用給餌計量システム ～

妊娠、分娩の条件に合わせて給餌量を最適化

母豚にとってのメリット

- 飼料の食い込みを増加できます。
- 母豚の泌乳量増加と良好なボディコンデション維持に寄与できます。
- 繁殖力、出生率、次回妊娠子豚の産子数が向上します。
- １日給餌量を分割し過食と遊び餌を最小化にします。

分娩に際して多産性を向上させるには飼料摂取量の管理が必要となります。

本システムは電子式給餌機で、母豚の飼料摂取パラメータを1頭毎に個別化しソフトウェアで管理することで、個々の母豚の要求に合わせた給餌量を最適化し分娩結果を向上させます。

daiya

株式会社 ダイヤ　〒014-0072 秋田県大仙市大曲西根字上野140-1（大仙市大曲企業団地内）　TEL:0187-88-8553　FAX:0187-88-8554

【各支店･営業所】
□北海道支店／TEL:011-873-7331　FAX:011-873-7343
□関東営業所　TEL:0296-45-5011　FAX:0296-45-5012
□青森営業所／TEL:0178-56-5466　FAX:0178-56-5466
□九州営業所／TEL:0995-64-2777　FAX:0995-64-2778

牛の異常を知らせて損失を減らすマルチなセンサー

1 複数のアラート

発情兆候 対象 繁殖・一貫・酪農

疾病傾向 対象 繁殖・肥育・一貫・酪農

起立困難 対象 肥育

分娩兆候 対象 肥育・一貫・酪農

※オプション

様々なアラートで見逃し防止や観察の負担を軽減

疾病や発情、起立困難など、人による対処が必要と思われる牛を人工知能が発見し、アラートでお知らせ。早期発見をサポートし、疾病の重症化や発情の見逃し、起立困難による死亡事故などの防止に繋げます。

牛のモニタリングシステム

motion

2 全畜種・全期間対応

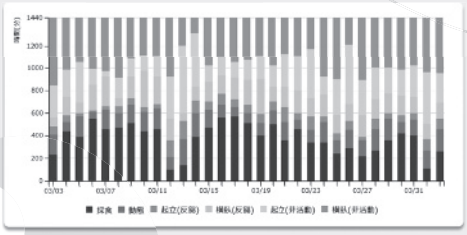
畜種を問わず子牛から成牛まで全期間装着可能

複数の機械を必要とせず、1台で牛の一生をカバー。別の牛への付け替えが可能で、注意して観察したい時期だけ装着することもできます。

3 行動をグラフで可視化

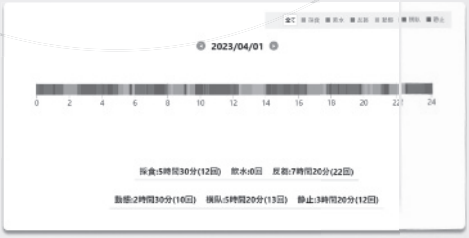
活動量推移

1日の累計行動を棒グラフで表しています



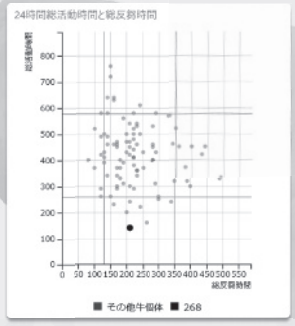
タイムバジェット

牛がいつ何をしていたかを時系列で示しています



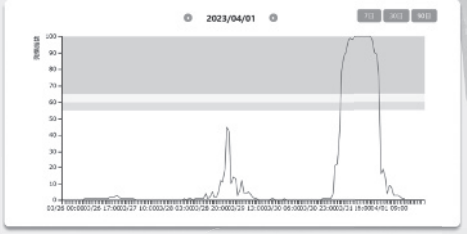
散布図

牛群ごとの活動量を表しています



発情指数グラフ

発情時の行動を検知し、その強度を折れ線グラフで示しています



牛の行動を一目で把握できる

牛の行動を6つに判別し、行動の時間や強度を様々なグラフで可視化します。

4 データはクラウドへ

タイムライン

牛に関する様々な情報をクラウド保存

データはクラウドに保存するため、消える心配がありません。アラートや治療などの履歴を記録し、いつでも確認できます。さらに条件を設定したリストを使用して特定の牛を自動的に抽出し、注視すべき牛が一目瞭然となります。

desamis

「デザミス」でWeb検索

@desamis_0601

デザミスチャンネル

デザミス株式会社 〒135-0064 東京都江東区青海 2-7-4 the SOHO 417 TEL : 03-6380-7239 Mail : contact@desamis.co.jp Web : https://www.desamis.co.jp

酪農家と乳牛に、新しい体験を。

DeLaval VMS™ V300

デラバル 株式会社
北海道 札幌市北区北７条西１-２-６ NCO札幌14F
TEL.011-738-2311
WEBサイトはこちらから
https://www.delaval.com/ja/

Poultry Layer ナカマチック® Pig Beef
想いを集め技術をカタチに

株式会社 中嶋製作所
中嶋製作所 検索
【本社・工場】
〒388-8004 長野市篠ノ井会33番地
TEL.026-292-1203(代表)
FAX.026-293-1611
SDGs REGISTERED PARTNER NAGANO PREFECTURAL GOVERNMENT
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
長野県登録[182]号

「何よりも酪農家のために」それがピュアラインのテーマです。

ターナー社
パラレルパーラーストール
【オートスタート付き自脱】

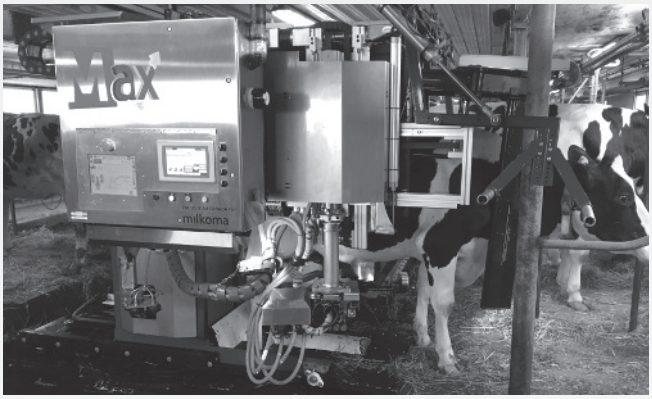
見えない所まで高い技術力が活かされている実績で証明される APユニットが標準仕様です。

ストランゴ
ロータリーパーラー
【オートスタート付き自脱】

牛にとって最適な環境と最小のストレスは、ストランゴの最優先事項です。APユニットが標準仕様です。

ストランゴ（1,000ℓ～30,000ℓまで）
バルククーラー
▶高い技術力と探求心が繊細なミルクの品質を守ります

繋ぎ牛舎用搾乳ロボット ロボマックス
【APライナーを標準装備しています】
▶酪農家の皆さんに誇れる製品として提供しています



ロビベック社は40年以上
餌について常に 嗜好品 作りを追求しています。

ロビベック自動給餌ロボット
【充電不要】

ソフト撹拌
24時間給餌

DEC-4448 型
DEC-4442 型
DEC-4436 型
DEC-4430 型

DEC-HDR 型
《餌寄せ標準装備》

ロールベール
PF600も取り
揃えております

誰も考えた事もない ▶餌寄せ作業の負担軽減

ROVER ローバー給餌機
〔電導レール仕様で 走行用H形鋼 走行用バッテリー不要〕

ロビベック給餌ロボットの目的は
飼料をおいしい嗜好品へと変えることです

ローバーはトロリーバスのように“地面”を走行しますので、走行用H形鋼レールの設置が不要となります。このほか、攪拌方式などにも違いがありますので、牛舎の状況等に応じてご選択いただけます。

《餌寄せ機能標準》　常に飼料を撹拌して給餌

国内総輸入元
株式会社 ピュアライン
PURE LINE COMPANY LIMITED
詳しくは最寄りの営業所までお気軽にお問い合わせください。
本　　社 ●〒154-0022 東京都世田谷区梅丘1-24-12 ピュアライン第7ビル ☎03-3420-7311(代)
商品配送センター ●〒370-0102 群馬県伊勢崎市境上渕名1313-2 ☎0270-76-4611(代)
http：// www.pureline.ne.jp　E-mail:head_office@pureline.ne.jp
●北海道営業所 ☎011-772-7711　●道北営業所 ☎0162-82-3511　●帯広営業所 ☎0155-21-3511　●中標津営業所 ☎0153-72-2211
●北見営業所 ☎0157-25-1231　●東北営業所 ☎019-643-1211　●群馬営業所 ☎0270-76-4611　●東京営業所 ☎046-239-0711
●九州営業所 ☎096-389-7811　●山口出張所 ☎083-986-4611

全自動養鶏システム

ヨシダエルシス株式会社
https://www.yoshida-lsys.com
代表取締役　吉田　卓司
本社・工場　和歌山県御坊市藤田町吉田155
〒649-1342　TEL 0738-22-2111　FAX 0738-22-8885
東京支店　東京都千代田区飯田橋3-4-10
〒102-0072　TEL 03-3511-0033　FAX 03-3511-3400

北海道十勝
Hokkaido Tokachi

乳原料 北海道十勝産100%

よつ葉乳業株式会社　https://www.yotsuba.co.jp/
北海道のおいしさを、まっすぐ。
よつ葉

農業・JA・地域をつなぐ全国メディア

農村マーケットを対象にした広告・PRは日本農業新聞がお手伝いします。

JA（農協）グループが発行する農業の専門紙です
全国のJAなどが出資している日本農業新聞が発行しています。農家組合員とJAグループをつなぐ農業の専門紙です。

国内最大の発行部数
農業専門日刊紙として最大の部数を誇ります。全国の拠点で印刷し、毎朝、一般紙朝刊と同じように宅配しています。

農家を主体に幅広い層に読まれています
地域のリーダー的な農家やJA役職員が読者の８割を占めており、関係省庁・団体・地方自治体、農業関連企業、生協、市場関係やスーパーなど幅広い層の方々に読まれています。

お問い合わせは、日本農業新聞広告部
Eメール koukoku@agrinews.co.jp
THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞

コトブキソリューションは、
2つの事業で成り立っています。

システム開発事業

拠点：本社（呉市）、広島支社（広島市）、
東京支社（東京都新宿区）

WEBシステム、データベース、
組み込み系開発等々
様々なシステム開発を行っています。

ゲーム事業

拠点：東広島スタジオ（東広島市）、
大阪スタジオ（吹田市）

ブランド名 KEMCO（ケムコ）にて、
ゲームの企画、開発、販売
を行っています。

kemco
www.kemco.game

「ケムコ」で検索をしてみてください。
私たちの作品を見ることができます。

KOTOBUKI SOLUTION
株式会社コトブキソリューション

URL https://www.ksol.jp
お問い合わせメール info@ksol.jp

●東京支社
〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-8-1 大橋御苑駅ビル 2F
TEL 03-3225-3515　FAX 03-3225-5445

●本社
〒737-0046 広島県呉市中通 2-6-6 寿工業ビル
TEL 0823-21-4956　FAX 0823-21-8800

私たちはITで畜産経営を応援します

畜産経営管理支援ツールの開発・提供
予算管理システムの開発・提供
地図情報システムの開発・提供
システム利用に関するご提案・ご支援

株式会社大建情報システム
Daiken Information System Inc.

〒111-0041　東京都台東区元浅草2丁目6番6号　東京日産台東ビル4階
URL　http://www.daiken-system.co.jp
担当：営業部　池田

ISO 9001 RB-ISO　ISO/IEC 27001 RB-ISO

MICはICTを通して畜産業をサポートします！

繁殖・肥育　牛管理システム

家畜せりシステム

特許出願中
食肉管理システム

特許出願中
食肉検査システム

MIC Minaminihon Information Processing Center
株式会社南日本情報処理センター
〒891-0115 鹿児島市東開町4-104　TEL: 099-269-9711

●総合印刷●情報関連●総合企画・デザイン●出版関連

京和工業印刷㈱

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目18番地6号
TEL.03(3356)3591(代) FAX.03(3356)3593
Eメール：kyouwakougyo@ia0.itkeeper.ne.jp

新しい発想でさまざまな変化を受入れ　素早く適応し
より経験豊富なチームで動きはじめています

HAKUSHU ARTS
株式会社 博秀工芸
代表取締役　村瀬 科博

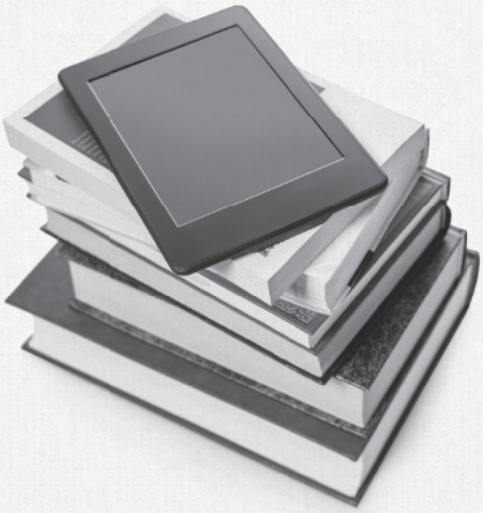
〒113-0034 東京都文京区湯島3-21-4 第1三倉ビル7F
Tel. 03-3836-3680
http://www.hakushu-arts.co.jp/

IS 518517 / ISO 27001

グラフィック（DTP・展示・WEBサイト）
企画・デザイン及び印刷業務、シンポジウム運営業務

紙もデジタルも、
新たな価値へ
つなぎます。

今からおよそ100年前、「文字の一字一字を大切にしたい」と強い思いを抱く、生粋の文学青年がおりました。やがてそれは、「文化を下支えする文字の印刷を通じて、豊かな社会に貢献したい」という考えに至り、70年前に弊社が生まれました。
70年間は、まさに時代の変遷や社会のニーズに合わせて、常にお客さまにとっての「役に立つ同伴者」を目指して走り続けて参りました。
それは、これから先もずっと変わりません。



MARUI kobunsha since1950

株式会社 丸井工文社
〒107-0062　東京都港区南青山 7-1-5
TEL：03-5464-7111（代）　FAX：03-5464-7112

M E M O

M E M O

畜産映像情報

がんばる！畜産！7

日本中央競馬会
特別振興資金助成事業

今、畜産業は担い手不足や国際化の進展など、大きな変化の局面にあります。そんな中、飼料を自ら生産したり、省力化を図ったりと、さまざまな工夫で素晴らしい経営を行っている生産者がたくさんいます。

このサイトでは、そうした各地の優れた畜産経営や、後継者の活躍、おいしくて安全な畜産物を消費者の方々に届けるまでを映像で紹介します。

この映像情報を生産者の方はもとより消費者の方々と共有することで、元気で健全な畜産の発展につなげることを目指しています。

なるほど！畜産現場

このコンテンツでは、畜産物ができるまでや、現場を支える職人たち、馬事文化などあまり知られていない様々な畜産現場を紹介します。

●配信中の内容●

畜産 DX 特集　総集編　養鶏・養豚の今に迫る／総集編 国際養鶏養豚総合展 2022 ／沖縄県牛の島、黒島の畜産の歴史　ほか

畜産トレンド発見！

このコンテンツでは、生産現場での省力化技術や、飼料用米やエコフィードなどの活用による飼料コスト削減など、「技術」に着目して各地の事例を紹介します。

●配信中の内容●

総集編 若き情熱！全国和牛能力共進会　特別区／コントラクターと連携　大分県高田牧場／総集編　いま国産の粗飼料を支える！　ほか

グリーンチャンネル
でも放送中

--- 放送日 ---
毎週月～金曜日
朝７時～

「がんばる！畜産！７」
URL：https://jlia.lin.gr.jp/ganbaruchikusan/

（お問合せ先）
公益社団法人中央畜産会　経営支援部（情報）
TEL：03-6206-0846　FAX：03-5289-0890

これからの未来のために

暮らしのチカラに、地方競馬

地方競馬の売上げの一部は、畜産振興および
地方財政の改善に活用されています。

NAR 地方競馬全国協会

https://www.keiba.go.jp/

くわしくは、地方競馬情報サイト「KEIBA.GO.JP」からご覧になれます。